

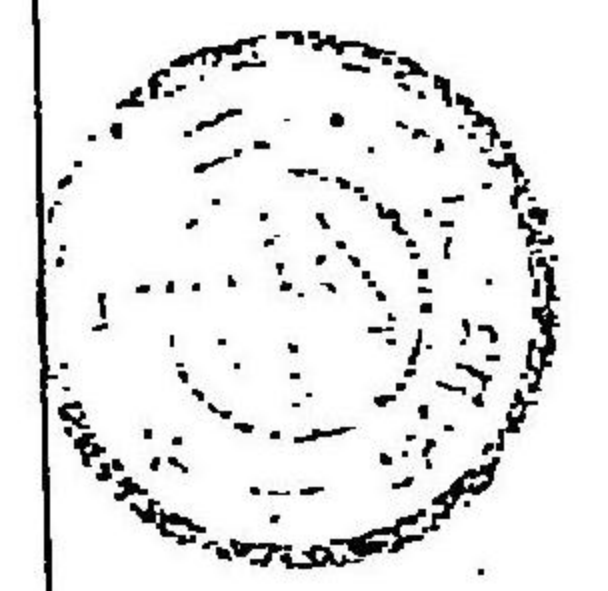
10-3817

№1243/1910



民事訴訟提要 全

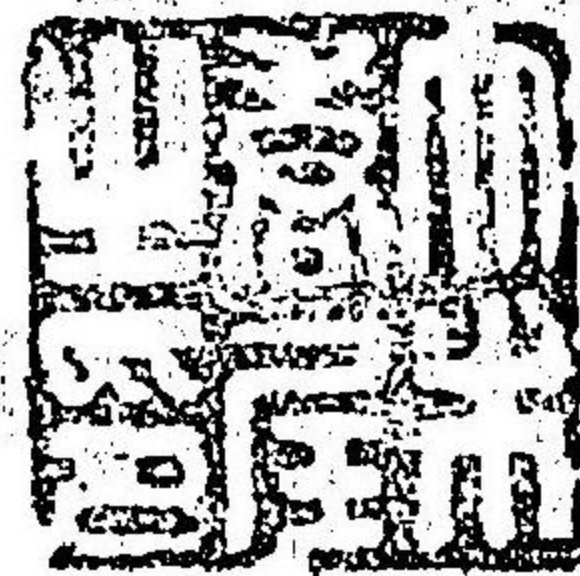
樞密議長 大木伯題字
代 言 士 齋 藤 孝 治
司 法 屬 緩 鹿 實 彰 合 著



發賣所 東京 明法堂

物無自裁之能
因法而正節法
子之自顯之力有
人而正誠法哉

人裁人裁法裁
 方中管法



民事訴訟提要目次

第一編 總說

第一章 裁判所

第一節 裁判所ノ管轄	二	丁
第一款 法律上ノ裁判所ノ管轄	三	丁
第一 事物ノ管轄	三	丁
第二 土地ノ管轄	六	丁
(甲) 普通管轄	六	丁
(イ) 住所ニ付テノ普通管轄	六	丁
(ロ) 住所ニ因テ定マラサル普通管轄	八	丁
(乙) 特別管轄	九	丁
第三 上級裁判所ノ指定スル管轄裁判	九	丁

目次

第四 當事者ノ合意ニ因ル裁判管轄

十四丁

第二章 當事者

十六丁

第一節 訴訟能力

十七丁

第二節 共同訴訟人

二十丁

第三節 第三者ノ訴訟參加

二十二丁

第一款 主參加

二十三丁

第二款 從參加

二十四丁

第三款 告知參加

二十九丁

第四款 指名參加

三十一丁

第四節 訴訟代理人及輔佐人

三十二丁

第一款 訴訟代理人

三十二丁

第二款 輔佐人

三十八丁

第五節 訴訟費用

三十九丁

第六節 保証

四十九丁

第七節 訴訟上ノ救助

五十二丁

第三章 訴訟手續

五十七丁

第一節 口頭辯論及ヒ準備書面

五十七丁

第一款 準備書面

五十七丁

第二款 口頭辯論

六十丁

第二節 送達

六十九丁

第三節 期日及ヒ期間

七十七丁

第一款 期日

七十七丁

第二款 期間

八十丁

第四節 懈怠ノ結果及ヒ原狀回復

八十四丁

第五節 訴訟手續ノ中斷及ヒ中上

八十七丁

第一款	訴訟手續ノ中斷	八十七丁
第二款	訴訟手續ノ中止	九十一丁
第三款	訴訟手續ノ休止	九十二丁
第四款	訴訟手續ノ中斷及ヒ中止ノ効力	九十三丁
第二編 第一審訴訟手續		
第一章 地方裁判所ノ訴訟手續		
第一節 判決前ノ訴訟手續		
第一款	訴ノ提起	九十四丁
第二款	答辯書其他ノ準備書面	九十八丁
第三款	口頭辯論	百一丁
第二節 證據調ノ總則		
第一款	人証	百十丁
第二款	鑑定	百二十五丁

第三款	書證	百二十八丁
第四款	檢證	百三十八丁
第五款	當事者本人ノ訊問	百三十九丁
第六款	證據保全	百四十丁
第三節 判決		
第四節	缺席判決	百四十三丁
第五節	計算事件財産分別及ヒ此ニ類スル 訴訟ノ準備手續	百四十九丁
第二章 區裁判所ノ訴訟手續		
第一節	通常ノ訴訟手續	百五十五丁
第二節	督促手續	百五十九丁
第三編 上訴		
第一章 控訴		
		百六十二丁
		百六十八丁
		百六十八丁

第二章	上告	百七十九丁
第三章	抗告	百八十八丁
第一節	通常抗告	百八十八丁
第二節	即時抗告	百九十二丁
第四編	再審	百九十三丁
第五編	證書訴訟及爲替訴訟	二百一丁
第一章	證書訴訟	二百一丁
第二章	爲替訴訟	二百五丁
第六編	強制執行	二百六丁
第一章	總則	二百六丁
第一節	強制執行ノ要件	二百六丁
第一款	執行原因	二百六丁
第二款	執行原因ニ付テノ執行證書	二百十六丁

第三款	其他ノ要件	二百二十一丁
第二節	執行ニ關スル官廳官吏	二百二十三丁
第三節	執行手續ニ關スル異議	二百二十九丁
第四節	強制執行ノ停止及ヒ制限	二百三十四丁
第二章	金錢ノ債權ニ付テノ強制執行	二百三十五丁
第一節	動産ニ對スル強制執行	二百三十五丁
第一款	通則	二百三十五丁
第二款	有體動産ニ對スル強制執行	二百三十七丁
第三款	債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行	二百四十七丁
第四款	配當手續	二百五十七丁
第二節	不動産ニ對スル強制執行	二百六十二丁
第一款	通則	二百六十二丁

第二款 強制競賣	二百六十三丁
第三款 強制管理	二百八十九丁
第三節 船舶ニ對スル強制執行	二百九十六丁
第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行	二百九十九丁
第四章 假差押及ヒ假處分	三百二丁
第一節 假差押	三百二丁
第二節 假處分	三百八丁
第七編 公示催告手續	三百十一丁
第八編 仲裁手續	三百十八丁

書式目次

管轄裁判所指定ノ申請	一
合意上裁判管轄ニ付申請	二
特別代理人選定ノ申請(甲)	三
同上(乙)	三
主參加訴訟	四
主參加ニ付本訴中止ノ申請	六
何々訴訟ニ對スル從參加ノ申請	六
委任狀(甲)	八
同全 (乙)	八
訴訟費用額確定ノ申請	九
訴訟費用額確定口頭申請調書	十
訴訟費用確定決定	十一
書式目次	九

訴訟費用計算書	十二丁
訴訟費用計算調書	十四丁
訴訟上救助申請	十七丁
訴訟上救助口頭申請調書	十八丁
訴訟上救助許可	十九丁
口頭辨論調書	二十丁
假住所御届	二十二丁
訴狀送達狀(甲)	二十三丁
送達狀	二十四丁
郵便送達證書	二十五丁
公示送達申立	二十六丁
公示送達	二十七丁
期日呼出狀	二十八丁
何々期日變更ノ申請	二十九丁
何々期間短縮(伸長)ノ申請	二十九丁
原狀回復ノ申立	三十丁
死跡訴訟受繼人呼出ノ申立	三十一丁
訴訟手續中止ノ申請	三十二丁
訴訟手續休止ニ付御届	三十三丁
相手方呼出ノ申立	三十四丁
賣買代金請求ノ訴	三十五丁
買受物引渡請求ノ訴	三十六丁
貸金請求ノ訴	三十七丁
家賃請求ノ訴	三十九丁
貸家明渡請求口頭訴調書	四十丁
訴狀欠缺補正命令	四十二丁

訴狀送達狀

訴ノ取下

何々訴訟ニ對スル答辨書

何々訴訟ニ對スル反訴

證據調期日通知書

人證申立

證人呼出狀

證人不參届

證人不參罰金決定取消ノ申請

證言拒絶ノ申立

證人忌避申請

宣誓書

證人訊問調書

十二

四十二丁

四十三丁

四十四丁

四十五丁

四十七丁

四十八丁

四十九丁

五十丁

五十一丁

五十二丁

五十二丁

五十三丁

五十四丁

日當(旅費)ノ請求

鑑定申立書

鑑定呼出狀

宣誓書

鑑定人訊問調書

證書提出ノ申立

證書提出ノ訴訟

檢證申立

檢證調書

證據保全申請

判決原本(甲)

判決正本(乙)

判決原本(丙)

五十五丁

五十六丁

五十七丁

五十八丁

五十九丁

六十丁

六十一丁

六十三丁

六十四丁

六十五丁

六十七丁

七十丁

判決正本(丁)

判決送達ノ申立

判決補正ノ申立

判決補充ノ申立

欠席判決ノ申立

欠席判決ニ對スル故障申立

故障棄却ノ申立

準備手續呼出狀

口頭訴調書

和解申立

支拂命令申請

支拂命令口頭申請調書

支拂命令

支拂命令ニ對スル異議申立

支拂命令ニ對スル口頭異議申立調書

支拂命令ニ對スル異議ノ通知書

支拂命令假執行ノ申請

執行命令ニ對スル故障申立書

控訴狀

答辯書

欠席判決ノ申立

訴訟記録送付請求書

訴訟記録送付書

訴訟記録返還書

上告狀

答辯書

七十一丁

七十三丁

七十三丁

七十四丁

七十五丁

七十二丁

七十六丁

七十七丁

七十八丁

八十丁

八十一丁

八十二丁

八十三丁

八十五丁

八十五丁

八十六丁

八十六丁

八十七丁

八十七丁

八十八丁

八十八丁

八十九丁

九十丁

九十一丁

九十一丁

九十二丁

九十二丁

九十三丁

九十三丁

九十三丁

九十三丁

九十三丁

抗告狀

九十六丁

取消ノ訴訟

九十六丁

證書訴訟ノ訴

九十七丁

爲替訴訟ノ訴

九十九丁

爲替訴訟口頭訴調書

百丁

假執行ノ執行文下付願

百一丁

執行文下付願

百二丁

有体動産差押調書(甲)

百三丁

有体動産差押調書(乙)

百七丁

照査調書(丙)

百九丁

有体動産差押調書(丁)

百十一丁

莫實差押調書(戊)

百十四丁

蠲差押調書(己)

百十七丁

執達吏ノ所爲ニ關スル異議申立

百二十丁

確定判決ノ請求ニ關スル強制執行ニ付異議ノ訴

百二十一丁

確定判決ノ請求ニ關スル強制執行中止ノ申立

百二十二丁

強制執行ノ目的物ニ對スル異議ノ訴

百二十三丁

優先辨濟請求ノ訴訟

百二十四丁

動産競賣期日公告

百二十五丁

執行事務届書

百二十六丁

差押命令申請

百二十七丁

差押命令口頭申請調書

百二十八丁

差押命令

百二十九丁

債權轉付申請

百三十丁

債權轉付命令

百三十一丁

債權取立申請

百三十二丁

債權取立命令

百三十三丁

有体動産請求差押命令

百三十四丁

債權計算書差出催告書

百三十六丁

配當期日呼出狀

百三十七丁

強制競賣申立

百三十七丁

不動産競賣手續開始決定

百三十九丁

不動産競賣申立記入嘱託書

百四十一丁

不動産競賣期日公告

百四十二丁

不動産競賣調書

百四十四丁

競落許可決定

百四十八丁

不動産競賣申立記入抹消嘱託書

百四十九丁

強制管理ノ申請

百五十丁

假差押ノ申請

百五十二丁

有体動産(不動産)假差押命令

百五十三丁

債權假差押ノ申請

百五十四丁

債權假差押命令

百五十五丁

假處分申請

百五十七丁

公示催告申立

百五十八丁

公示催告

百五十九丁

除權判決

百六十丁

除權判決不服ノ訴

百六十一丁

除權判決不服ノ訴ニ對スル答辯

百六十二丁

仲裁人選定ニ付相手方へ通知

百六十三丁

仲裁判斷取消ノ訴

百六十四丁

民事訴訟提要目次畢

書式目次

民事訴訟提要

齋藤孝治
合著
緩鹿實彰



第一編 總說

第一章 裁判所

凡ソ裁判所之ヲ分ツテ通常裁判所及特別裁判所ノ二種トス通常裁判所ハ即チ通常民事ニ關スル争訟事件ニ付テノ裁判ヲ爲ス所ナリ而シテ其裁判所ハ左ノ如シ(構第一第二)

第一 區裁判所

第二 地方裁判所

第三 控訴院

第四 大審院

第一編 總說 第一章 裁判所

右四箇ノ裁判所ノ組織權限ハ裁判所構成法ニ之ヲ規定セリ
何人ヲ問ハス訴訟ヲ提起セントスルニハ其訴訟ノ屬スヘキ裁判管轄
ヲ知ラサルヘカラス故ニ訴訟ノ提起前其訴訟ハ何裁判所ノ裁判權内
ニ屬スヘキヤ又何地ノ裁判所ノ管轄ニ屬スヘキヤニ注意スルヲ要
ス若シ其管轄ニ注意セス輕忽ニ起訴スルキハ或ハ區裁判所ノ裁判權
内ニ屬スヘキモノヲ地方裁判所ニ提起シ又或ハ甲地ノ裁判所管轄ニ屬スヘキ
モノヲ乙地ノ裁判所ニ提起シ乙地ノ裁判所管轄ニ屬スヘキモノヲ甲
地ノ裁判所ニ提起スル等ノ不都合ヲ生シ之カ爲メ受理セラレスシテ
貴重ノ時日ト費用トヲ徒費スルノ不利ヲ招クニ至ルヘシ

第一節 裁判所ノ管轄

凡ソ裁判所ノ管轄ハ之ヲ別ツテ三種トス一ニ曰ク法律上ノ管轄二ニ曰
ク上級裁判所ノ指定スル管轄三ニ曰ク當事者ノ合意ニ因ル管轄是レナリ
事物及ヒ土地ニ付テノ管轄ハ之ヲ稱シテ法律上ノ裁判所ノ管轄ト云
フ事物及ヒ土地ノ管轄ニ付テハ被告ハ之ニ從屬セサルヲ得ス而シテ
若シ其意志ニ反シ管轄權ヲ有セサル他ノ裁判所ニ訴ヘラル、キハ之
ヲ拒ムノ權アルモノトス
上級裁判所ノ指定ニ因リ管轄ノ定マルキハ之ヲ上級裁判所ノ指定ス
ル裁判所管轄ト云ヒ當事者ノ合意ニ因リ管轄ノ定マルキハ之ヲ當事
者ノ合意ニ因ル裁判管轄ト云フナリ

第一款 法律上ノ裁判所ノ管轄

第一 事物ノ管轄

裁判所ノ事物ノ管轄ハ法律上ノ裁判所ノ管轄ノ一ニシテ訴訟事件ノ
價額若クハ種類ニ依リ之ヲ定ムルモノナリ(訴第一)而シテ第一審ノ裁
判所權限ハ即チ左ノ如シ(第三審及ヒ第三審ノ裁判所權限ハ此第一審裁判
所ノ權限ヨリ生スルモノトス)

一 區裁判所ニ於テハ左ノ事項ヲ審理判決ス(構第一四)

第一 百圓ヲ超過セサル金額又ハ價額百圓ヲ超過セサルモノニ關ル請求

第二 住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占據若クハ修繕ニ關リ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押タルコトニ關リ賃借人ト賃借人トノ間ニ起リタル訴訟

第三 不動産ノ經界ノミニ關ル訴訟

第四 占有ノミニ關ル訴訟

第五 雇主ト雇人トノ間ニ雇期限一年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

第六 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送料ニ付旅人ト旅店若クハ飲食店ノ主人トノ間ニ又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

第七 旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物金錢又ハ有價ニ關シテ此等ノ者ノ間ニ起リタル訴訟
區裁判所ハ裁判所構成法及ヒ民事訴訟法其他ノ特別法ニ依リ以上ノ外尙ホ數多ノ事件ヲ管轄ス特ニ督促手續強制執行ノ如キ其管轄スル所タリ(訴三六六第三八三第五四三第六四一第七一八第七三九第七六一構一七)

二 地方裁判所ニ於テハ左ノ事項ヲ審理判決ス

第一 區裁判所ノ權限ニ關リテ起リタル訴訟

第二 裁判所構成法第三十八條ニ規定シタル皇族ニ對スル民事訴訟ニシテ控訴院ノ權限ニ專屬スルモノヲ除ク外總テノ民事訴訟

(構第二六)

地方裁判所ハ上ニ掲ケタル事件ノ外婚姻事件及ヒ養子縁組ニ關スル訴訟ヲ專屬管轄ス(明治廿三年十月法律第四號)

又公示催告手續ニ於テノ不服申立モ亦其管轄ニ属ス(訴第七七四構第三〇)

第二 土地ノ管轄

裁判所ノ土地ノ管轄モ亦法律上ノ裁判所ノ管轄ノ一ニシテ地域上ニ於テ定メタル管轄ナリトス(例ハ京橋區裁判所ハ京橋區日本橋區ヲ管轄シ下谷區裁判所ハ神田區下谷區等ヲ管轄スト云フ如キ是レナリ何故ニ此管轄ヲ定ムルヲ要スルカト云フニ若シ此定メナカリセハ假令ハ訴訟物ノ價額ニ依リ之ヲ區裁判所又ハ地方裁判所ニ訴フヘキコトノ明瞭ナル場合ト雖モ何地ノ裁判所ニ訴ヘテ被告人ヲ召喚シ得ヘキヤ否ヲ知ルコト能ハサルヘシ是レ地域上ノ管轄ノ定メアルヲ要スル所以ナリ)

土地ノ管轄ハ之ヲ別ツテ二種ト爲ス一ニ曰ク普通管轄ニ二曰ク特別管轄是レナリ

(甲) 普通管轄

(イ) 住所ニ付テノ普通管轄

普通裁判籍ハ各人ノ住所所在地ノ裁判所ノ管轄ニ属ス其住所ハ各人ノ確然タル住所ニシテ其經濟上及ヒ生活上ノ中心ナルモノヲ云フ(訴

第一〇)

軍人軍属ニ付テハ其兵營地又ハ軍艦定繫所ヲ以テ其住所ナリトス然レトモ此規定ハ軍事ニ服スルヲ以テ其生活トスル所ノ者ニ限り適用スヘキモノニシテ彼ノ兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人軍属ニハ之ヲ適用スルコトヲ得サルナリ(民訴第一一)(兵役義務履行ノ爲メノミニ服スル者ト雖モ財產權上ノ請求ニ付テハ兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ訴フルコトヲ得ルナリ)(訴第一五)

本邦人ニシテ治外法權ヲ有スル者(外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏並ニ家族從者ニ限ル領事ノ如キ治外法權ヲ有セサルモノニハ此規定ヲ適用スルコトヲ得サルナリ)ハ本邦ニ於テ最後ニ有セシ本人ノ住所ヲ以テ依然其裁判管轄上ノ住所ナリトス若シ其住所ナキ時ハ司法大臣ノ命令ヲ以テ豫メ定ムル東京内ノ區ヲ以テ其住所ナリトス(訴第一二)

又公示催告手續ニ於テノ不服申立モ亦其管轄ニ属ス(訴第七七四構第三〇)

第二 土地ノ管轄

裁判所ノ土地ノ管轄モ亦法律上ノ裁判所ノ管轄ノ一ニシテ地域上ニ於テ定メタル管轄ナリトス(例ハ京橋區裁判所ハ京橋區日本橋區ヲ管轄シ下谷區裁判所ハ神田區下谷區等ヲ管轄スト云フ如キ是レナリ何故ニ此管轄ヲ定ムルヲ要スルカト云フニ若シ此定メナカリセハ假令ハ訴訟物ノ價額ニ依リ之ヲ區裁判所又ハ地方裁判所ニ訴フヘキコトノ明瞭ナル場合ト雖モ何地ノ裁判所ニ訴ヘテ被告人ヲ召喚シ得ヘキヤ否チ知ルコト能ハサルヘシ是レ地域上ノ管轄ノ定メアルヲ要スル所以ナリ)

土地ノ管轄ハ之ヲ別ツテ二種ト爲ス一ニ曰ク普通管轄二ニ曰ク特別管轄是レナリ

(甲) 普通管轄

(イ) 住所ニ付テノ普通管轄

普通裁判籍ハ各人ノ住所所在地ノ裁判所ノ管轄ニ属ス其住所ハ各人ノ確然タル住所ニシテ其經濟上及ヒ生活上ノ中心ナルモノヲ云フ(訴

第一〇)

軍人軍屬ニ付テハ其兵營地又ハ軍艦定繫所ヲ以テ其住所ナリトス然レトモ此規定ハ軍事ニ服スルヲ以テ其生活トスル所ノ者ニ限り適用スヘキモノニシテ彼ノ兵役義務履行ノ爲メノミニ服役スル軍人軍屬ニハ之ヲ適用スルコトヲ得サルナリ(民訴第一一)(兵役義務履行ノ爲メノミニ服スル者ト雖モ財產權上ノ請求ニ付テハ兵營地若クハ軍艦定繫所ノ裁判所ニ訴フルコトヲ得ルナリ)(訴第一五)

本邦人ニシテ治外法權ヲ有スル者(外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏並ニ家族從者ニ限ル領事ノ如キ治外法權ヲ有セサルモノニハ此規定ヲ適用スルコトヲ得サルナリ)ハ本邦ニ於テ最後ニ有セシ本人ノ住所ヲ以テ依然其裁判管轄上ノ住所ナリトス若シ其住所ナキ時ハ司法大臣ノ命令ヲ以テ豫メ定ムル東京内ノ區ヲ以テ其住所ナリトス(訴第一二)

(ロ)住所ニ因テ定マラサル普通管轄

内國ニ住所ヲ有セサル者ハ本人ノ現在地(現ニ居住スル地)ヲ以テ普通管轄裁判所ナリトス若シ現在地ノ不明ナルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ本邦ニ於テ其最後ニ有セシ住所所在地ノ裁判所ノ普通管轄ニ屬ス外國ニ住所ヲ有スル者ニ對スルキト雖モ曾テ内國ニ住居ヲ爲シタルモノニシテ内國ニ於テ生シタル權利關係ニ付テハ本邦ニ於テ其最後ニ有セシ所在地ノ裁判所ノ普通管轄ニ屬シ其裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス(訴第一三)

國ノ所有財産ニ對スル訴訟ハ國ヲ代表スル官廳ノ所在地ヲ以テ普通管轄裁判所ナリトス(訴第一四) (例ハ内務省ノ所管ニ係ル土地ノ經界ニ

付爭論アルキハ内務大臣ヲ被告ト爲スカ如キ又官林樹木取引ニ關シ農商務大臣ヲ被告ト爲ス場合ノ如シ)(明治廿四年一月勅令第三號參看)

公又ハ私ノ法人(公ノ法人トハ公共事務ヲ處理スルカ爲メニ利害得喪ヲ同フスル共同ニ依テ認メラレタル會社ノ如キヲ云フ)及ヒ其資格ニ於テ訴ヘラル

ハ商法ニ依テ認メラレタル會社ノ如キヲ云フ)及ヒ其資格ニ於テ訴ヘラル、コトヲ得ル會社其他ノ社團(社團トハ二人以上集合シテ事ヲ爲ス團體ヲ云フ例ハ組合、商會、商社、ノ如キモノニシテ政府ノ認許ヲ得テ公然取引ヲ爲シ且其組合、商會、商社ノ名義ヲ以テ訴ヲ起シ又ハ訴ヘラル、コトヲ得ヘキモノヲ云フ)又ハ財團(財團トハ動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス總テノ財産ノ團塊ヲ謂フ例ハ破産財團又ハ共有財團ノ如キ是レナリ)等ハ其所在地ノ裁判所ヲ以テ普通管轄裁判所ナリトス若シ事務所ナキトキ又ハ數個所ニ於テ事務ヲ取扱フトキハ其首長又ハ事務擔當者ノ住所所在地ノ裁判所ヲ以テ普通管轄裁判所ナリトス(訴一四)

(乙)特別管轄

生徒、雇人、營業使用人、職工、習業者等ノ如キ其性質上一定ノ地ニ永ク寓在スヘキ者ニ對スル財産權上ニ關スル總テノ訴訟ハ其現在地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得(訴第一五第一)

軍人、軍屬ニシテ兵役義務履行ノ爲メニ服役スル者ノ財産權上ニ關

スル總テノ訴訟ニ付テハ其兵營地若クハ軍艦定繫所所在地ノ裁判所
 ニ起スコトヲ得(訴第一五第二)(法律ハ何故ニ生徒、雇人、營業使用人職工習業
 者其他兵役義務履行ノ爲メ服役スル軍人軍属ニ財産權上ノ訴訟ノミニ限リ
 特別管轄ヲ設ケタリヤト云フニ此等本人住所ニ歸ヘルヲ待テ訴訟ヲ提起ス
 ルト爲スルハ或ハ時効ニ至リテ要求スルヲ得ヘカラサルニ至ルヘク又目的
 物滅失スルコトアルヲ以テ此等ノ弊害ヲ豫防センカ爲メニ財産權上ノ訴ヘ
 ハ特ニ現住所ニ訴フルコトヲ許シタルモノナリ)

製造商業又ハ其他ノ營業ヲ爲ス爲メ直接ニ取引ノ業務ヲ處辨スル所
 (店舗)ヲ有スル者ハ其業務ニ關スル總テノ訴訟ニ對シテハ其取引所所
 在地ノ裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得 (例ヘハ東京ノ商人ガ長崎ニ支店ヲ有
 シ長崎ニ於テ直接ニ取引ヲ爲スモノトセハ此支店ハ營業上ニ付キ長崎裁判
 所ニ訴訟ヲ爲スコトヲ得ルカ如シ) 住家及ヒ農業用ノ建物アル地所ノ所
 有權或ハ使用權若クハ借地權ヲ有シ躬ラ農業ヲ經營スル者ハ其經營
 ニ關スル總テノ訴訟ニ付キ其地所所在地ノ裁判所ニ訴フルコトヲ得
 ルモノトス(訴第一六)

凡ソ財産權上ニ關スル請求ニ付内國ニ住所ヲ有セサル者ニ對スル訴
 訟ハ其財産又ハ訴訟物件所在地ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得若シ其
 財産債主權ヨリ成立スルモノナルハ其債主權ニ係ル債務者ノ所在
 地ヲ以テ財産所在地ト看做スヘシ若シ其債主權ヲ鞏固ナラシムル爲
 メ或ル物件ヲ其擔保ト爲シタル時ハ其物件所在地ヲ以テ財産所在地
 ト看做スコトヲ得ルナリ(訴第一七)

契約ノ成立或ハ不成立ノ確定又ハ其履行、銷除、廢罷、解除又ハ契約ヲ履
 行セサル場合ニ於ケル賠償又ハ契約ノ履行不充分ナル場合ニ於ケル
 賠償ニ付テノ訴訟ハ其係爭義務ヲ履行ス可キ地ノ裁判所ニ之ヲ提起
 スルコトヲ得ルナリ(訴第一八)

會社其他ノ社團ヨリ其社員ニ對シ、又ハ社員ト社員トノ間ニ於テ社員
 タルノ資格ニ基因スル請求ノ訴訟ハ其會社其他ノ社團所在地ノ裁判
 所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス(訴第一九)

不正ノ行爲ヨリ生スル損害ノ訴ハ其損害ヲ被ラシメタル者ニ對シ其不正ノ行爲アリタル地(行爲數箇ノ裁判所ノ管轄内ニ亘ルキハ直近上級ノ裁判所ノ裁判ニ依リ管轄ヲ定ム(據第一〇))ノ裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス(訴第二〇)

辯護士又ハ執達吏ノ手数料(日當ノ類ヲ云フ)及ヒ立替金(印紙料用紙代運送費其他訴訟手續若クハ執行手續ニ關シ必要ナル金錢ヲ立替タルモノヲ云フ)ニ付キ其委任者ニ對スル訴ハ訴訟物ノ價額ノ多寡ニ拘ハラズ本訴訟ノ第一審裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得ルモノトス(訴第二一)故ニ例ヘハ請求金額百圓ヲ超過スルモ區裁判所カ本訴訟ニ付第一審ノ裁判所ナリシキハ其區裁判所ノ管轄ニ屬シ又例ヘハ請求金額百圓以下ナルモ地方裁判所カ本訴訟ニ付第一審ノ裁判所ナリシキハ其地方裁判所ノ管轄ニ屬ス而シテ委任者カ何レノ地ニ住所ヲ有スルモ之ニ拘ハラサルナリ

不動産上ノ訴殊ニ本權ノ訴并ニ占有ノ訴分割并ニ經界ノ訴ハ其不動産所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬スルモノトス(此裁判籍ハ專屬裁判籍ナルカ故ニ他ノ裁判所ニ起訴スルコトヲ許サルナリ)又地役ニ付テノ訴ハ承役地所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス(訴第二二)

不動産上ノ裁判管轄ニ於テハ同一ノ被告ニ對スル場合ニ限り債權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權ニ基ク不動産上ノ訴訟ニ負債訴訟ヲ合併シテ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス其他對人權ニ關スル訴訟ニシテ不動産ノ所有者又ハ占有者ニ對スル事件及ヒ不動産ノ損害ニ付テノ訴訟モ亦不動産所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルナリ(訴第二三)相續權遺贈其他死亡ニ因リテ效果ヲ生スル處分ニ基ク請求ノ訴訟ハ先人ノ死亡ノ當時生活ノ中心タリシ住所若クハ現在地ノ裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得又先人若クハ相續人ニ對スル請求ハ遺産ノ全部又ハ一分ニシテ其裁判所ノ管轄内ニ存在スルトキニ限り相續ニ付テノ管轄

裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス(訴第二四)

不動産所在地ノ裁判籍ニ属スルモノヲ除ク外裁判籍中二箇以上ニ互ルキハ原告ハ其中ノ一ヲ選擇シテ管轄裁判所ヲ定ムルコトヲ得ルナリ(訴第二五)

第三 上級裁判所ノ指定スル管轄裁判所

豫メ法律ヲ以テ裁判管轄ヲ定ムル能ハサル場合ニ於テハ上級裁判所ニ於テ裁判管轄ヲ定ムルコトヲ得ルモノトス其場合ハ即チ

第一 訴訟ヲ不動産所在地ノ管轄裁判所ニ起ス可キ場合ニ於テ其訴訟ノ目的タル不動産カ數箇ノ裁判所ノ管轄区内ニ散在スル時

(訴第二六)

第二 本件ヲ裁判スルノ權限ヲ有スル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ナル事情ノ存スルニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得サル時及ヒ裁判所構成法第十三條ノ規定ニ依リ一ノ區裁判所ニ於テ

法律上ノ理由若クハ特別ナル事情ノ存スルニ因リ事務ヲ取扱フ

コトヲ得サルトキ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル地ノ區裁判所モ亦本件ノ裁判權ヲ行フコトヲ得サル時(訴第二七構第一〇)

第三 同級ノ裁判所管轄區域ノ境界明確ナラスシテ訴訟ヲ管轄スヘキ裁判所ノ定マラサル時(同上)

第四 法律ニ從ヒ又ハ數多ノ裁判所各其管轄ナルコトヲ言渡シ其裁判確定シタル時(同上)

第五 數多ノ裁判所權限ヲ有セストノ裁判確定シ又ハ權限ヲ有セストノ裁判確定スルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキ時(同上)

是レナリ右ノ場合ニ於テハ申請ニ依リ關係アル各裁判所ヲ併セテ管轄スル直近上級ノ裁判所ニ於テ其管轄ヲ定ムルモノトス(構第一〇)管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ其申請ニ付キ管

轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ爲ス此場合ニ於テハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ其申請ヲ決定ス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス(訴第二八)第一號書式參看)

第四 當事者ノ合意ニ因ル裁判管轄

當事者ハ其合意ヲ以テ事物上若クハ土地上ノ管轄ニアラサル裁判所ヲ以テ第一審ノ管轄裁判所ト定ムルコトヲ得其合意ハ書面(書面ハ特別ニ之ヲ作ルヲ要セス準備書面又ハ答辯書中ニ合意ノ旨ヲ掲グルヲ以テ足ルナリ)ヲ以テシ且其合意カ一定ノ權利關係及ヒ其權利關係ヨリ生スル訴訟ニ付テノミ有效ナリトス(訴第二九)若シ被告管轄ニアラサル裁判所ニ於テ其管轄違ナルコトヲ申立スシテ本案ノ口頭辯論ヲ爲ス片ハ則チ暗黙ノ合意アリタルト見做ス(訴第三〇)

裁判管轄ハ財産權外ノ訴訟即チ人事ニ關スル訴訟其他訴訟法ニ於テ財産權上ノ請求ト認メサル訴訟ニ付テハ合意ヲ以テ定ムルコトヲ得ス

又財産權ニ關スル訴訟ト雖モ法律上專屬管轄ノ規定アル片ハ合意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得サルナリ(訴第三一)

第二章 當事者

第一節 訴訟能力

自ラ訴訟ヲ爲シ又ハ訴訟代理人ヲシテ訴訟ヲ爲サシムル能力及ヒ法律上代理人ニ依レル訴訟無能力者ノ代表及ヒ法律上代理人カ訴訟ヲ爲シ又ハ一ノ訴訟行爲ヲ爲スニ付テノ特別授權ノ必要(特別授權ノ必要トハ例ヘハ後見人カ訴訟ヲ提起スル場合ニ親族會議ノ允許ト區裁判所ノ認可ヲ要スルカ如キヲ云フ)ハ民法ノ定ムルトコロニ從フモノトス(訴第四三)

外國人ハ自國ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有セサルモ本邦ノ法律ニ從ヒ訴訟能力ヲ有スルモノナル片ハ訴訟能力ヲ有スルモノト看做サルヘシ(訴第四四)

原被告ニシテ躬ラ訴訟ヲ爲ス者ニ訴訟能力ノ欠缺ナキヤ否或ハ法律上代理人タルノ資格ニ欠缺ナキヤ否及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル授權ニ欠缺ナキヤ否ヤハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス裁判所ハ原告若クハ被告ノ申出ヲ待タス之レヲ調査スヘキモノトス(訴第四五)原被告ノ一方ニ於テ遲滯ノ爲メ危害則チ時効ニ迫ルカ又ハ物件滅失スルカ其他至節ニ關スル農産物ニ係ル時ノ如キ恐レアルル其欠缺ヲ補正シ得ヘシト思料スルニ於テハ裁判所ハ其欠缺ヲ補正ス可キ條件付ヲ以テ其欠缺ノ儘一時訴訟ヲ爲スコトヲ得ル者トス(危害ノ恐レナク欠缺ヲ補正シカダキ者ト認ムルルルハ此限ニアラス)然レモ補正ヲ爲サル間ハ判決ヲ爲スコトヲ許サルニ依リ裁判所相當ノ期間ヲ定メテ之ヲ補正セシメ然ル後判決ヲ爲スヘシ若シ其期間内ニ補正スルコトヲ得サルモ口頭辯論ノ終結前ニ補正スルルルハ判決ヲ爲シ得ヘキ者トス(訴第四五)口頭辯論終結ニ至ルモ右ノ補正ヲ爲サルルルハ當該ノ原告若クハ被告ハ出頭セサルモノト看做シ既ニ爲シタル一切ノ行爲ハ無効ニ歸ス訴訟無能力者ニシテ法律上代理人アラサル者ニ對シ訴訟ヲ起スヘキ場合又ハ相續人ノ定ラサル遺産ニ對シ訴訟ヲ起スヘキ場合又ハ所在不明ナル相續人ニ對シ訴訟ヲ起スヘキ場合ニ於テ法律上代理人アラサル時ハ危害ノ恐レアル場合ニ限り受訴裁判所ノ裁判所長ハ原告ノ申請ニ依リ特別ノ代理人ヲ任シ被告人ニ代リ訴狀ノ送達ヲ受ケ法律上代理人若クハ相續人ノ出頭アルマテ總テノ訴訟行爲ヲ爲サシム特別代理人選任ノ申請ハ書面(第二號書式參看)又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ左ノ三條件ヲ具備セサルヘカラス

(一) 法律上代理人アラサルコト又ハ相續人ノ定マラルサルコト又ハ相續人所在不明ナルコト

(二) 訴訟ヲ起ス可キコト

(三) 遲滯ノ爲メ危害ノ恐アルコト

右ノ申請ハ口頭辨論ヲ經スシテ之ヲ裁判シ其裁判ハ之ヲ申請人ニ送達ス(申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得)又申請ヲ認許シタルトキハ其選任セラレタル特別代理人ニモ亦之ヲ送達スルモノトス(訴第四六)

又訴訟能力ヲ有セサル者生徒、雇人、營業使用人、職工、習業者其他性質上一定ノ地ニ永ク寓在ス可キ者又ハ兵役義務履行ノ爲メ服役スル軍人、軍屬ニ係リ訴ヲ起ス場合ニ於テハ法律上ノ代理人他ノ地ニ住スルハ設ヒ遲滯ノ爲メ危害ノ恐ナシト雖モ該裁判長ハ原告ノ申立ニ依リ特別代理人ヲ選定スルコトヲ得ルナリ(訴第四七)

第二節 共同訴訟人

共同訴訟人トシテ數人原告トナリ又ハ被告トナルコトヲ得ル場合ハ左ノ數項ニ限ルモノトス(訴第四八)

第一 數人カ訴訟物ニ付權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツ

時

第二 同一ノ事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

第三 性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的タルトキ

共同訴訟人ノ間ニハ唯其請求若クハ義務ニ付同一ノ訴訟ニ於テ審理スヘキ外面上ノ關係アルヲ例トス其他ノ事項ニ於テハ各共同訴訟人其對手人ト各別ニ對立シ其爲シタル行爲及ヒ懈怠ハ他ノ共同訴訟人ニ利害ヲ及ホサス又訴訟ノ結果ハ各共同訴訟人ニ對シ相異ナルヲアルナリ(訴第四九)然レモ民法及ヒ訴訟法ノ別段ノ規定アル場合ニ於テハ前段ニ述ヘタル例外ヲ爲スモノナリ其例外トハ即チ共同訴訟人ノ必然共同訴訟人ナルカ或ハ訴訟事件ノ性質總テノ共同訴訟人ニ對シ一訴訟ニテ裁判セラルヘキモノナルカ故ニ(一)共同訴訟人

ノ或ル人ノ提出シタル攻撃及ヒ防禦証據方法ヲ包含スハ他ノ共同訴訟人ニ其効力ヲ及ホサス(二)共同訴訟人中ノ或ル人カ争ヒ又ハ認諾セサル中他ノ共同訴訟人カ黙止スル場合ニ於テハ悉ク争ヒ又ハ認諾セラレタルモノト看做ス(三)共同訴訟人ノ或人カ期日又ハ期間ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠セサル者ニ代理ヲ委任シタルモノト看做ス故ニ例ヘハ共同訴訟人ノ一人カ欠席シタルトキハ其出頭シタル者ニ代理ヲ委任シタルモノト看做シテ出頭シタル者ト同一ノ効力ヲ有セシム(四)共同訴訟人ノ或ル人カ懈怠スルモ其共同訴訟中ノ或ル人カ懈怠セサルハ懈怠ノ結果ヲ生セル故送達呼出及ヒ後ノ手續ニ加ハル權ハ懈怠ナカリシトキト同一ナリ(訴第五〇)

第三節 第三者ノ訴訟參加

原告若クハ被告ノ代理人相續人又ハ其他ノ承繼人等ノ資格ニ非ラスシテ甲乙兩者間ノ訴訟ニ丙者カ自己ノ權利或ハ利益ノ爲メ于涉スル

場合之ヲ第三者ノ訴訟參加ト云フ

第三者ノ訴訟參加ハ之ヲ別ツテ四種トス一ニ曰ク主參加二ニ曰ク從參加三ニ曰ク告知參加四ニ曰ク指名參加是レナリ

第一款 主參加

主參加ハ訴訟事件ノ原被告ヲ共ニ對手人トシテ訴訟物件ヲ請求スルニアルキヲ云フ尙ホ之ヲ詳言スレハ甲(原告)乙(被告)間ニ於テ相争フトコロノ訴訟ノ目的タル事物(有形物タルト權利即チ無形物タルトナ間ハサルナリ)ノ全部又ハ其一分ヲ丙者カ自己ノ爲メ甲(原告)乙(被告)ニ對シ更ニ訴訟ヲ以テ請求スルヲ謂フ例ヘハ甲乙兩者ノ間ニ於テ或ル物件ノ所有ヲ争フキ甲乙相争フトコロノ物件ハ丙者之ヲ自己ノ所有ナリト主張シ又ハ甲乙ニ於テ質權ノ争ヲ爲スキ丙者ハ其物件ヲ買受タリト主張スルカ如キ場合はレナリ

主參加ハ獨立ナル新訴ニシテ本訴訟ノ請求ト牽連スルカ故ニ本訴訟

ノ繫屬シタル第一審裁判所ニ起訴ス可キモノトス故ニ例ヘハ本訴訟
 カ上訴審ニ繫屬スト雖モ已ニ繫屬セシ第一審ノ受訴裁判所ニ起訴ス
 ヘキナリ而シテ本訴訟ノ權利拘束（權利拘束ハ訴狀ノ送達ニ因リテ始ル）
 （訴第一九五）トナリタル時ヨリ權利拘束ノ終ニ至ルマテノ間ニ之ヲ爲
 スモノトス（權利拘束ノ終リハ訴訟ノ完結スル時ヲ云フ茲ニ確定判決ト記セ
 スシテ權利拘束ノ終リマテト記シタルハ訴訟ノ完結ハ獨リ確定判決ノ場合
 ノミナラス訴ノ取下、拋棄、認諾和解ヲモ包含スルヲ以テナリ）（訴第五一）
 右ノ訴ハ原告被告ヲ共同被告人トシテ訴フルモノニシテ普通ノ訴訟手
 續ト異ナルトコロアルヲ見ス而シテ訴狀ハ第九十條ノ規定ニ從ヒ
 之ヲ作ルモノトス主參加ノ始マリタルハ原告被告又ハ主參加人ノ
 申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ主參加ノ權利拘束ノ終リニ至ルマテ本訴
 訟ノ判決ヲ中止スルコトヲ得ルナリ（第三號書式參看）（訴第五二）

第二款 從參加

從參加ハ訴訟事件ニ付其主タル原告被告一方ノ從トナリ之ヲ補助スル
 ニアルキヲ云フ

何人ヲ問ハス他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ニ於テ原告被告一方
 ノ勝敗ニ依リ自己ノ權利上利害ノ關係ヲ有スルキハ訴訟ノ如何ナル
 程度ニアルヲ問ハス權利拘束ノ繼續スル間ハ其一方ヲ補助スル爲メ
 訴訟ニ參加スルヲ得其權利上ノ利害トハ即チ從參加人其者ノ權利
 又ハ義務カ其訴訟ノ勝敗ニ從テ得喪アル場合ヲ云フ（訴第五三）

從參加人ハ主タル原告若クハ被告ノ一方ノ訴訟補助人ニシテ其係争
 請求ノミニ付訴訟ヲ爲スニ止マルモノタリ而シテ其附隨スル時ニ於
 ケル訴訟ノ程度ヲ妨ケサル限リハ（故ニ其附隨前既ニ一分判決又ハ中間判
 決ヲ以テ完結シタル事項ニ付テハ更ニ訴訟ヲ爲スヲ得ス又拋棄、懈怠若ク
 ハ中間判決ニ依リ附隨ノ當時提出スル權ヲ失ヒタル攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ
 更ニ提出スルヲ得サルナリ）主タル原告若クハ被告ノ爲メ勝訴ヲ期ス

ルニ必要ト認ムル攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ施用シ且總テノ訴訟行爲ヲ實行シ殊ニ主タル原告若クハ被告ノ爲メニ存スル期間内ニ獨立シテ(主タル原告若クハ原告ノ名義ニテ)故障(故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ闕席判決ノ送達ヲ以テ始マル)(訴第二五五第二)支拂命令(支拂命令ニ對スル異議申立ノ期間ハ十四日トス)(民訴第三百八十六條第二)ニ對スル異議又ハ上訴(控訴期間ハ一ヶ月トス此期間ハ判決ノ送達ヲ以テ始マル)(訴第四三七第一)抗告ハ七日ノ不變期間ニ之ヲ爲スヘシ其期間ハ裁判ノ送達又ハ裁判ノ言渡ヨリ始マル)(訴第四六六第二)ヲ爲スノ權アルモノトス(訴第五四第一)

然レトモ從參加人ノ陳述及ヒ行爲カ主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲ト牴觸スル場合ニ於テ民法ニ別段ノ規定アラサル限リハ主タル原告若クハ被告ノ陳述及ヒ行爲ニ依ラサル可カラサルナリ(訴第五四第二)

訴訟ノ判決ハ元來當事者間ノ權利關係ヲ定ムルニ止マルモノナリト雖モ從加入ト其補助スル所ノ原被告一方ノ關係ニ於テハ間接ニ其効力ヲ及ホスモノトス又從參加人ハ其補助スル所ノ原被告一方ニ對シ新ニ訴訟ヲ起スヲ得ヘシト雖モ其曾テ參加シタル訴訟ニ付テノ確定裁判ニ對シテハ之ヲ不當ナリト主張スルヲ得ス若シ從參加人カ參加ノ時ニ於ケル訴訟ノ現狀ニ依リ又ハ其補助スル所ノ原告若クハ被告ノ所爲ニ依リテ妨ゲラレ攻撃防禦ノ方法ヲ施用シ得サリシキ又ハ主タル原告若クハ被告カ從參加人ノ知ラサリシ攻撃防禦ノ方法ヲ故意又ハ重過失ニ依リ施用シ得サラシメタリシキハ其補助シタル原告若クハ被告カ訴訟ヲ不十分ニ爲シタリト主張スルヲ得ルナリ(訴第五五)

從參加ハ申請ヲ以テ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノトス(故ニ本訴訟カ第一審ニ繫屬中ハ第一審裁判所ニ控訴審ニ繫屬中ハ控訴裁

判所ニ上告審ニ繫屬中ハ上告裁判所ニ之ヲ爲スヘキナリ) 其申請ハ原被告
双方ノ氏名、訴訟ノ標目、一定ノ利害關係及ヒ參加ノ理由ヲ記シテ之ヲ
作ルモノトス(第四號書式參看(訴第五六))

右ノ申請ハ原被告双方ニ之ヲ送達スヘク原告又ハ被告ハ從參加ニ付
キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス而シテ原被告トモ異議ヲ申立
サルキハ直チニ從參加ヲ許ス可シ若シ之ニ反シ一方ヨリ異議ヲ申
立ツルキハ之ニ付キ原被告及ヒ從參加人ヲ呼出シ審訊シタル上別段
口頭辯論ヲ要セス中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スモノトス此裁判ニ對シ
テハ即時抗告ヲ爲スコトヲ許スナリ若シ利害關係ノ存否ニ付爭アル
場合ニ於テ從參加人其關係ヲ明示スルキハ參加ヲ許スコトヲ得從參
加ヲ許サストノ裁判アルモ其裁判確定ニ至ラサル間ハ從參加人ヲ原
被告一方ノ共同訴訟人ト看做シテ本訴訟ニ立會ハシメ且總テノ期日
ニ呼出シ又本訴訟ニ關係スル裁判ヲ爲シタルキハ從參加人ニモ亦其

送達ヲ爲スヘキモノトス(訴第五七)

從參加人ハ原被告双方ノ承諾ヲ得ルキハ其補助スル所ノ原告若クハ
被告ニ代リテ自ラ其訴訟ヲ擔任スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ原告
若クハ被告ノ申立ニ依リ其擔任ヲ受クル原告若クハ被告ヲ脱退セシ
ムヘキモノトス(訴第五八)

第二款 告知參加

告知參加ハ第三者ニ訴訟ヲ告知シテ其補助ヲ請求シ第三者ヲシテ
其訴訟ニ參加セシメ之ニ依リテ勝訴ヲ目的トスルモノナリ此告知ハ
敗訴ノ場合ニ於テハ第三者ヨリ訴訟行爲ヲ不充分ニ爲シタリトノ抗
辯ヲ受ケ又ハ裁判ノ不當ナルコトヲ主張シテ請求ヲ受クルノ危険ヲ豫
防スル爲メニ之ヲ爲シ又原被告ノ一方敗訴ノ場合ニ於テ第三者ニ對
シ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘシト信シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ受
ク可キコトヲ恐ル、場合ニ之ヲ爲スモノナリ告知ヲ受ケタル者ハ其

訴訟ニ參加セサルキト雖モ更ニ告知ヲ爲スノ權ヲ有シ又告知ヲ受ケ
ス參加シタル者モ上ニ述タル告知條件ノ一アルキハ又更ニ他ノ第三
者ニ對シ訴訟ヲ告知スルコトヲ得ヘシ(訴第五九)

訴訟告知ノ訴訟ハ訴訟告知ノ理由、訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ作
リ本訴訟ノ權利拘束ノ終了ニ至ルマテノ期間内ニ其訴訟ノ繫屬スル
裁判所(第一審ニ繫ル訴訟ハ第一審裁判所、控訴審ニ繫ル訴訟ハ控訴裁判所、上
告審ニ繫ル訴訟ハ上告裁判所)ニ提出シテ之ヲ爲スモノトス(第四號書式
參看)其書面ハ之ヲ第三者ニ送達シ又訴訟ヲ告知スル原告若クハ被告
ノ相手方ニハ其謄本ヲ送付スヘキモノトス(訴第六〇)

第三者參加ヲ拒ミ或ハ辨明セサルキハ本訴訟ハ訴訟告知ニ拘ハラ
本訴訟ノ中止辯論ノ延期ヲ爲サス之ヲ續行スヘキモノトス然レトモ
第六十九條ノ規定ニ依ルキハ期日ノ變更辯論ノ延期ヲ爲スコトヲ得
ヘキナリ(訴第六一第一)

第三者參加スヘキコトヲ陳述シ訴訟ニ參加スルキハ從參加人ト同一
ノ地位ヲ占ムル者ナリ故ニ其參加ニ付テハ渾テ從參加ノ原則ニ從フ
ヘキモノトス(訴第六一第二)

第四款 指名參加

指名參加ハ被告(借地人、借家人、受託人、保管人)ノ類カ第三者ノ名ヲ以テ
訴訟物ヲ占有スル場合ニ於テハ被告ハ其訴訟ノ結果ニ付キ利害ノ關
係ヲ有セサルヲ以テ其訴訟ヲ脱退スルヲ欲シ第三者(貸地人、貸家人、附
托者等)ヲ呼出シ其意見ヲ陳述セシムル爲メ指名シテ參加セシムルニ
アルキヲ云フ此指名呼出ハ本案ノ口頭辯論前ニ之ヲ求ムルコトヲ要
ス此求メアリタルキハ第三者ノ陳述ヲ爲シ又ハ之ヲ爲スヘキ期日マ
テ本案ノ辯論ニ取り掛ルコトヲ拒ムコトヲ得(訴第六二第一)
然レトモ第三者カ被告ノ主張スルトコロヲ承認セス又ハ何等ノ陳述
ヲ爲サルキハ第三者ハ自己ノ權利ヲ拋棄スル者ナルヲ以テ此場合

ニ於テハ被告ニ於テ原告ノ請求ニ應スルモ第三者ニ對シ夫レカ爲メ何等ノ責任ヲ負ハサルナリ若シ第三者ニ於テ被告ノ主張スルトコロヲ承認スルキハ第三者ハ被告ノ承認ヲ得テ更ニ被告ニ代リテ訴訟行爲ヲ擔任スルコトヲ得ルナリ此場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ依リ被告ヲ其訴訟ヨリ脱退セシムルモノトス然レトモ其物ニ付テノ裁判ハ被告ニ對シテモ效力ヲ有シ且之ヲ執行スルコトヲ得ルナリ(訴第六二)

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第一款 訴訟代理人

訴訟代理人ハ原告若クハ被告ノ委任ニ因リ訴訟行爲ヲ代理スル者ナリ輔佐人ハ口頭辯論ニ於テ權利ヲ伸張シ又ハ防禦スル爲メ原告若クハ被告ヲ補助シ特ニ之ヲ代辨スル者ナリ

訴訟代理人ハ辯護士ヲ以テ之ヲ爲スヲ原則トス然レモ委任スヘキ辯護士ノ在ラサル場合ニ於テハ訴訟能力ヲ有スル親族若クハ雇人ヲ以テシ若シ此等ノ者在ラサル場合ニ於テハ他ノ訴訟能力ヲ有スル者ヲ以テスルコトヲ得ルナリ(訴第六三第一)

區裁判所ニ於テハ其管轄ニ屬スル訴訟事件極メテ簡易輕小ナルヲ以テ辯護士ノ在ル場合ト雖モ其辯護士ニ委任セスシテ直ニ訴訟能力者タル親族若クハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スコトヲ得ルナリ(訴第六

三第二)

訴訟ノ委任ハ書面委任ヲ以テ之ヲ爲スヲ原則トス然レトモ口頭辯論又ハ受命判事若クハ受託判事ノ審問ニ際シ臨時委任ヲ要スル場合ニ於テハ口頭委任ヲ許シ其陳述ヲ調書ニ記載セシメ書面委任ト同一ノ效ヲ有セシム(訴第六四第三書面委任ハ之ヲ裁判所ニ提出スヘキモノトス(訴第六四第一)第五號書式參看)

書面委任ハ之ヲ閱覽スルヲ以テ足レリトセス裁判所ノ記録(一件書類)

ニ編入スヘキナリ(同上)

書面委任ハ公正證書ヲ以テスルモ亦私署證書ヲ以テ之ヲ爲スモ隨意ナリトス

私署證書ヲ以テ訴訟委任ヲ爲シタルキハ其相手方ハ之ヲ確實ナラシムル爲メ其書面委任ヲ認證スヘキヲ求ムルヲ得此認證ハ公証人之ヲ爲スヲ通例トシ又相當官吏(市町村長ノ類)之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

(訴第六四第二)

辯護士ニ訴訟委任ヲ爲ス場合ニ於テハ一々委任狀ニ其明記ヲ爲サ、ルモ訴訟委任ヲ爲シタルノミニテ法律上當然反訴、主參加、故障、假差押若クハ假處分又ハ強制執行ニ因リ生スル訴訟行爲ヲ併セ訴訟ニ關スル總テノ訴訟行爲ヲ爲シ及ヒ相手方ヨリ辯濟スル費用ノ領收ヲ爲ス權ヲ其代理人ニ授與シタルモノト看做スナリ(訴第六五第一)然レトモ控訴若クハ上告ヲ爲シ、再審ヲ求メ代人ヲ任シ、和解ヲ爲シ、訴訟物ヲ抛

棄シ又ハ相手方ヨリ主張シタル請求ヲ認諾スルノ權ハ特別ノ委任ヲ受クルニアラサレハ之ヲ代理スルコトヲ得サルナリ(訴第六五第二)若シ委任者ト受任者トノ間ニ於テ法律上ノ範圍(訴第六五第一)ニ制限ヲ附スルモ第三者ヨリ之ヲ見ルキハ依然法律上ノ範圍ニ制限ヲ附セザルモノト認ムヘキニ付其制限ハ相手方ニ對シテ效力ヲ有セス然レトモ此規定ハ單ニ辯護士ニ訴訟委任ヲ爲ス場合ニ限り之ヲ適用スヘキモノニシテ彼ノ辯護士ニアラサル親族雇人又ハ其他ノ者等ニ委任ヲ爲ス場合ニ於テハ委任者ハ各箇ノ訴訟行爲ニ付キ委任ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第六六)

訴訟代理人數人アルキハ其代理人ハ共同若クハ各別ニテ本人ヲ代理(數人共同ニテモ一人ニテモ委任事項ノ行爲ヲ代理スルコトヲ得ルノ意ナリ)スルコトヲ得若シ委任ニ之ニ異ナル定メアルモ相手方ニ對シテハ法律上其效アラサルモノトス(訴第六七)

訴訟代理人カ委任ノ範圍内(委任ノ範圍ハ第六十五條第一項ニ規定ノ範圍、同條第二項ノ特別委任ノ範圍第六十六條第二項ノ各箇ノ訴訟行為ニ付キ委任ノ範圍ノ類チ云フ)ニ於テ爲シタル訴訟上ノ行為及ヒ不行爲ハ(行為トハ主張抗辨若クハ自白ノ類チ云フ又不行為トハ缺席遲延若クハ黙止ノ類チ云フ)總テ委任者ノ爲シタルモノト同一ノ効力アルモノトス然レトモ委任者訴訟代理人ト共ニ裁判所ニ出頭シタルハ代理人ノ爲シタル事實上ノ陳述ニ付テハ即時ニ之ヲ取消シ又ハ之ヲ更正スルコトヲ得ルナリ(訴第六八)

訴訟委任ハ委任者ノ死亡若クハ訴訟能力ノ變更(例ハ委任者精神病又ハ破産者ト爲リタル如シ)又ハ法律上代理人ノ變更(例ハ代理人カ死亡シ又ハ代理人タルノ權ヲ失フタルトキ)ノ如シ委任ノ廢罷及ヒ代理ノ謝絶ニ因ル委任ノ消滅ハ相手方ニ其通知ヲ爲スニ至リ始メテ其相手方ニ對シ効力ヲ生スルモノトス此通知書ハ委任者又ハ代理人ヨリ受訴裁判所ニ差出シ裁判所ヨリ之ヲ相手方ニ送達スヘキモノトス又訴訟代理人ハ代理ヲ謝絶スルモ委任者ニ於テ他ノ方法ヲ以テ自己ノ權利ノ防衛ヲ爲サ、ル間ハ委任者ノ爲メニ行為ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第六九)

原告若クハ被告ノ代理人ナリト稱シテ裁判所ニ出頭スルモ書面委任ヲ提出セサルカ又ハ之ヲ提出スルモ其委任カ法定ノ式ニ適セサルハ裁判所ハ原告若クハ被告ノ爲メ代理人ナキモノト看做シ(訴第七〇第一)訴訟行為懈怠ノ結果ヲ生セシム、若シ口頭辯論ノ期日ニ際シテハ欠席判決ヲ爲スコトヲ得ヘシ
 裁判所ハ訴訟行為ノ無効ニ歸セサルコトニ注意スヘキ一般ノ原則ニ從ヒ職權ヲ以テ委任ノ欠缺ナキヤ否ヤヲ調査スヘキモノトス而シテ委任ナク又ハ適式ノ委任ニアラサルハ裁判所ハ代理人ナキモノト看做シ之ニ訴訟行為ヲ許サ、ルヲ通例トナセトモ輒ク其欠缺ヲ補正

シ得ルト認ムルトキハ事情ノ限度ニ從ヒ費用及ヒ損害賠償（代理人ト稱スル者ニ訴訟行為ヲ爲サシムルニ因リ生スル費用及ヒ損害）ニ對スル保証ヲ立テシメ又ハ保証ヲ立テシムル必要ナシト認ムルトキハ之ヲ立テシメスシテ假ニ訴訟ヲ爲スコトヲ得ルナリ（訴第七〇第二）上ニ述フルカ如ク假ニ訴訟行為ヲ許ストキハ裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間ニ委任ノ欠缺ヲ補正セシム而シテ此期間滿了後ニ至リ始メテ本案ノ裁判ヲ爲スヘキナリ但期間ノ滿了後ト雖モ判決ニ接着スル口頭辯論（最終ノ口頭辯論）ノ終結マテハ追完スルコトヲ得ルモノトス（訴第七〇第三）

第二款 輔佐人

輔佐人ハ口頭辯論ニ於テ委託者（原告若クハ被告）ノ權利（例ヘハ證據申立ノ如シ）ヲ伸張シ又ハ防禦（例ヘハ抗辯ノ如シ）スル爲メ必要ナル行為ヲ爲シ以テ委託者ヲ補助スルニ用ヒラル、者トス而シテ此輔佐人ヲ任用スルニハ辯護士ヲ以テスルヲ通例トス然レトモ又他ノ訴訟能力者ヲ以テ補佐人ト爲サントスル片ハ之ヲ爲シ得ヘキナリ此場合ニ於テハ何時ニテモ裁判所ノ取消シ得ヘキ許可ヲ得テ任用スヘキモノトス（訴第七一第一）

右ニ述フルカ如ク輔佐人ハ委託者ノ爲メ權利ノ伸張又ハ防禦等ニ付キ必要ナル行為ヲ爲スモノナルヲ以テ輔佐人ノ演述シタル事項ハ法律上委託者自ラ之ヲ爲シタルト同一ノ效アルモノトス然レモ委託者即時ニ其演述ヲ取消シ又ハ之ヲ更正シタル片ハ此限ニアラサルナリ（訴第七一第二）

第五節 訴訟費用

訴訟費用ハ裁判所ノ行為ニ對シ國庫ニ納ムヘキモノ并ニ國庫ニ於テ立替ヘタルモノト裁判所外ノ費用即チ裁判費用外ノモノニシテ當事者カ訴訟ヲ爲スニ付キ生スルモノト二者ヨリ成立スルモノトス

訴訟費用ハ敗訴ノ原告若クハ被告ニ於テ其全部ヲ負擔スルヲ以テ原則トス故ニ敗訴ノ原告若クハ被告ハ自己ノ費用ヲ負擔シ且相手方ノ支出シタル費用ヲモ辨償スルノ義務アリ而シテ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ其費用カ權利ノ伸張又ハ權利ノ爲メ必要ナル事項ニ付キ生シタルモノナルヤ否ヤニ付キテ査定シタルモノニ限ルナリ(訴第七二第一)訴訟中ニ原告カ訴ヲ取下ケ又ハ請求ヲ拋棄シタル片ハ判決ナクシテ事件完結シ敗訴者ヲ定ムル裁判ナキヲ以テ訴訟費用ノ負擔者ヲ定ムルコトヲ要スル片ハ原告ヲ以テ費用ノ負擔者ト定ムヘキナリ又相手方ニ於テ原告ノ請求ヲ認諾シタル片ハ原告カ請求ヲ拋棄シタル片ト同シク判決ナクシテ事件完結スルヲ以テ被告カ敗訴シタル場合ト均シク其訴訟ニ因リ生シタル費用ハ之ヲ被告ニ負擔セシムヘキナリ

(訴第七二第二)

當事者ノ各方一分ハ勝訴ト爲リ一分ハ敗訴ト爲ル片ハ其費用ヲ相濟シ又ハ分擔ス故ニ裁判所ニ於テ相濟セシムルヲ以テ相當トナス片ハ相濟ノ言渡ヲ爲シ分擔セシムルヲ以テ相當ト爲ス片ハ其割合額ヲ定メテ分擔ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス(割合額ヲ定ムルニハ係争物ノ價額又ハ金額ノ割合ト當事者ノ作爲ニ出テ費用生セシメタル狀況トチ參酌シテ標準トス其割合ハ例ヘハ原告ニ費用ノ三分ノ一被告ニ費用ノ三分ノ二ヲ負擔セシメ又ハ費用ノ四分一ヲ當事者ノ一方ニ負擔セシメ殘餘ノ分ヲ相濟セシム可キコトヲ定ムルノ類ナリ)相濟ノ言渡アリタル場合ニ於テハ各當事者ハ其支出シタル費用ハ自ラ之ヲ負擔シ他ノ一方ニ對シ辨濟ヲ請求スルコトヲ得サルナリ(訴第七三第一)然レトモ裁判所ハ當事者ノ一方ノ請求全部正當トセラレサルモ其要求格外ニ過分ナルニ非ラスシテ且其一分ノ過分ナルカ爲メニ別段費用ヲ増加セシメタルニ非サル片ハ他ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得ルナリ又原告カ過分ナル要求ヲ爲シ之レカ爲メ別段ノ費用ヲ生スルモ其過分ノ要求タル

ヤ適當ニ要求ヲ爲スコトノ容易ナラサル片(判事ノ意見鑑定人ノ鑑定若クハ相互ノ計算ニ因ルニアラサレハ正當ノ要求額ヲ定ムルコトヲ得サル場合)ハ當事者ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得ルナリ(訴第七三)

被告カ口頭辯論ノ期日ニ少シモ争ハスシテ原告ノ請求ヲ認諾シ且其作爲ニ因リ訴ヲ起スニ至ラシメタルニ非サルトキ(例ハ原告カ被告ニ對シ義務履行ノ督促ヲ爲サスシテ直ニ訴ヲ起シタルカ如キ場合ヲ云フ)原告ハ勝訴ト爲リタルニ拘ハラズ訴訟費用ヲ負擔スヘキモノトス(訴第七

四)

過失ニ因ルト否トヲ問ハス期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニ因リ期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ノ爲メニスル期日ノ指定期間ノ延長其他訴訟ノ遲滯ヲ生セシメタル原告若クハ被告ハ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラズ懈怠又ハ過失ノ爲メニ生セシメタル費用ヲ負

擔セサルヘカラス(訴第七五)又無益ナル攻撃又ハ防禦ノ方法(證據方法ヲ包含ス)ヲ主張シタル原告若クハ被告ニ付テハ裁判所ハ本案ノ勝訴者ト爲リタルニ拘ハラズ其無益ナル攻撃又ハ防禦ノ方法ニ因リ生シタル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得(訴第七六)

無益ナル上訴又ハ取下ケタル上訴ノ費用ハ之ヲ提出シタル原告若クハ被告ノ負擔ニ歸スヘキモノトス(訴第七七)

上訴ニ因リ裁判ノ全部又ハ一分ヲ廢棄若クハ破毀スル片ハ訴訟ノ費用ハ第一審ヨリ上訴審マテノ訴訟ノ總費用ヲ合併シテ裁判スヘキモノトス(訴第七八第二)

原告若クハ被告カ上訴審ニ於テ主張シタル事實又ハ攻撃若クハ防禦ノ方法ニシテ前審ニ於テ主張シ得ヘキニ之ヲ爲サス上訴審ニ至リ新ニ之ヲ提出セシニ因リ勝訴者トナリタル片ハ其勝訴者トナリタル原告若クハ被告ニ上訴ニ付テノ費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔セシムルコ

トヲ得ルナリ(訴第七八第二)

和解ニ依テ争ノ落着シタル片ハ和解ヲ爲ス前訴訟中ニ生シタル訴訟費用及ヒ和解ノ費用ハ當事者間ニ於テ別段ノ契約ナキトキハ互ニ相消シタルモノト看做スヘキナリ(訴第七九)

連帶義務ノ共同訴訟人ハ其訴訟ヨリ生スル費用ヲ連帶シテ負擔スヘキモノトス然レモ若シ法律ノ規定ニ從ヒ費用ニ付キ共同訴訟人ノ連帶義務ノ生セサル片ニ限り其費用ハ相手方ニ對シ共同訴訟人各自平等ニ之ヲ負擔スヘキモノトス若シ共同訴訟人ノ訴訟ニ於ケル利害ノ關係カ著シク大小ノ差異アル片ハ裁判所ハ意見ヲ以テ其利害關係ノ程度ニ從ヒ割合ヲ以テ其費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ルナリ(訴第八

○第一)

又其訴訟人中ノ或ル者カ他ノ者ニ關セス特別ニ攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタルモ終ニ其效驗ナク敗訴シタル片ハ其攻撃又ハ防禦ノ方

法ヲ主張スルニ付生シタル費用ハ其者自ラ之ヲ負擔スヘキナリ(訴第八〇第二)

八〇第二

從參加ニ因リ原告若クハ被告間ニ生シタル費用ハ左ノ二種ニ區別シテ之ヲ裁判スルモノトス

- (一) 從參加ニ對シ原告若クハ被告カ異議ヲ述フル片第五十七條ノ規定ニ從ヒ決定ヲ以テ從參加ヲ許サス之ヲ却下スル場合ニ於テハ費用ノ裁判ハ本案ノ判決ヲ待タス其決定中ニ之ヲ爲スモノトス(從參加ヲ却下スル場合ニ於テハ其參加人ハ訴訟ヨリ脱退セラレ、チ以テ本案ノ裁判中ニ之ヲ爲サ、ルナリ)(訴第八一第一)

- (二) 從參加ヲ許シ又ハ之ニ對シ原告若クハ被告カ異議ヲ述ヘサル場合ニ於テハ費用ノ裁判ハ本案ノ判決中ニ之ヲ爲スモノトス(訴第八一第二)

總テ訴訟費用ノ裁判ノミニ對シテハ獨立シテ不服ヲ申立ツルコトヲ

得ス然レモ本案ノ裁判ニ對シ上訴ヲ許シタルモノニ付上訴ヲ爲シタル片ハ其上訴ニ併合シ又相手方ヨリ本案ノ裁判ニ對シ上訴ヲ爲ス片ハ其上訴ニ附帶シテ費用不服ノ申立テヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第八

二)

裁判所書記、法律上代理人、訴訟代理人、及ヒ執達吏ノ過失若クハ懈怠ニ因リ爲メニ費用ノ生シタルトキ (例ヘハ不當ノ送達ヲ爲シ又ハ期日ニ出頭スルコトヲ懈怠シ又ハ書面提出ヲ失念シ又ハ委任者ノ意思ニ反スル行爲ヲ爲シ夫レ爲メ費用ノ生シタル場合ヲ云フ) 受訴裁判所當時事件ノ繫属スル裁判所ヲ謂フ) ハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其費用ノ辯濟ヲ過失者又ハ懈怠者ニ負擔セシムル決定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス其決定ヲ爲スニハ前以テ其關係人 (當事者ヲ始メ裁判所書記以下執達吏マテヲ包含ス) ヲ訊問シ口頭又ハ書面ヲ以テ之ニ付テノ陳辯ヲ爲サシムヘク復必スシモ口頭辯論ヲ經ルヲ要セス(訴第八三)

右ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第八三第二) 辨濟ヲ受クヘキ費用額ハ第一審ニ於テ生シタル費用ナルト上級審ニ於テ生シタル費用ナルトヲ問ハス總テ訴訟ノ第一審トシテ繫属シタル裁判所ニ申請シ其申請ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ確定ス其申請ヲ爲スコハ訴ノ取下ケ、拋棄、認諾(訴第七二第二) 又ハ上訴取下ノ場合ヲ除ク外強制執行ヲ爲シ得ヘキ裁判ニ基キ之ヲ爲スヲ要件トス又申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ通例トスレモ口頭ヲ以テモ亦之ヲ爲スコトヲ得ルナリ(口頭ヲ以テ申請ヲ爲スハ第三百三十五條ノ規定ニ從ヒ裁判所書記ハ其調書ヲ作ルヘキナリ)(訴第八四第一第二第三) 第六號書式參看)

右ノ申請ニハ費用計算書及ヒ相手方ニ付與ス可キ計算書ノ謄本及ヒ各箇費用額ノ説明ニ必要ナル證書 (例ヘハ證人、鑑定人等ニ支拂ヒタル旅費、日當ノ受取証又ハ執達吏ニ送達ノ爲メ支拂ヒタル手数料ノ受取証等其費用ハ權利ノ伸張又ハ防禦ノ爲メ必要ナリシ事項ヨリ生シタルヲ証スル書

類ヲ云フ)ヲ添附ス可キモノトス(訴第八四(第七號書式參看))

右ノ申請アリタル裁判所ハ其費用ノ(權利ノ伸張又ハ防禦ノ爲メ必要ニ因リ生シタルモノナリヤ否)計算書ニ掲ケタル各箇ノ費用額ノ適當ナルヤ否若クハ總計額ニ違算ナキヤ否等費用計算書ノ計算上ノ検査ヲ裁判所書記ニ命スルコトヲ得ルナリ(訴第八五第二)

費用確定ノ決定ニ付口頭辯論ヲ經ルト否トハ事件ノ難易ニ依リ裁判所ニ於テ適宜ニ之ヲ定ムルヲ得ルモノトス(訴第八五第一)口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲナスルハ其前ニ當リ相當ノ期間ヲ定メテ相手方ニ計算書ノ謄本ヲ送達シ其期間内ニ計算書ニ付キ書面又ハ口頭ヲ以テ意見ヲ陳述スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得(訴第八五第三)

訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ割合ニ從ヒ分割スヘキルハ裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相當ノ期間ヲ定メ相手方ニ計算書ノ謄本ヲ送達シ其期間内ニ自己ノ計算書ヲ差出スヘキ旨ヲ催告ス可キモノトス

若シ催告ヲ受ケタル相手方カ右ノ期間内ニ其計算書ヲ差出サ、ルルハ其請求シ得ヘキ費用額ヲ願ミス申請者ノ差出シタル計算書ニ依リ決定ヲ爲ス可キモノトス然レモ此決定ハ相手方カ後日自己ノ費用ヲ以テ其費用額確定ノ申請ヲ爲スニ付テノ妨ケト爲ルコトナシ(訴第八六)

費用確定ノ決定ニ對シテハ相手方ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第八五第二)

第六節 保證

保證ハ訴訟上當事者ノ一方ノ訴訟行爲ニ因リ他ノ一方ニ生セシメタル損害ヲ償フ爲メニ立テシムルモノトス此保證ハ裁判所ノ意見ニ於テ擔保ニ十分ナリトスル現金又ハ有價証券ヲ供託所ニ供託シテ之ヲ爲スモノナリ然レモ當事者カ別段ノ合意ヲ以テ保證物ヲ定メ又ハ保證ヲ立テシムルコトヲ裁判所ノ意見ニ任シタル場合ハ此限ニアラサ

ルナリ(訴第八七)

外國人カ原告若クハ原告ノ從參加人ナルモト雖モ被告ノ外國人ト内國人トヲ問ハス其求メニ因リ訴訟費用ニ對シ保證ヲ立ツルノ義務アルモノトス然レモ左ノ場合ニ於テハ其義務ヲ生セス(訴第八八)

- 一 國際條約又ハ原告ノ屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツル義務ナキモ

- 二 反訴ノ場合

- 三 證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ場合

- 四 公示催告ニ基キ起シタル訴ノ場合

右ニ限ラス第二審以上ノ裁判所ニ於テ初テ保證ヲ立ツヘキコトヲ求メ得ヘキナリ)被告ノ各審級ニ於テ支出スヘキ訴訟費用ヲ標準トシテ保證ヲ立ツヘキ數額ヲ確定スヘキモノトス故ニ例ヘハ第一審ノ受訴裁判所

ニ於テ保證金ヲ定ムルニハ其第一審裁判所ニテ支出スヘキ訴訟費用額ハ勿論控訴審及ヒ上告審ニ於ケル費用額ヲモ豫メ概算シテ確定スヘキナリ(訴第八九第一第二)

右ノ如ク確定スルモ訴訟中其確定シタル金額ヨリ案外ニ費用ヲ支出セサルヘカラサルニ至リ保證額爲メニ不足トナリタルモハ被告ハ更ニ保證額ノ増加ヲ求ムルコトヲ得此増加ヲ爲スニ付テノ手續ハ前述ノ手續ト相同シ然レトモ請求中爭ナキ部分ヲ以テ其不足額ヲ償フニ十分ナルモハ保證額ノ増加ヲ求ムルコトヲ得ス(訴第八九第三)

裁判所ハ保證ヲ立ツヘキ場合ニ於テハ原告ニ之ヲ立ツヘキ期間ヲ指定スヘシ若シ此期間ヲ經過スルモ保證ヲ立テサル場合ニ於テハ被告ノ申立ニ因リ訴訟ヲ取下ケタルモノト看做シ判決ヲ以テ宣言ス又訴訟ノ上訴裁判所ニアルモハ其上訴ヲ取下ケタリト看做シテ宣言スヘシ然レモ前述ノ期間ヲ經過シタルモト雖モ原告ノ裁判所ニ保證ヲ立

テタルルハ此限ニアラサルナリ(訴第九〇)

第七節 訴訟上ノ救助

訴訟上ノ救助ハ貧窮ニシテ裁判費用ヲ償フヘキ資力ナキ者ニ權利ノ伸暢ヲ爲シ得セシムル爲メノ方法ナリ此方法ハ純然タル訴訟ノミニ限ラス本法中ニ設ケタル各箇ノ手續殊ニ證據保全ノ手續督促手續公示催告手續仲裁手續ニ於テ裁判所カ此手續ニ關シ行爲ヲ爲スルニ於テモ亦之ヲ適用ス可キモノトス

訴訟上ノ救助ヲ求ムニハ左ノ二條件ヲ具備スルコトヲ要ス(訴第九一)
(一) 自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニ非サレハ訴訟費用ヲ支出シ能ハサルルキ

(二) 其訴訟ノ目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルルキ

右ノ二條件ヲ具備スルニ於テハ何人ト雖モ訴訟上ノ救助ヲ受グルコトヲ得ヘシ

訴訟上ノ救助ハ獨リ本邦人ノミナラス外國人ニモ亦之ヲ付與スルコトアリ但國際條約ニ依リ又此條約アラサルモ其國ノ法律ニ於テ本邦人ニ訴訟上ノ救助ヲ受ケシムル權ヲ定メタル國ノ外國人ニ限ル而シテ右ニ述ヘタル二條件ヲ具備スルモノタラサルヘカラス(訴第九二)
訴訟上ノ救助ハ書面ヲ以テ之ヲ申請スルモノトス其申請ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ且證據方法ヲ開示シテ其事件ノ繫屬スル裁判所ニ提出スヘキモノトス(第八號書式)訴第九三

前審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケ而シテ上級審ニ於テ亦更ニ救助ヲ求ムルルルハ無資力ヲ証スル市町村長ノ證書ヲ差出スコトヲ要セス又訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ相手方カ上訴ヲ爲スルハ上訴ニ附帶スルト否トヲ問ハス被上訴人ノ權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要セサルナリ(訴第九四第二)

訴訟上ノ救助ノ効力ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

(一) 救助ヲ受クヘキ條件ノ存セザリシ片又ハ其條件ノ消滅シタル片(民訴第九五)

(二) 救助ヲ受ケタル者ノ死亡セシ片

(三) 救助ヲ受ケタル訴訟事件ノ終結シタル片

訴訟上ノ救助ヲ受ケタルモノハ左ノ効力ヲ生ス(訴第九七)

(一) 裁判費用(國庫ノ立替金ヲ包含ス)ヲ濟清スルコトノ假免除

(二) 訴訟費用ノ保證ヲ立ツルコトノ免除

(三) 送達及ヒ執行行為ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利

(四) 必要ナル場合ニ一時無報酬ニテ辯護士附添ヲ求ムルコト

訴訟上ノ救助ハ固ヨリ之ヲ付與スルモノニシテ其救助ヲ受クル者ノ相手方ノ權利ヲ制限スルコトナシ故ニ相手方ニ生シタル費用ヲ濟スル義務ニ影響ヲ及ボサルナリ(訴第九八)

訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲ノ假ニ濟清ヲ免除シタル裁判費用ハ

訴訟費用ニ付キ確定裁判ヲ受ケタル相手方又ハ訴若クハ上訴ノ取下、

拋棄認諾若クハ和解ニ因リ訴訟費用ヲ負擔スヘキ相手方ヨリ之ヲ取

立ツルコトヲ得ルナリ(訴第九九第一)

又救助ヲ受ケタル者ニ附添ヒタル執達吏又ハ辯護士ハ同一ノ條件ア

ルトキハ亦自己ノ權利ニ依リ費用確定ノ方法ヲ以テ其手数料及ヒ立

替金ヲ取立ツルコトヲ得ルナリ(訴第九九第二)

訴訟上ノ救助ハ一時ノ支辨猶豫ヲ與フル精神ナルヲ以テ其救助ヲ受

ケタル者自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害セスシテ費用ノ濟清ヲ

爲シ得ルニ至ル片ハ其假免除ヲ得タル數額ヲ當然追拂ヒスル義務ヲ

生スルモノトス(訴第一〇〇)

訴訟上救助ノ付與並ニ辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請、訴訟上救助ノ

取消及ヒ數額追拂ノ義務ニ付テノ決定ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後之ヲ爲ス此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ(第九號書式參看(訴第一〇一))

訴訟上ノ救助ヲ付與シ又ハ救助ノ取消ヲ拒ミ若クハ費用追拂ヲ命スルコトヲ拒ム決定ニ對シテハ檢事ニ限り抗告ヲ爲スコトヲ得其他ノ者ニアリテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス蓋シ此等ノ決定ハ國庫ノ費用ニ關スルヲ以テナリ(民訴第一〇二第二)辯護士ノ附添ヲ命スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス(同第二)

訴訟上ノ救助ヲ拒ミ若クハ救助ヲ取消シ又ハ辯護士ノ附添ヲ拒ミ又ハ費用ノ追拂ヲ命スル決定ハ國庫ニ損害ヲ生セシムル恐レナキヲ以テ檢事ハ此決定ニ對シ上訴ヲ爲ス必要ナシト雖モ原告若クハ被告ハ利害ノ關係アルヲ以テ之ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第一〇二第三)

第三章 訴訟手續

第一節 口頭辯論及ヒ準備書面

第一款 準備書面

凡ソ訴訟法ニ於テハ判決ヲ爲スヘキ裁判所ニ於ケル訴訟ニ付テノ當事者ノ辯論ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ原則トス(訴訟法ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ定メタルモハ例外トス)(訴第一〇三)口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備ス此書面ヲ準備書面ト謂フ(訴第一〇四)

準備書面ハ必スシモ之ヲ作ルヲ要セス之ヲ作ラサルモ夫レカ爲メ口頭辯論ノ期日ヲ變更シ若クハ其期日ニ至テ延期シ又ハ後ノ期日ヲ定メテ之ヲ繼續スルニ至ラシメタルモ之レヨリ生シタル費用ヲ負擔スルノミニテ訴訟上爲メニ權利ノ損害ヲ來タスコトナシ然レモ準備書面ハ訴訟審理ヲ秩序正シク且澁滯ナク進行セシムルノ便益アルヲ以テ可成之ヲ作ルヲ可トス

準備書面ハ口頭辯論ノ準備ノ爲メ之ヲ作ルモノニシテ之ヲ以テ訴訟ヲ爲スニアラス故ニ訴訟ニ關スル總テノ事實ヲ冗長ニ掲ケス唯對手人及ヒ口頭辯論ヲ速ニ進行セシメ且之ヲ辨理スル爲メ知了セサルヘカラサル事項ヲ簡單ニ記載スヘキモノトス故ニ事實上ノ關係ノ説明並ニ法律上ノ討論ハ之ヲ掲載スルコトヲ許サ、ルナリ(民訴第一〇六)準備書面ニ掲載スヘキ諸件ハ左ノ如シ(民訴第一〇五)第一〇號書式參看)

第一 當事者及其法律上代理人ノ氏名、身分、職業、住所、裁判所、訴訟物及ヒ附屬書類ノ表示

第二 原告若クハ被告カ法廷ニ於テ爲サント欲スル申立

第三 申立ノ原因タル事實上ノ關係

第四 相手方ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述

第五 原告若クハ被告カ事實上主張ノ證明又ハ攻撃ノ爲メ用井ン

トスル證據方法及ヒ相手方ノ申立テタル證據方法ニ對スル陳述

第六 原告若クハ被告又ハ其訴訟代理人ノ署名及ヒ捺印

第七 年月日

又準備書面ニハ訴訟行爲ヲ爲ス可キ權ヲ有スルコトヲ證明スル證書ノ原本、正本又ハ謄本其他原告若クハ被告ノ手中ニ存スル證書ニシテ準備書面中ニ申立ノ原因トシテ引用シタル證書謄本ヲ添附スヘキモノトス(民訴第一〇七第一)若シ證書ノ一部分ノミヲ要用トスルハ其冒頭即チ起頭ノ文言ト要用ノ部分ト終尾即チ末文ト日附、署名及ヒ印章ヲ謄寫シタル抄本ヲ添附スルヲ以テ足ル(民訴第一〇七第二)

若シ右ノ證書カ相手方ノ已ニ了知シタルモノニ係リ又ハ大部ナルハ單ニ其證書ヲ表示シタル書面ヲ添附シ相手方ヲシテ之ヲ閱覽セシメント欲スル旨ヲ附記スルヲ以テ足レリトス(訴第一〇七第三)

當事者ハ準備書面及ヒ其附屬書類並ニ相手方ニ付與スル爲メ必要ナ

ル謄本ヲ裁判所書記課ニ差出スヘキモノトス(訴第一〇八)

第二款 口頭辯論

口頭辯論ハ訟廷ニ於テ行フモノニシテ日本語ヲ以テ之ヲ爲スモノトス若シ口頭辯論ニ與カル者日本語ニ通セサルハ通事ヲ用ユヘシ(訴第一二五構第一一五)然レモ外國人カ原告若クハ被告タル訴訟ノ場合ニ於テ其訴訟ノ審問ニ參與スル官吏即チ判事書記等總テ其外國語ニ通スルハ裁判長ノ意見ニ依リ便宜外國語ヲ以テ辯論ヲ爲スコトヲ得(訴第一二五構第一一八)又口頭辯論ニ與カル者嚚者又ハ啞者ニシテ文字ニ通セサルハ通事ヲ用ユヘキモノトス(訴第一二六)

口頭辯論ハ裁判長之ヲ開閉シ且之ヲ指揮スルモノトス裁判長ハ其他訟廷ニ於テノ秩序ヲ維持スル爲メ其處分ヲ爲ス權ヲ有ス(構第一〇八)乃至第一一一參看

裁判長ハ發言ヲ許シ且其命令ヲ遵奉セサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ

得又事件ニ付キ十分ナル説明ヲ爲サシメ且間斷ナク辯論ノ終了スルコトニ注意シ必要ナル場合ニ於テハ口頭辯論繼續ノ爲メ後ノ期日ヲ定メ且裁判所ノ判決並ニ決定ヲ言渡スモノトス(訴第一〇九)

口頭辯論ハ當事者ノ申立即チ裁判ヲ受クヘキ事項ノ申立ヲ爲スニ因リテ始マルモノトス

口頭辯論ヲ開キタルハ當事者ハ先ツ互ニ右ノ申立ヲ爲シ然ル後該申立ニ付理由ヲ付スル爲メ演述ヲ爲スモノトス其演述ハ事實上及ヒ法律上ノ點ニ付キ訴訟ノ關係ヲ明瞭ニスルヲ以テ目的トシ且任意ニ之ヲ爲スヘキモノトス口頭演述ニ換フルニ書面ヲ以テシ若クハ其演述ヲ爲サシテ之ヲ書面ニ讓ルコトヲ得ス然レモ或ル書面ノ一部分ナル文字上ノ旨趣ニ付キ争アルカ又ハ文字上ノ旨趣ヲ引證スルカ又ハ金錢物品ノ數額ヲ申述スルカ如キ要用ナルハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ルナリ(訴一一〇)

各當事者ハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シ陳述ヲ爲スヘキモノトス
若シ之ヲ爲サス又ハ相手方ノ主張スル事實ヲ明カニ争ハス又ハ他ノ
陳述ヨリシテ間接ニモ之ヲ争フ意思ノ顯ハレサルハ其事實ヲ自白

シタルモノト看做スヘキナリ(訴第一一一第一第二)

相手方ノ主張スル事實ニ對シ其事實ヲ知ラスト答フコトハ之ヲ許サ、
ルヲ以テ通例トス然レモ原告被告自己ノ行爲ニ非サル事實又ハ自己
ノ實驗シタルモノニ非サル事實ニ限り不知ヲ以テ答辯スルモ其答辯
シタル事實ハ争ヒタルモノト看做スナリ(訴第一一一第三)

裁判長ハ職權ヲ以テ調査ス可キ點ニ關シ疑ノ存スルハ相手方ヨリ
何等ノ陳述ヲ爲サルハト雖モ其疑ニ付キ注意ヲ爲スコトヲ得又裁
判長ハ問ヲ發シテ當事者ノ不明瞭ナル申立ヲ釋明セシメ又ハ主張シ
タル事實ノ不十分ナル説明ヲ補充セシメ或ハ更ニ證據方法ヲ申出テ
シメ其他都テ訴訟ノ關係ヲ確定スルニ必要ナル陳述ヲ爲サシムヘキ

ナリ又陪席判事モ裁判長ニ告ケテ問ヲ發スルコトヲ得若シ問ニ對シ
テ答辯セス又ハ其答辯然セサルハ相手方ノ利益ト爲ルヘキ答辯
ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得ルナリ(訴第一一二第二第三第五)
當事者ハ相手方ニ對シ自ラ問ヲ發スルコトヲ得然レモ相手方ニ問
ヲ發スルノ必要アルハ其事項ヲ裁判長ニ申立テ裁判長ヨリ問ヲ發
セシムコトヲ求ムルヲ得ルナリ(訴第一一二第四)

口頭辯論ノ指揮ニ關シテ爲ス裁判長ノ命令又ハ裁判長若クハ陪席判
事ノ發シタル問ニ對シ辯論ニ與カル者ヨリ法律上許スヘカラサル命
令又ハ發問ナリトシテ異議ヲ述ヘタルハ裁判所ハ其異議ニ付キ直
チニ裁判ヲ爲スヘシ(訴第一一一三)

裁判所ハ事件ノ關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ原告若クハ被告ニ自身出
頭ヲ命スルコトヲ得ルモノトス(訴第一一四)又裁判所ハ原告若クハ被
告ノ引用シタル証書ニシテ其手中ニ存スルモノハ之ヲ提出セシムル

コトヲ得若シ此證書外國語ヲ以テ作リタルモノナルハ其譯書ヲ添
附セシムルコトヲ得ルナリ(訴第一一五)

又當事者ノ所持スル訴訟記録ニシテ事件ノ辯論及ヒ裁判ニ關スルモ
ノアルハ之ヲ提出セシムルヲ得(訴第一一六)

裁判所ハ當事者ノ主張スル事實ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ト爲ス片
ハ檢證及ヒ鑑定ヲ命スルコトヲ得ルモノトス此手續ハ當事者ノ申立
ニ因リ命スル檢證及ヒ鑑定ニ付テノ規定ニ從フ(訴第一一七)

裁判所ハ訴訟ヲ指揮スル權利ニ限リ一訴訟ニ於テ爲シタル數回ノ請
求又ハ本訴及反訴ニ付テノ辯論ヲ分離シテ辯論スルコトヲ得(訴第一
一八)又裁判所ハ同一ノ請求ニ關スル數箇ノ獨立シタル攻撃及ヒ防禦
ノ方法ヲ提出シタルハ先ツ辯論ヲ其一ニ制限スルコトヲ得(訴第
一一九)之ニ反シ裁判所ハ同一ノ人若クハ別異ノ人ノ數箇ノ訴訟ニシ
テ其裁判所ニ繫屬スルモノ、辯論及ヒ裁判ヲ併合セシムルコトヲ得

但其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一箇ノ訴ニ於テ主張シ得ヘキ片ニ
限ルモノトス(訴第一二〇)若シ一訴訟ニ付テノ裁判ノ全部若クハ一分
ニシテ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成
立ニ繫ルトキハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ(訴第一二一)又民事訴訟中
罰スヘキ行爲ノ嫌疑生スルトキハ其罰スヘキ行爲カ訴訟ノ裁判ニ影
響ヲ及ス片ニ限リ刑事訴訟手續ノ完結ニ至ルマテ辯論ノ中止ヲ爲ス
可キモノトス(訴第一二二)裁判所ハ其命シタル分離若クハ併合ヲ取消
スヲ得(訴第一二三)又必要ナル場合ニ於テハ既ニ閉チタル辯論ノ再
開ヲ命スルヲ得(訴第一二四)

原告若クハ被告又ハ訴訟代理人若クハ輔佐人ニシテ適當ノ演述ヲ爲
シ能ハサルハ裁判所ハ其演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ
演述セシムヘキヲ命ス可シ又他人ノ爲メ裁判所ニ於テ辯論ヲ爲ス
ヲ以テ生業トスル訴訟代理人若クハ輔佐人ヲ退斥セシムルコトヲ得

退斥ヲ爲スルハ新期日ヲ定メ且退斥ノ決定ヲ原告若クハ被告ニ送達スヘキモノトス此命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルナリ(訴第一二七)禁止又ハ退斥ヲ命セラレタル者新期日ニ同一ノ者原告若クハ訴訟代人トシテ出廷スルハ其原告若クハ其訴訟代人ニ依リ代理セラレタル原告ハ出廷セサルモノト看做シ申立ニ依リ欠席判決ヲ爲スコトヲ得(訴第一二八第二)

辯論ニ與カル者秩序維持ノ爲メ(構第一〇八乃至第一一一參看)法廷ヨリ退斥セラレタルハ申立ニ因リ本人ノ任意ニ退去シタルモノト看做シ欠席判決ヲ爲スコトヲ得(訴第一二八第一)

口頭辯論ニ付テハ調書ヲ作ルヘキモノトス其調書ニ掲クヘキ諸件ハ左ノ如シ(第十一號書式參看)(訴第一二九)

- 第一 辯論ノ場所年月日
- 第二 判事裁判所書記及ヒ立會ヒタル檢事若クハ通事ノ氏名

第三 訴訟物及ヒ當事者ノ氏名

第四 出頭シタル當事者、法律上代理人及輔佐人ノ氏名若シ原告若クハ被告闕席シタルハ其闕席シタルヲ

第五 公ニ辯論ヲ爲シ又ハ公開ヲ禁シタルヲ

辯論ノ進行ニ付テハ其要領ヲ調書ニ記載シ且之ニ關係ノ附録書類ヲ添付スヘキモノトス而シテ其調書ニ記載シテ明確スヘキ諸件ハ左ノ如シ(訴第一三〇)

- 第一 自白認諾、拋棄及ヒ和解
- 第二 明確ス可キ規定アル申立及ヒ陳述
- 第三 證人及ヒ鑑定人ノ供述但供述ハ以前聽カサルモノナルハ又ハ以前ノ供述ニ異ナルハ限ル

第四 檢證ノ結果

第五 書面ニ作り調書ニ添附セサル裁判(判決、決定及ヒ命令)

第六 裁判ノ言渡

右第一乃至第四ニ掲ケタル調書ノ部分ハ法廷ニ於テ之ヲ關係人ニ讀
聞カセ又ハ之ヲ閱覽セシメ而シテ調書ニ其手續ヲ履ミタルコト及ヒ承
諾ヲ爲シタルコト又ハ承諾ヲ拒ミタル理由ヲ附記スヘキモノトス(訴第
一三一)又調書ニハ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印スヘキモノトス若
シ裁判長差支アルハ官等ノ最モ高キ陪席判事之ニ署名捺印スヘキ
モノトス(訴第一三二第一)

區裁判所ノ口頭辯論ニ於テ作リタル調書ニシテ署名捺印スヘキ判事
差支アルハ其裁判所書記ノ署名捺印ニテ足ルモノトス(訴第一三二
第二)

凡ソ訴訟法ニ從ヒ裁判所書記カ職權ヲ以テ作ルヘキ總テノ調書ニハ
口頭辯論ニ付テノ調書ノ規定ヲ準用スルモノトス(訴第一三三第一三
五)

第二一節 送達

送達ハ書類ノ正本又ハ謄本ヲ交付シテ訴訟上必要ナル事項ヲ當事者
及其訴訟關係人ニ知ラシムル方法ナリ送達ノ本人ヲ送達能働者ト云
ヒ送達ヲ受クル者ヲ送達所働者又ハ送達受領者ト稱ス

送達スヘキ書類ハ謄本ヲ以テ之ヲ爲スヲ通例トス若シ其書類ノ正本
又ハ認證シタル謄本ヲ交付スヘキ規定アルハ其正本又ハ認證シタ
ル謄本ヲ交付スヘシ(正本ヲ送達スヘキ規定ハ訴第一六一第二三、八第四〇
八第四四第四七三第七九九九謄本ヲ送達スヘキ規定ハ訴第一五〇參看)其他
ノ場合ニ於テハ謄本ヲ交付シテ之ヲ爲スモノトス(訴第一三七)(原告若
クハ被告數人ノ代理人ニ爲シ又ハ同一ナル原告若クハ被告ノ代理人數人中ノ
一人ニ爲スヘキ送達ハ謄本又ハ正本ノ一通ヲ交付スルヲ以テ足レリトス)

訴訟能力ヲ有セサルモノニ送達ヲ爲スヘキトキハ其法律上代理人ニ
送達ヲ爲スモノトス公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘ

ラル、コトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル又數人ノ首長若クハ事務擔當者アル場合ニ於テハ其中ノ一人ニ對シ送達ヲ爲スヲ以テ足レリトス(訴第一三八)

豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス(訴第一三九)又囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲スモノトス(訴第一四〇)

財産權上ノ訴訟ニ付テノ送達ハ總理代人ニ之ヲ爲シ又商業上ヨリ生シタル訴訟ニ付テノ送達ハ代務人ニ之ヲ爲シテ原告若クハ被告ノ本人ニ送達ヲ爲シタルト同一ノ效アルモノトス(訴第一四一)、訴訟代理人アル原告若クハ被告ニ對スル送達ハ委任ノ旨趣ニ反セサル限りハ其訴訟代理人ニ之ヲ爲スヲ以テ本則トス然レモ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタル送達ハ其訴訟代理人アルト雖モ其效アリト

ス(訴第一四二)

原告若クハ被告受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルハ其所在地ニ假住所ヲ選定シテ之ヲ届出ツヘキモノトス(第十二號

式參看(訴第一四三第一)

右ノ届出ハ遅クトモ最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲シ又其前ニ書面ヲ差出ストキハ其書面ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス(訴第一四三第二)若シ此届出ヲ爲サ、ルハ裁判所書記又ハ其委任ヲ受ケタル吏員(執達吏又ハ郵便配達人)交付ス可キ書類ヲ原告若クハ被告ノ名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得此送達ハ其書類ノ原告若クハ被告ニ到達スルト否トヲ問ハス又何時ニ到達スルトヲ問ハス郵便ニ付シタル時ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノ看做スナリ(訴第一四三第三)凡ソ送達ハ裁判所書記職權ヲ以テ之ヲ爲サシムルヲ原則トス而シテ其送達方法ハ左ノ四種ナリトス

第一 執達吏ニ依ル送達(訴第一三六第二)
 第二 郵便ニ依ル送達(訴第一三六第三)
 第三 郵便ニ付スル送達(訴第一四三第三)
 第四 公示送達(訴第一五六乃至第一五八)

右四種ノ中第一第二ハ通常ノ送達方法ニシテ第三第四ハ特別ノ送達方法ナリトス

送達ハ之ヲ受クヘキ人ノ住居又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲スヲ原則トス然レモ送達ヲ受クルモノ其受取ヲ拒マサルハ如何ナル場所ヲ問ハス其送達ヲ受クヘキ人ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スヲ得ルナリ(訴第一四四第一)

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラル、コトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ヲ其首長又ハ事務擔當者ニ爲ス場合ニ於テハ其業務上事務所ニ送達スルヲ原則トス然レトモ其事務所ノ外ニ於テ爲シタル送達ト雖モ其受取ヲ拒マサルハ送達ノ效アリトス(訴第一四四)

送達ヲ受ク可キ人ニ其住居ニ於テ出會ハサルハ代辦送達ヲ爲スヲ得代辦送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スモノトス(訴第一四五)住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ハ事務所ニ於テ出會ハサルハ其事務所ニ在ル營業使用人ニ之ヲ爲スヲ得又受取人辨護士ナルハ其補助者又ハ筆生ニ送達ヲ爲スヲ得ルモノトス(訴第一四六)公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラル、コトヲ得ル會社又ハ社團ニ對シ送達ヲ爲ス場合ニ於テ其送達ヲ受クヘキ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者受取ニ付差支アルハ其送達ハ事務所ニ在ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲スヲ得ルナリ(訴第一四七)

右ノ方法ヲ以テ送達スルヲ得サルハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ

預置キ送達ノ告知書ヲ作り之ヲ其住居又ハ其事務所ノ門戸ニ貼付シ且近隣ニ住居スル者二人ニ口頭ヲ以テ其旨ヲ通知シ置クモノトス(訴第一四五第一四八)

日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニ於テ爲ス送達又ハ日出ヨリ日没マテニ於テ爲ス送達ニ付テハ受取ヲ拒ムコトヲ得然レモ受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事又ハ受命判事若クハ受託判事ノ與ヘタル許可ノ命令ノ謄本(裁判所書記ノ認證シタル謄本)ヲ添ヘテ送達シタルキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ(訴第一五〇)法律上ノ理由ナクシテ送達ノ受取ヲ拒ミタルキハ交付スヘキ送達書類ヲ其拒ミタル場所(住所事務所等)ニ差置クヘシ此場合ニ於テハ送達アリタルト同一ノ效ヲ生スルモノトス(訴第一四九)執達吏又ハ郵便配達人ハ送達ニ付キ送達ノ場所年月日時方法及ヒ受取人ノ受取證並ニ自己ノ署名捺印シタル送達證書ヲ作ルコトヲ要ス

(第十三號書式參看受取ヲ拒ミ若クハ受取證ヲ出スコトヲ拒ミタルトキ又ハ受取證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルキハ其旨ヲ送達證書ニ記載スヘキナリ又受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セス且假住所ヲ選定セサルニ依リ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スキハ郵便ニ付シタル吏員(裁判所書記強制執行ニ付テハ執達吏)ハ送達書類ヲ郵便ニ付シタル旨ヲ記載シ且自己ノ署名捺印シタル報告書ヲ作り之ヲ送達ノ證ト爲スヘキナリ(第十四號書式參看(訴第一五一))

外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏並ニ其家族從者ニ對スル送達ハ外務大臣ニ囑託シテ之ヲ爲ス(訴第一五二)此場合ヲ除ク外國ニ於テ施行ス可キ送達ハ外國ノ官轄官廳又ハ外國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス(訴第一五三)又出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員ニ屬スル人ニ對スル送達ハ上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

右ノ場合ニ於テ必要ナル囑託書ハ受訴裁判所之ヲ發スルモノトス又
右ノ送達ハ囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏ノ送達施行濟ノ證書ヲ以テ
之ヲ證スルモノトス(訴第一五五)

原告若クハ被告ノ現在地不明ナルハ又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ヲ
通常ノ方法ヲ以テ實測シ得ス或ハ送達スルモ其功ヲ奏スルノ見込ナ
キヲ豫知スルハ公示送達ヲ爲スヲ得ルナリ(訴第一五六)公示送
達ハ原告若クハ被告ノ申立ニ因リ之ヲ許可シタル後裁判所書記ヲシ
テ之ヲ取扱ハシムルモノトス而シテ公示送達ハ達スヘキ書類ヲ裁判
所ノ揭示場ニ揭示シテ爲スモノトス又判決及ヒ決定ニ在テハ其裁判
ノ部分ノミヲ貼附スヘキモノトス(訴第一五七第一第二)

右ノ外裁判所ハ送達スヘキ書類ノ抄本ヲ一个又ハ數个ノ新聞紙ニ一
回又ハ數回掲載スヘキヲ命スルコトヲ得其抄本ニハ裁判所當事者
竝ニ訴訟物及ヒ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ掲クルヲ要ス(訴第一五七)

第三(三)公示送達ハ書類ノ貼附ヲ爲シタルヨリ十四日ヲ經過シタル日ヲ
以テ送達書類ヲ授受シタルモノト看做ス然レモ裁判所ハ公示送達ヲ
命スルニ際シ此ヨリ長キ期間ヲ必要トスルハ此期間ヲ伸長スルコ
トヲ得又同一ノ事件ニ付キ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ二回以上ノ公
示送達ヲ爲スハ第二回ノ公示送達及ヒ其後ノ公示送達ハ皆書類ヲ
貼附シタル日ヲ以テ之ヲ授受シタルモノト看做スナリ(訴第一五八)

第三節 期日及ヒ期間

第一款 期日

期日ハ裁判所ニ於テ訴訟行爲ヲ行フカ爲メノ時期ニシテ即チ審問期
日、證據調ノ期日、判決言渡ノ期日、競賣期日、競落期日及ヒ配當期日等ナ
リ
期日ハ裁判長日及ヒ時ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス(訴第一五九)日曜日
及ヒ一般ノ祭祝日ハ止ムヲ得サル場合(例ヘハ遲滞ヲ爲メ危害ヲ生スル

ノ恐レアルルキノ如シニ非サレハ之ヲ指定シテ期日ト爲スヲ得サルモ
ノトス(訴第一六〇)

期日ニ付テノ呼出ハ裁判長ノ命ニ從ヒ一定ノ日及ヒ時ヲ定メシ呼出
狀ノ正本ヲ本人ニ送達シテ之ヲ爲スヲ原則トス然レモ第二ノ期日以
後例ヘハ第一ノ期日ニ出頭シタル後辯論ヲ延期シ又ハ辯論續行ノ爲
メ第二ノ期日ヲ指定スルカ如キ場合ニ於テハ上ニ述ヘタル呼出狀ヲ
送達スルヲ要セサルナリ(訴第一六一)

期日ハ裁判所内ニ於テ開始及ヒ終了スルモノトス然レモ裁判所内ニ
於テ爲シ得サルトコロノ行爲即チ實地臨檢又ハ裁判所ニ出願スル能
ハサル者ノ審問其他裁判所内ニ於テ爲スコトヲ得サル行爲ヲ要スル
ハ此例外ナリトス(訴第一六二)

期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ始マルモノトス若シ原告又ハ被告カ期日ノ終
了ニ至ルマテ辯論ヲ爲サルルキハ其期日ニ欠席シタル者ト看做スナリ

(訴第一六三)

期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ノ期日ノ指定ハ當事者ノ申立ニ因リ
又裁判官職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得中立ニ因レル期日ノ變更ハ當事
者ノ合意ノ場合ヲ除ク外顯著ナル理由アルルキニ限り之ヲ許スモノト
ス(訴第一六九)

當事者ノ一方ニ於テ期日ノ變更ニ付申請ヲ爲スルハ其理由ヲ疏明ス
ルヲ要ス其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第一七一)
右ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得同一期日ノ再度ノ變
更ハ相手方ノ承諾書ヲ提出セサルルキハ相手方ヲ審訊シタル後ニ限り
之ヲ許スコトヲ得又相手方カ異議ヲ述フルルキハ顯著ナル差支ノ理由
及ヒ其差支ヲ除去スルコトノ特別ナル困難ヲ生シタルヲ證スルニ
アラサレハ之ヲ許スコトヲ得又訴訟代理人ノ差支ニ原因スル期日ノ
再度ノ變更ハ相手方ノ承諾アルニアラサレハ之ヲ許サルナリ(同上)

右ノ申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ルコトヲ得サルモノトス(同上)

第二款 期間

期間ハ當事者ノ一定ノ行爲ヲ爲ス爲メ與フル所ノ時間ナリ期間ハ之ヲ區別シテ左ノ二種トス

(一) 裁判官ノ定ムル期間

(二) 法律上ノ期間

裁判官ノ定ムル期間ハ裁判所及ヒ其機關ノ行爲ノ爲メ定メタルモノニシテ其長短全ク裁判官ノ意見ニ任スルモノナリ

法律上ノ期間ハ法律ヲ以テ確定シタル時間ヲ云フ而シテ此法律上ノ期間中ニハ不變期間、應訴期間、答辨書差出期間及ヒ無名稱期間ノ別アリ

裁判官ノ定ムル期間ノ進行ハ期間ヲ定メタル書類ヲ以テ始マリ又其送達ヲ要セサル場合ニ於テハ期間ノ言渡ヲ以テ始マル然レモ期日指定ノ際此ヨリ遅キ起期ヲ定メタル片例ハ假處分ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツル片ハ其立テタル日ヨリ三日若クハ七日ノ期間内ニ何々ノ行爲ヲ爲ス可シト命スル如キ場合ニ於テハ此例外ナリトス(訴第一六四) 期間ハ時、日月年ヲ以テ定ムルモノトス時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ又日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス(訴第一六五) 一日ノ期間ハ二十四時トシ一個月ノ期間ハ三十日トシ一年ノ期間ハ曆ニ從フモノトス若シ期間ノ最終日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ル片ハ其日ヲ期日ニ算入セサルモノトス(訴第一六六)

法律上ノ期間ハ裁判所ノ所在地ニ住居セサル原告若クハ被告ノ爲メ其住居地ト裁判所所在地トノ距離ノ割合ニ應シ海陸路八里毎ニ一日ヲ伸長ス八里以外ノ端數三里ヲ超ユルトキモ亦同一ナリトス(訴第一六七第一)

裁判所ハ外國又ハ島嶼ニ於テ住所ヲ有スル者ニ對シテハ總テノ期間ニ付キ原告若クハ被告ノ爲メ特ニ附加期間ヲ定ムルヲ得例ヘハ米國ニ於テ住所ヲ有スルモノニ對シテハ控訴期間ニ付二ヶ月ノ附加期間ヲ與ヘ小笠原島ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ一ヶ月ノ附加期間ヲ與フルヲ得ルカ如キ是レナリ(訴第一六七第二)

期間ノ進行ハ裁判所ノ休暇ニ依リテ停止ス而シテ其期間ノ殘餘ノ部分ハ休暇ノ終ヲ以テ其進行ヲ始ム(裁判所ノ休暇ハ毎年七月十一日ニ始マリ九月十日ニ終ハル構第一二七)例ヘハ七月一日ニ二十四日ノ期間ヲ定ムルトキハ七月十日マテ即チ其期間中九日丈ケ進行シ殘餘ノ五日ハ九月十一日ヨリ進行ヲ始メ同月十五日ニ終ハリ又七月十日ニ期間ヲ定ムルトキハ其期間ノ進行ハ九月十一日ヨリ始マル如キ是レナリ然レモ不變期間(訴第二五五第二、第四〇〇第一、第四三七第一、第四六六第二、第四七四第一、第七七五第一、第八〇四參看)及ヒ休暇中ト雖モ審判スヘキ至

急ヲ要スル事件(構第一二八第一、二九參看)ニ關スル期間ハ此例外ナリトス(訴第一六八)

不變期間ハ當事者ノ合意又ハ裁判所ノ命令ニ依リ之ヲ伸縮スルコトヲ得ス其他ノ期間ハ當事者ノ合意ノ申立ニ因リ之ヲ伸縮スルヲ得ルモノトス(訴第一七〇第一)

裁判所又ハ裁判官ノ定ムル期間及ヒ法律上ノ期間ハ合意ナキモ申立ニ因リ顯著ナル理由アルモ法律ニ特定シタル場合ニ限リテノミ之ヲ伸縮スルヲ許スモノトス伸長ニ係ル新期間ハ前期間ノ滿了ヨリ之ヲ起算ス(訴第一七〇第一第二)

期間ノ伸縮ニ付テノ申請ノ理由ハ之ヲ疏明スヘキモノトス其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ得ルナリ(訴第一七一第一第二)

右ノ申請ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヲ得同一期間ノ再度ノ伸長ハ相手方ノ承諾書ヲ提出セサルモ相手方ヲ審訊シタル後

ニ限り之ヲ許スコトヲ得又相手方カ異議ヲ述フルルハ顯著ナル差支ノ理由及ヒ其差支ヲ除去スルコトノ特別ナル困難ヲ生シタルコトヲ證スルル片ニ限り之ヲ許スコトヲ得又訴訟代理人ノ差支ニ原因スル期間ノ再度ノ伸長ハ相手方ノ承諾アルニアラサレハ之ヲ許サ、ルナリ(訴第一七一第三)

期日ノ伸長ニ付テノ申請ヲ却下スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス(訴第一七一第四)

第四節 懈怠ノ結果及ヒ原狀回復

裁判官又ハ法律ニ於テ訴訟行為ノ爲メニ指定シタル期日又ハ定メタル期間内若クハ定マリタル期間内ニ於テ其行為ヲ懈怠スルルハ其結果トシテ懈怠シタル原告若クハ被告ハ訴訟行為ヲ爲ス權利ヲ失フモノトス然レモ法律ニ於テ追完ヲ許ス片(訴第四五第二第七〇第三第二〇九第二一四第二七五第二八四第二二八八第四一五參看)ハ此例外ナリト

ス(訴第一七三第一)

裁判所ハ原告若クハ被告カ訴訟行為ヲ懈怠スルルハ相手方ノ申立ナキモ懈怠ノ結果ヲ生シ且之ヲ生セシムルカ爲メ豫メ之ヲ指示スルヲ要セサルヲ以テ原則トス然レモ法律ニ於テ懈怠ノ結果ヲ生セシムルコト付相手方ノ申立ヲ要スル場合ハ此例外ナリトス(訴第一七三第二第三)不變期間ノ懈怠ヨリ生スル結果ハ原被告ノ申立ニ依リ左ノ理由アルルルハ原狀回復ヲ許ス(訴第一七四)

(一) 天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル片

(二) 故障期間ノ懈怠ニ對シテハ原被告ノ自己ノ過失ナクシテ欠席判決ノ送達ヲ知ラサル片

原狀回復ハ障碍ノ止ミタル日ヨリ十四日ノ期間内ニ申立ヲ爲スヘキモノトス此期限ハ當事者ノ合意ヲ以テ伸長スルコトヲ得ス又懈怠シタ

ル不變期間ノ満了ヨリ一ケ年ヲ經過シタルハ原狀回復ノ申立ヲ爲
スヲ得サルナリ(訴第一七五)

原狀回復ハ追完スル訴訟行爲ニ付キ裁判ヲ爲ス權利アル裁判所ニ書
面ヲ以テ之ヲ申立ツヘキモノトス(訴第一七六)此申立書ニハ左ノ諸件
ヲ具備スルヲ要ス(第十五號書式參看)

第一 原狀回復ノ原因タル事實

第二 原狀回復ノ疎明方法

第三 懈怠シタル訴訟行爲ノ追完

即時抗告ヲ懈怠シタル場合ニ於ケル原狀回復ノ申立ハ不服ヲ申立テ
ラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ抗告裁判所ニ之ヲ爲スヲ得ル
モノトス(訴第一七六)

原狀回復ヲ許スヘキヤ否ヤノ裁判ヲ爲ス手續ハ追完スル訴訟行爲ニ
付テノ裁判手續ト併合ス然レモ裁判所ハ先ツ申立ニ付テノ辨論及ヒ

裁判ノミニ其訴訟手續ヲ制限スルコトヲ得申立ノ許否ニ關スル裁判
及其裁判ニ對スル不服ノ申立ニ付テハ追完スル訴訟行爲ニ於テ行ハ
ル可キ規定ヲ適用ス然レモ申立ヲ爲シタル原告若クハ被告ハ故障ヲ
爲スヲ得ス原狀回復ノ費用ハ其效驗アルト雖モ申立人ノ負擔ニ
屬スルモノトス然レモ相手方ノ不當ナル所爲ヨリ生スルハ此限ニ
アラサルナリ(訴第一七七)

第五節 訴訟手續ノ中斷及ヒ中止

凡ソ訴訟ハ一旦繫屬スレハ其進行ヲ停止スルコトナク務メテ速ニ之
ヲ完結スルヲ要ス然レモ或ル場合ニ於テハ其進行ヲ停止スルコトヲ
必要トシ又便宜トスルヲアリ

第一款 訴訟手續ノ中斷

訴訟手續ノ中斷ハ當事者ノ意思ニ拘ハラズ且裁判所ノ命ニ依ラス或
ル事實ノ生スルニ依リ法律上自然ニ訴訟手續ヲ中斷スルヲ云フ其場

合ハ左ノ如シ

第一 原告若クハ被告ノ死亡シタル片(訴第一七八第一)

第二 原告若クハ被告ノ財産ニ付破産ノ開始シタル場合ニ於テ

訴訟手續カ破産財團ニ關スル片(訴第一七九)

第三 原告若クハ被告カ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ其法律上代理人カ

死亡シ又ハ其代理權カ原告若クハ被告ノ訴訟能力ヲ得ル前ニ

消滅シタル片(訴第一八〇)

第四 原告若クハ被告ノ死亡ニ因リ訴訟手續ヲ中斷スル場合ニ

於ケル訴訟手續ノ受繼ニ關シ遺產ニ付キ管理人ヲ任設スル片

又遺產ニ付キ破産ヲ開始スル片(訴第一八一)

第五 戰爭其他ノ事故ニ因リ裁判所ノ行務ヲ止メタル片(訴第

八一)

第六 訴訟代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲ス場合ニ於テ原告若クハ被告

カ死亡シ又ハ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ法律上代理人カ死亡シ又ハ
其代理權カ消滅スル片(訴第一八三)

第一ノ場合ニ於テハ死亡者ノ承繼人カ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中
繼スルモノトス受繼ハ可成速ニ之ヲ爲スヲ要ス若シ之ヲ遲滯シタル
片ハ裁判所ハ相手方ノ申立ニ因リ承繼及ヒ本案ノ口頭辯論ノ爲メ承
繼人ヲ呼出スコトヲ得ヘシ若シ承繼人カ其呼出ノ期日ニ出頭セサル
片ハ相手方ノ申立ニ因リ相手方ノ主張シタル承繼ヲ其承繼人カ自白
シタルモノト看做シ且闕席判決ヲ以テ其承繼人ニ於テ訴訟手續ヲ受
繼キタルト言渡スヘシ又本案ノ辯論ハ故障期間ノ滿了後始メテ之ヲ
爲ス若シ其期間内ニ故障ヲ申立テタル片ハ其完結後始メテ之ヲ爲ス
モノトス(訴第一七八第二第三)

第二ノ場合ニ於テハ破産ニ付テノ規定ニ從ヒ手續ヲ受繼キ又ハ破産
手續ヲ解止スルマテ訴訟手續ヲ中斷ス(訴第一七九)

第一編 總說 第三章 訴訟手續 第一款 訴訟手續ノ中斷

第三ノ場合ニ於テハ法律上代理人又ハ新法律上代理人カ其任設ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ訴訟手續ヲ續行セントスルコトヲ其代理人ニ通知スルマテ訴訟手續ヲ中斷ス(第一八〇)

第四ノ場合ニ於テハ遺産ニ付キ管理人ヲ任設シタル片管理入カ其任設ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ訴訟手續ヲ續行スヘキ旨ヲ其代理人ニ通知スルマテ又其遺産ニ付破産ヲ開始シタル片ハ破産ニ付テノ規定ニ從ヒ其手續ヲ受繼クマテ若クハ破産手續ヲ解止スルマテ訴訟手續ヲ中斷ス(訴第一八一商第九七八以下)

第五ノ場合ニ於テハ其事情ノ繼續スル間訴訟手續ヲ中斷ス(訴第一八二)

第六ノ場合ニ於テハ委任消滅ノ通知ニ因リ訴訟手續ヲ中斷ス(第一八三第一)
渾テ中斷シタル訴訟手續ノ受繼及ヒ通知ハ原告若クハ被告ヨリ其書

面ヲ受訴裁判所ニ差出シ而シテ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スヘキモノトス(訴第一八七)

第二款 訴訟手續ノ中止

訴訟手續ノ中止ハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ヨリ命シテ訴訟手續ヲ中止スルヲ云フ其場合ハ即チ

原告若クハ被告カ戰時兵役ニ服スル片又ハ官廳ノ布令戰爭其他ノ事變ニ因リ受訴裁判所ト交通ノ絶エタル地ニ在ル片(訴第一八四)

是レナリ右ノ場合ニ於テハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ障礙ノ消除スルマテ訴訟手續ノ中止ヲ命スルモノトス
訴訟手續中止ノ申立ヲ爲スニハ申請書ヲ以テスルヲ原則トス然レトモ口頭ヲ以テモ亦其申立ヲ爲スコトヲ得中止ノ申立アリタル片ハ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達ス此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲ス

ヲ得(訴第一八五第一八七)訴訟手續ノ中止ヲ命スル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得又其中止ヲ拒ム裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第一八九)

第二款 訴訟手續ノ休止

凡ソ訴訟ハ一旦之ヲ提起スルモ其之ヲ追行スルト否トハ當事者ノ隨意ナリ故ニ其繫屬スルコロノ訴訟ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス當事者ノ合意ヲ以テ訴訟手續ヲ休止スルコトヲ得ルナリ
訴訟手續ノ休止ハ訴訟法第百八十八條ニ於テ之ヲ規定ス即チ左ノ如シ
當事者ハ訴訟手續ヲ休止ス可キノ合意ヲ爲スコトヲ得其合意ハ不變期間ノ進行ニ影響ヲ及ボサス
口頭辯論ノ期日ニ於テ當事者双方出頭セサルトキハ訴訟手續ハ其一方ヨリ更ニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム可キコトヲ申立ツルマテ之ヲ休止ス

一个年内ニ前項ノ申立ヲ爲サ、ルトキハ本訴及ヒ反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス

訴訟手續ノ休止ニ付テノ合意ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ届出ツルヲ要ス若シ其届出ヲ爲サ、ル片ハ訴訟手續ハ仍ホ進行シテ止マス當事者ノ合意ハ無効ニ歸スヘキナリ

第四款 訴訟手續ノ中斷及ヒ中止ノ效力

訴訟手續ノ中斷及ヒ中止ノ效力ハ共ニ同一ナリトス中斷及ヒ中止ニ付テハ不變期間其他ノ期間ヲ問ハス總テノ期間ノ進行ヲ止メ其中斷又ハ中止ノ終リタル後ニアラサレハ更ニ其進行ヲ始メサルナリ中斷及ヒ中止中ニ爲シタル訴訟行為ハ相手方ニ對シ其效力ヲ生セサルモノトス然レモ口頭辯論ノ終結後ニ生シタル中斷ハ裁判言渡ヲ爲スヲ妨ケサルモノトス(訴第一八六)

第二編 第一審ノ訴訟手續

第二編 第一審ノ訴訟手續 第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第一節 判決前ノ訴訟手續

第一款 訴ノ提起

凡ソ地方裁判所ニ於ケル訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スモノトス訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヲ要ス(第十六號書式參看)

(訴第一九〇)

第一 當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二 起シタル請求ノ一定ノ目的物及ヒ其請求ノ一定ノ原因

第三 一定ノ申立

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ作ルモノトス若シ裁判所ノ管轄カ訴訟物ノ價額ニ依リ定マル場合ニ於テ訴訟物カ一定ノ金額ニ非サルハ亦其價額ヲ掲記スヘキモノトス

訴狀ニシテ若シ前述第一乃至第三ノ要件ヲ具備セサルハ裁判長ハ

相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ其欠缺ヲ補正スヘキヲ命令スルモノ

トス此場合ニ於テ原告若シ其命令ニ服從セサルハ裁判所ハ其期間

満了後訴狀ヲ差戻スヘキモノトス此差戻ノ命令ニ對シテハ即時抗告

ヲ爲スヲ得ルナリ(第十七號書式參看(訴第一九二))

訴狀ニシテ前述第一乃至第三ノ要件ヲ具備スルハ裁判所ハ口頭辯

論ノ期日ヲ定メ且訴狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日ノ期間内ニ答

辯書ヲ差出スヘキ旨ヲ訴狀ニ記載シテ之ヲ被告ニ送達スヘキモノト

ス(第十八號書式參看(訴第一九三))

訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニハ少ナクトモ二十日ノ時間ヲ

存スルヲ要ス若シ外國ニ於テ送達ヲ施行スヘキハ外國ト本邦ト

ノ距離ノ程度ニ應シ裁判長ハ意見ヲ以テ相當ノ時間ヲ定メテ之ヲ爲

スモノトス此時間ハ切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ二十四時マテニ短

縮スルヲ得ルナリ(訴第一九四第二〇三)

原告ハ被告ニ對シ數多ノ請求アル片ハ之ヲ同一ノ訴ヲ以テ起スヲ得然レモ是レ總テノ請求ニ付キ同一ノ受訴裁判所ニ屬シ且同一種類ノ訴訟手續ヲ爲シ得ヘキ片ニ限ルモノトス（然レモ民法ノ規定ニ反スルハ此限ニ在ラス）（訴第一九二）

訴狀ノ送達アル片ハ訴訟物ノ權利拘束ヲ生ス（訴狀其他ノ準備書面ニ於テ主張セサル請求ノ權利拘束ハ口頭辯論ニ於テ其請求ヲ主張シタル時ヲ以テ始マル）（訴第二一二） 權利拘束ハ左ノ效力ヲ有スルモノトス（訴第一九五）

第一 權利拘束ノ繼續中原告若クハ被告ヨリ同一ノ訴訟物ニ付キ他ノ裁判所ニ於テ本訴又ハ反訴ヲ以テ請求ヲ爲シタル片ハ相手方ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得

第二 受訴裁判所ノ管轄ハ訴訟物ノ價額ノ増減住所ノ變更其他管轄ヲ定ムル事情ノ變更ニ因リテ變更スルコト無シ

第三 原告ハ訴ノ原因ヲ變更スル權利ナシ但變更シタル訴ニ對シ本案ノ口頭辯論前被告カ異議ヲ述ヘサル片ハ此限ニ在ラス 訴ノ原因ヲ變更スルヲ得サルコトハ前述ノ如シ然レモ訴ノ原因ヲ變更スルニアラスシテ左ノ諸件ヲ爲ス片ハ被告ハ異議ヲ述フルコトヲ得サルモノトス（訴第一九六）

第一 事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充シ又ハ更正スルコト
第二 本案又ハ附帶請求ニ付キ訴ノ申立ヲ擴張シ又ハ減縮スル

第三 最初求メタル物ノ滅盡又ハ變更ニ因リ賠償ヲ求ムルコト 訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルナリ（訴第一九七）

訴ノ全部又ハ一分ハ本案ニ付被告ノ第一口頭辯論ノ始マルマテハ被告ノ承諾ヲ得スシテ之ヲ取下ケルコトヲ得然レモ口頭辯論ノ始マリ

タル後ト雖モ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ得テ之ヲ取
下クルコトヲ得ヘシ(第十九號書式參看)訴ノ取下ハ口頭辯論ニ於テ之
ヲ爲スルハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得若シ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲
サ、ルルハ書面ヲ以テ之ヲ申立ツヘキモノトス(訴第一九八第一第二三
而シテ訴狀ヲ既ニ被告ニ送達シタル場合ニ於テハ訴取下ノ書面ハ之
ヲ被告ニ送達スヘキモノトス(訴第一九八第三)

訴ノ取下ハ訴訟物ノ權利拘束ノ總テノ效力ヲ消滅セシムノミナラス
原告ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルノ義務ヲ生スルモノナリ又被告
ハ原告ヨリ訴ヲ再ヒ提起スルニ當リ前訴訟費用ヲ辨償スルマテ其訴
訟ノ被告人タルコトヲ拒ムコトヲ得ルモノトス(訴第一九八第四第五)

第二款 答辯書其他ノ準備書面

訴狀カ法定ノ式ニ適フモノトシテ受理セラレ裁判所ヨリ被告ニ訴狀
ノ送達ヲ爲スルハ其送達ノ際十四日ノ期間内ニ(此期間ハ申立ニ因リ

裁判長ノ命令ヲ以テ相當ニ伸縮スルコトヲ得)(訴第二〇三)答辯書ヲ差出スヘ
キコトヲ被告ニ催告スルモノトス其答辯書ハ準備書面ニ關スル一般
ノ規定ヲ適用シテ之ヲ作ルモノトス(第二十號書式參看)(訴第一九九)
訴カ管轄裁判所ニ於テ權利拘束ト爲リタルルルハ被告ヨリ原告ニ對シ
其裁判所ニ反訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス然レモ反訴カ財産權上ノ請
求ニアラサル請求ニ係リ又ハ目的物ニ付キ專屬管轄ノ規定アル反訴
ニ係ルル若シ其反訴カ本訴ナルルル其裁判所ニ於テ管轄權ヲ有スヘキ
場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ許スモノトス反訴ハ本訴ニ對シテノミ之ヲ
爲スコトヲ得ルモノナレハ反訴ニ對シテハ更ニ反訴ヲ爲スコトヲ得サル
ナリ(訴第二〇〇)反訴ハ答辯書ニ記載シテ之ヲ爲シ又特別ナル書面ヲ
作リテ之ヲ爲シ又ハ口頭辯論ノ際相手方ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之
ヲ爲スコトヲ得ルモノトス答辯書差出ノ期間内ニ差出シタル書面ヲ以
テセサル反訴ハ被告ノ請求ノ全部又ハ一分ト相殺ヲ爲スコトヲ得ル
場合ニ

於テ同時ニ被告カ自己ノ過失ニ因ラスシテ其以前反訴ヲ起スヲ得サ
リシコトヲ説明スルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ許サ、ルモノトス(訴第
二〇二)

上ニ述フルモノ、外特別ノ規定ニ依リ差異ノ生セサル限リハ反訴ノ
手續ニ付テモ亦訴ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルモノトス(訴第二〇二)
訴狀及ヒ答辯書ハ口頭辯論ヲ準備スルニ足ルモノナリ然レモ訴狀又
ハ答辯書ニ掲ケサリシ事實上ノ主張若クハ證據方法又ハ申立ニ付キ
豫メ穿鑿ヲ爲スニアラサレハ陳述ヲ爲シ能ハスト豫知スル事項アル
并ハ準備ノ用ヲ爲サス故ニ各當事者ハ口頭辯論ノ前ニ補充書面ヲ作
リ之ヲ差出スヘキモノトス但裁判所ハ其書面ヲ相手方ニ送達スルノ
時間及ヒ相手方ヲシテ必要ナル穿鑿ヲ爲スノ時間ヲ得セシムヘキモ
ノトス(訴第二〇四第一)

準備書面ノ調ハサルカ爲メ口頭辯論ノ延期ヲ爲スルハ裁判所ハ其意
見ニ依リ爾後必要ナル準備書面ヲ差出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得ル
ナリ(訴第二〇四第二)

第四款 口頭辯論

口頭辯論ハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スモノトス(訴第二〇五)
妨訴ノ抗辯ハ本按ニ付テノ被告ノ辯論前同時ニ之ヲ提出スヘキモノ
トス左ニ掲クルモノヲ妨訴ノ抗辯トス(訴第二〇六)

- 第一 無訴權ノ抗辯
- 第二 裁判所管轄違ノ抗辯
- 第三 權利拘束ノ抗辯
- 第四 訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯
- 第五 訴訟費用保證ノ欠缺ノ抗辯
- 第六 再訴ニ付キ前訴訟費用未濟ノ抗辯
- 第七 延期ノ抗辯

本案ニ付キ被告ノ口頭辯論ノ始マリタル後ニ於ケル妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有效ニ拋棄スルコトヲ得サルモノナルキ又ハ被告ノ過失ニアラスシテ本案ノ辯論前ニ其抗辯ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疏明シタルキニ限り提出スルコトヲ得ルモノトス(訴第二〇六)

被告カ妨訴ノ抗辯ニ基キ本案ノ辯論ヲ拒ミ又ハ裁判所ニ於テ申立ニ因リ若クハ職權ヲ以テ抗辯ニ付特別ノ辯論ヲ命スルキハ裁判所ハ抗辯ニ付キ特別ニ辯論ヲ爲シ及ヒ判決ヲ以テ裁判ヲ爲スヘキモノトス若シ妨訴ノ抗辯不當ナルキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ其判決ハ元來中間判決ナルモ終局判決ト看做シ上訴ヲ許スモノトス然レモ裁判所ハ訴訟ノ延滞ヲ豫防スルカ爲メ申立ニ因リ上訴アルニモ拘ハラヌ本案ニ付辯論ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得ルナリ(訴第二〇七)

計算事件(例ヘハ商事其他ノ取引上ヨリ生スルモノ又ハ工事請負等ノ場合ヨリ生スル訴訟事件等)其他財産分別(例ヘハ共有財産ヲ各自ニ分別スル等ノ場

合)及ヒ此ニ類スル訴訟ノ如キ煩雜ニシテ準備ヲ爲スニアラサレハ口頭辯論ヲ開クニ困難ナル事件ニ付テハ裁判所ハ其部員ノ一名ニ命シテ取調ヲ爲サシメ以テ口頭辯論ノ準備ヲ爲スモノトス(訴第二〇八)攻撃及ヒ防禦ノ方法即チ反訴、抗辯、再抗辯等ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ何時タリトモ之ヲ提出スルコトヲ得ヘシ(訴第二〇九)被告ヨリ時機ニ後レテ提出シタル防禦ノ方法ハ裁判所カ若シ其提出ヲ許スニ於テハ訴訟ノ延滞ヲ來タシ且被告カ訴訟ヲ延滞セシムルノ目的ヲ以テシ又ハ重過失ニ依リ防禦方法ノ提出ヲ延滞シタリシトノ心證ヲ得タルキハ原告ノ申立ニ因リ之ヲ却下スルコトヲ得ルモノトス(訴第二一〇)

訴訟ノ進行中ニ争ト爲リタル權利關係ノ成立又ハ不成立カ訴訟ノ裁判ノ全部又ハ一分ニ影響ヲ及ボスキハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ原告ハ訴訟ノ申立ノ擴張ニ依リ又被告ハ反訴ノ提起ニ依

リ判決ヲ以テ其權利關係ヲ確定センコトヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス
 (訴第二一一)

各當事者ハ事實上ノ主張ヲ證明シ又ハ之ヲ辯駁セン爲メニ用弁ト
 スル證據方法ヲ開示シ且相手方ヨリ開示シタル證據方法ニ付陳述ス
 ヘシ證據方法ニ付テノ證據申出及ヒ之ニ關スル陳述ハ人証、鑑定、書証、
 檢証、當事者本人ノ訊問ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スモノト
 ス(訴第二一三)

證據方法及ヒ證據抗辯ハ判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ
 之ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス證據方法及ヒ證據抗辯ノ時機ニ後レ
 タル提出ハ裁判所カ若シ之ヲ許スニ於テハ訴訟ノ延滞ヲ來タシ且被
 告カ訴訟ヲ延滞セシムルノ目的ヲ以テシ又ハ重過失ニ依リ防禦方法
 ノ提出ヲ延滞シタリシトノ心證ヲ得タルハ相手方ノ申立ニ因リ之
 コトヲ却下スルコトヲ得ルモノトス(訴第二一四)

證據調立ニ證據決定ヲ以テ特別ノ證據調手續ノ命令ハ訴訟法中證據
 方法ニ關スル一般ノ規定(證據調ノ總則、人証、鑑定、書証、檢証、當事者本人
 ノ訊問)ニ從ヒテ之ヲ爲スモノトス(訴第二一五)

當事者ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付辯論ヲ爲スヘキモノ
 トス受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ヲ爲シタルハ當事
 者ハ證據調ニ關スル審問調書ニ基キ其結果ヲ演述スヘキモノトス(訴

第二一六

裁判所ハ民法又ハ此法律ノ規定ニ反セサル限りハ辯論ノ全旨趣及ヒ
 或ル證據調ノ結果ヲ斟酌シ事實上ノ主張ヲ眞實ナリト認ムヘキヤ否
 ヤヲ自由ナル心證ヲ以テ判斷スヘキモノトス(訴第二一七)

裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ之ヲ證スルコトヲ要セス(訴第二一八)地方
 慣習法商慣習及ヒ規約又ハ外國ノ現行法ハ之ヲ證スヘシ裁判所ハ當
 事者ハ當事者ノ其證明ヲ爲スト否トニ拘ハラズ職權ヲ以テ必要ナル

取調ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(訴第二一九)

訴訟法ノ規定ニ依リ事實上ノ主張ヲ疏明スヘキトキハ裁判官ヲシテ其主張ヲ眞實ナリト認メシムヘキ證據方法ヲ申出ツルヲ以テ足ル但即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ハ疏明ノ方法トシテ之ヲ許サ、ルモノトス(訴第二二〇)

裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス訴訟ノ全部又ハ或ル等點ニ付原被告ヲシテ和解ヲ爲サシムルコトヲ試ムルコトヲ得而シテ此和解ハ受命判事若クハ受託判事ヲシテ之ヲ試ミシメ其他和解ヲ試ムル爲ニハ當事者ノ自身出頭ヲ命スルコトヲ得ルモノトス(訴第二二一)

第二節 證據調ノ總則

證據調ハ受訴裁判所躬ラ之ヲ爲スヲ以テ原則トス然レモ法律上特定ノ場合ニ於テハ其裁判所ノ部員一名ニ命シテ之ヲ爲サシメ又區裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得(訴第二七三)外國ニ於テ爲スヘ

キ證據調ハ外國ノ管轄官廳又ハ其國駐在ノ帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス(訴第二八一)

證據調ハ證據決定ヲ以テ之ヲ爲ス(證據調ヲ命スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得)當事者ノ申立テタル證據數多アルハ其裁判所ハ其數多中ニ就キ必要ナル證據調ヲ命スルモノトス(訴第二七四第一)

證據決定ニハ左ノ諸件ヲ掲記スルコトヲ要ス(訴第二七六)

第一 証スヘキ係爭事實ノ表示

第二 證據方法ノ表示殊ニ証人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキハ其

表示

第三 證據方法ヲ申立テタル原告若クハ被告ノ表示

證據決定ノ施行完結ハ受訴裁判所職權ヲ以テ之ヲ爲スモノトス若シ證據決定ニ變更ヲ生スルハ其決定ノ施行完結前ニ在テ新ナル辯論ニ基クテ之ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ(訴第二七七)

證據調ハ當事者ノ演述即チ口頭辯論ニ引續キ直チニ之ヲ爲スモノト
ス若シ口頭辯論ニ引續キ直チニ之ヲ爲サシテ新ニ期日ヲ設ケテ之
ヲ爲スルハ受訴裁判所ハ證據決定ニ因リ之ヲ當事者ニ命スヘシ(訴第
二七四第二第二八七第一)

證據調ニ付不定時間即チ何時ニ證據調ヲ爲シ得ヘキヤ知ルヘカラサ
ル如キ例ヘハ外國ニアル證據ヲ取調フルコトヲ要スル場合又ハ証書ノ
所在証人ノ居所直チニ知レサル等ノ場合ニ於テハ當事者ノ申立ニ因
リ相當ノ期間ヲ定ムヘキモノトス若シ此期間滿了後ト雖モ訴訟手續
ヲ延滞セシメサル限リハ其證據方法ヲ用ユルコトヲ得ルモノトス(訴第
二七五)

受訴裁判所ノ部員ニ於テ證據調ヲ爲スヘキ片ハ裁判長ハ證據決定言
渡ノ際受命判事ヲ指命シ且證據調ノ期日ヲ定ムヘシ(裁判長其期日定メ
サル片ハ受命判事之ヲ定ム)(訴第二七八)又他ノ裁判所ニ於テ證據調ヲ爲

ス片ハ裁判長ハ囑記書ヲ其裁判所ニ向ケ發スルモノトス證據調終レ
ハ受託判事ハ證據調ニ關スル書類ノ原本ヲ受訴裁判所書記ニ送致シ
其書記ハ之ヲ受領シタルコトヲ當事者ニ通報スヘキモノトス(訴第二七
九)

受命判事又ハ受託判事ニ於テ證據調ニ付キ期日ヲ定メタル片ハ其期
日及ヒ場所ヲ各當事者ニ通知スヘシ(第二十一號書式參看(訴第二八〇))
當事者ノ一方又ハ双方證據調ノ期日ニ出願セサル片ハ事件ノ程度ニ
因リ爲シ得ヘキ限リハ證據調ヲ爲ス又原告若クハ被告ノ出願セサル
カ爲メニ全部又ハ一分ノ證據調ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ其追完
又ハ補充ハ此カ爲メ訴訟手續ヲ延滞セサル片又ハ舉證者其過失ニア
ラスシテ前期日ニ出頭スル能ハサリシコトヲ疏明スル片ニ限リ口頭辯
論ノ終結ニ至ルマテ申立ニ因リ之ヲ命スルモノトス(訴第二八四)
裁判所ハ事件ノ未タ判決ヲ爲スニ熟セスト認ムル片ハ證據調ノ補充

ヲ決定スルコトヲ得(訴第二八五)

受命判事又ハ受託判事ハ他ノ裁判所ニ於テ證據調ヲ爲スヘキコトノ至當ナル原因ノ爾後ニ生シタルハ其裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得ルモノトス此場合ニ於テハ囑託ヲ爲シタルコトヲ當事者ニ通知スヘキモノトス(訴第二八二)

受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ證據調ノ際ニ争ヲ生シ其争ノ定結スルニアラサレハ證據調ヲ續行スルコトヲ得ス且其判事之ヲ裁判スル權ナキハ其完結ハ受訴裁判所之ヲ爲スモノトス(訴第二八三)
舉証者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ證據調ノ費用ヲ豫納スヘキモノトス若シ其期間内ニ豫納セサルハ其證據ヲ爲サ、ルモノトス但期間ノ滿了後ト雖モ費用ヲ豫納シタルハ訴訟手續ノ延滞ヲ生セサル場合ニ限リ證據調ヲ爲スコトヲ得ルナリ(訴第二八八)

第一款 人證

人證ハ係争事件ニ關シ實驗シタル者ヲシテ其事實ヲ裁判官ニ證據立シムルモノナリ

人證ハ當事者ノ申出ニ依リテ之ヲ爲ス其申出ハ証人ノ氏名及ヒ証人ニ訊問スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ爲スモノトス(第廿二號書式參看(訴第二九一))

凡ソ何人ヲ問ハス法律ニ別段ノ規定アラサル限リハ民事訴訟ニ關シ裁判所ニ於テ証言ヲ爲スノ義務アルモノトス(訴第二八九)

証人ノ呼出ハ受訴裁判所若クハ受託裁判所ノ書記職權ヲ以テ之ヲ爲ス而シテ其呼出狀ニハ左ノ諸件ヲ記載スルモノトス(第二十三號書式參看(訴第二九二))

第一 証人及ヒ當事者ノ表示

第二 證據決定ノ旨趣ニ依リ訊問ヲ爲ス可キ事業ノ表示

第三 証人ノ出頭ス可キ場所及ヒ日時

第二編、第一章 地方裁判所ノ訴訟手續 第二節 證據調ノ總則 第一款 人證 百十一

第四 出頭セザルトキハ法律ニ依リ處罰スヘキ旨

第五 裁判所ノ名稱

若シ証人トシテ呼出スヘキ者豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ係ルルハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス(其長官又ハ隊長ハ期日ヲ遵守セシムル爲メニ其呼出ヲ受ケタル者ノ闕勤ヲ許スヘシ若シ軍務上之ヲ許ス能ハサルルハ其旨ヲ裁判所ニ通知シ且他ノ期日ヲ定ムルヲ爲ス義務アリ)(訴第二九三)

正當ノ順序ヲ經テ呼出サレタル証人ハ通常供述ヲ爲スノ義務アリ若シ正當ノ理由ナクシテ期日ニ出頭セザルルハ當事者ノ申立ナシト雖モ其者ニ對シ決定ヲ以テ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ二十圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘキモノトス若シ再度ノ呼出ニ出頭セザルルハ更ニ費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡シ且証人ノ勾引ヲ命スルヲ得(證人ハ裁判所ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得又此抗告ハ執行ヲ停止スル效力

ヲ有ス)又豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行其他勾引ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス(訴第二九四)

証人其出頭セザリシコトヲ後日ニ至リ正當ノ理由ヲ以テ辯解スルルハ罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消スヘシ(訴第二九五第一)

証人ノ不參届及ヒ決定取消ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スモノトス(第二十四號書式參看(訴第二九五))

官吏公吏ハ退職ノ後ト雖モ其黙秘スヘキ義務アル事項ニ付キ證人トシテ訊問ヲ受ルルルハ其所屬廳又ハ其最後ノ所屬廳ノ許可ヲ經タル後訊問ヲ受クヘキモノトス大臣ニ付テハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス此許可ハ受訴裁判所ヨリ其所屬廳ニ照會シテ之ヲ與ヘシメ其証人タルヘキ本人ニ通知スルモノトス其所屬廳ハ右ノ場合ニ於テ証言ヲ許スニ於テハ國家ノ安寧ヲ害スヘシト認ムルルハ其許可ヲ拒ムコトヲ得(訴第二

九〇

第一項 左ニ掲クル者ハ証言ヲ拒ムコトヲ得(訴第二九七)

第一 原告若クハ被告又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第二 原告若クハ被告ノ後見ヲ受クル者

第三 原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者

此等ノ者ニハ訊問ヲ爲ス前ニ証言ヲ拒ムノ權アルコトヲ知ラシムヘキモノトス

第二項 左ノ場合ニ於テハ証言ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者カ其職務上默秘スヘキ義務アルキ

第二 醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘ス

ヘキモノニ關スルキ

第三 問ニ付テノ答辯カ証人又ハ前第一項中ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其刑事上ノ訴追ヲ招ク恐レアルキ

第四 問ニ付テノ答辯カ証人又ハ前第一項中ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシムヘキキ

第五 証人カ其技術又ハ職業ノ祕密ヲ公ニスルニ非サレハ答辯スルコト能ハサルキ

然レモ第一項ノ第一及第二項ノ第四ノ場合ニ於テハ左ノ事項ニ付証言ヲ拒ムコトヲ得(訴第二九九)

第一 家族ノ出產婚姻又ハ死亡

第二 家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ關スル事實

第三 証人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル權利行爲ノ成立及ヒ

趣

第四 原告若クハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ係争ノ權利關係

ニ關シ爲シタル行爲

又第二項ノ第一第二ニ掲ケタル者其黙秘スヘキ義務ヲ免除セラレタル片ハ証言ヲ拒ムコトヲ得サルナリ

証人証言ヲ拒マントスル片ハ其訊問ノ期日前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ其拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ説明スヘキモノトス期日前ニ証言ヲ拒ミタル証人ハ期日ニ出頭スルコトヲ要セス裁判所書記ハ拒絕ノ書面ヲ受領シ又ハ其陳述ニ付調書ヲ作りタル片ハ之ヲ當事者ニ通知スヘキモノトス(訴三〇〇)

原因ヲ開示セスシテ証言ヲ拒ミ又ハ開示シタル原因ノ棄却確定シタル後ニ之ヲ拒ミタル片ハ當事者ノ申立ヲ要セス決定ヲ以テ証人ニ對シ其拒絕ニ因リテ生シタル費用ノ賠償及ヒ四十圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘシ(此言渡ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ナ

有ス)豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍属ニ對スル罰金ノ言渡及執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲スヘキナリ(第三〇二)

拒絕ノ當否ハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ之ヲ裁判ス然レモ官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者カ其職務上黙秘ス可キ義務アル事情ニ關スル場合ニ於テ爲シタル拒絕ノ當否ニ付テハ所屬廳又ハ最後ノ所屬廳ノ裁定ニ一任スヘキモノトス而シテ此決定ハ若シ原告又ハ被告カ出張セサル片ハ出張シタル者ノ申述ヲ斟酌シテ之ヲ爲ス(此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス)(訴第三〇一)

原告若クハ被告ハ相手方ト相手方ノ証人トノ間ニ左ノ關係アル片ハ其証人ヲ忌避スルコトヲ得

- 第一 原告若クハ被告又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第二 原告若クハ被告ノ後見ヲ受クル者

第三 原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者

忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ証人ノ訊問前忌避ノ原因ヲ疏明シテ之ヲ爲スモノトス若シ証人ノ訊問後ニ至リ忌避ノ申請ヲ爲スモ其前ニ忌避ノ原因ヲ主張スルヲ得サリシコトヲ疎明スルニアラサレハ其証人ヲ忌避スルヲ得サルモノトス(第廿五號書式參看(訴第三〇四)忌避ノ申請ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ裁判スルコトヲ得忌避ノ原因アリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス忌避ノ原因ナシト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(訴第三〇五)

証人ニハ一名毎ニ通常其訊問前ニ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ノ宣誓ヲ爲サシムヘシ然レモ宣誓ハ特別ノ原因アル片殊ニ之ヲ爲サシム可キヤ否ヤニ付疑ノ存セサル片ハ訊問ノ終ルマテ之ヲ延フルコトヲ得又訊問後ニ宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサリシ旨ノ宣誓ヲ爲サシムヘシ(第廿六號書式參看(訴第三〇六第三〇七)宣誓ヲ爲サシムル片ハ判事ハ宣誓前ニ相當ナル方法ヲ以テ誓宣者ニ僞語ノ罰ヲ諭示スヘキモノトス(訴第三〇八)

証人宣誓ヲ拒マントスル片ハ訊問ノ期日前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ其拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ只之ヲ疎明スヘキモノトス宣誓ヲ拒ミタル証人ハ期日ニ出頭スルコトヲ要セス裁判所書記ハ拒絕ノ書面ヲ受領シ又ハ其陳述ニ付調書作リタル片ハ之ヲ當事者ニ通知スヘキモノトス(訴第三〇九)

原因ヲ開示セスシテ宣誓ヲ拒ミ又ハ開示シタル原因ノ棄却確定シタル後ニ之ヲ拒ミタル片ハ當事者ノ申立ヲ要セス決定ヲ以テ証人ニ對

シ其拒絕ニ因リテ生シタル費用ノ賠償及ヒ四十圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘシ(此言渡ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス)豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲スモノトス(同上)

拒絕ノ當否ハ當事者ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ之ヲ裁判ス然レモ官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者カ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スル場合ニ於テ爲シタル拒絕ノ當否ニ付テハ所屬廳又ハ最後ノ所屬廳ノ裁定ニ一任スヘキモノトス(此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス)(同上)

左ニ記載スル者ニハ常ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考トシテ訊問スルモノトス(訴第三一〇)

第一 訊問ノ時未タ滿十六歳ニ達セサル者

第二 宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ノ

缺クル者

第三 刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

第四 訴訟法第二百九十七條及ヒ第二百九十八條第三號茲ニ第

四號ノ規定ニ依リ証言ヲ拒絕スル推測アリテ之ヲ所使セサル

者但第二百九十八條第二號並ニ第四號ノ場合ニ於テハ拒絕ノ

權利ニ關スル事實ニ付キ証言ヲ爲スコトヲ申立テラレタ

ルトキニ限ル

第五 訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者

各證人ハ一名毎ニ訊問スヘキモノトス各証人ノ供述ニシテ互ニ齟齬

スルコトアルハ証人ヲ對質セシムルコトヲ得(訴第三一一)

皇族證人ナルトキハ受命判事又ハ受託判事其所在地ニ就キ訊問ヲ爲

ス(訴第二九六第一)

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ

滞在スルルハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問ス(訴第二九六第二)

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞在中ハ其所在

地ニ於テ之ヲ訊問ス(訴第二九六第三)

證人訊問ハ先ツ第一ニ証人ノ氏名、年齢、身分、職業及ヒ住所ヲ問フヘシ
又必要ナル場合ニ於テハ其事件ニ於テ証言ノ信用ニ關スル事情殊ニ
當事者トノ關係ニ付キ問ヲ發スヘシ(訴第三一一)然ル後証人ハ其訊問
ノ事項ニ對シ自己ノ知ル所ヲ牽連シテ供述スヘシ又必要ナル場合
ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得テ陪席判事証人ノ供述ヲ明瞭ニシ且完全
ナラシムルカ爲メ又ハ証人ノ事實了知ノ原因ヲ調査スル爲メ其他ノ
問ヲ發スルコトヲ得又當事者ハ証人ノ供述ヲ明白ナラシムル爲メ其必
要ナリトスル所ノ問ヲ發センコトヲ裁判長ニ求ムルヲ得若シ發問ノ許
否ニ付異議アルルハ裁判所ハ直ニ之ヲ裁判ス証人ハ供述ニ換ヘテ書
類ヲ朗讀シ其他覺書ヲ用ユルコトヲ得然レモ算數ノ關係ハ覺書ヲ用

キルコトヲ得都テ證人ノ供述ハ調書ニ記載スヘキモノトス其調書ニハ
證人カ訊問ノ前若クハ後ニ宣誓シタルヤ又ハ宣誓セシテ訊問ヲ受
ケタルヤヲ記載スヘキモノトス(第二十七號書式參看(訴第三一一三乃至
第三一六)

受訴裁判所及受命判事又ハ受託判事ハ其意見ニ依リ右ノ場合ニ於テ
証人ノ再訊問ヲ命スルコトヲ得(訴第三一七第三一九第四)

- 第一 證人訊問方法律上ノ規定ニ違ヒタルルル
 - 第二 證人訊問ノ完全ナラサルルル
 - 第三 證人ノ供述カ明白ナラス又ハ兩義ニ涉ルトキ
 - 第四 證人カ其供述ノ補充又ハ更正ヲ申立ツルトキ
 - 第五 此他裁判所カ再訊問ヲ必要トスルルル
- 左ノ場合ニ於テハ証人ニ依レル證據調ハ受訴裁判所ノ部員一名ニ之
ヲ命シ又ハ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得ルモノトス(訴第三一八)

第一 眞實ヲ探知スル爲メ現場ニ就キ証人ヲ訊問スルノ必要ナルルル

第二 証人カ疾病其他ノ事由ノ爲メ受訴裁判所ニ出頭スル能ハサルルル

第三 証人カ受訴裁判所ノ所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在テ其裁判所ニ出頭スルニ付キ不相應ノ時日及ヒ費用ヲ要スルルル

原告若クハ被告ハ証人ノ訊問未タ開始セサル以前ニアリテハ躬ヲ爲シタル証人ノ申出ヲ取消スコトヲ得然レモ訊問開始後ハ相手方ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルナリ(訴第三二〇)

証人ハ日當ノ辯濟及ヒ其頭出ノ爲メニ旅行ヲ要スルルルハ旅費ノ辯濟ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス其金額ノ拂渡ハ訊問期日ノ終リタル後直チニ之ヲ求ムルコトヲ得ルナリ(第二十八號書式參看(訴第三二一第一第二)右ノ日當及ヒ旅費ハ舉証者ノ豫納シタル金額ヲ以テ支拂フヘキモノトス若シ其金額不足スルルルハ職權ヲ以テ其不足額ヲ取立ツヘキモノトス(訴第三二一第三)

第二款 鑑定

鑑定ハ別段ノ伎倆ヲ有スル者ヲ以テ鑑定人トナシ訴訟上一定ノ關係ヲ正當ニ判斷セシメ以テ裁判所ノ心證ヲ資スルモノナリ

鑑定ニ付テハ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ尙人證ニ付テノ規定ヲ準用スヘキモノトス(訴第三二二)

鑑定ノ申出ハ鑑定ヲ爲スヘキ事項ヲ表示シテ之ヲ爲スモノトス(第二十九號書式參看(訴第三二二))

鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ハ受訴裁判所之ヲ爲スモノトス然レモ裁判所ハ當事者ニ命シテ鑑定人トシテ訊問ヲ受クルニ適當ナル者ヲ指名セシムルコトヲ得若當事者カ一定ノ者ヲ鑑定人ニ爲スコトヲ合意シタルルルハ裁判所ハ其合意ニ從フヘキモノトス(訴第三二四)

裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ一名マテニ制限シ又ハ何時ニテモ既ニ任命シタル者ニ代ヘ他ノ鑑定人ニ任命スルコトヲ得ルモノトス
受訴裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ受命判事又ハ受託判事ニ委任スルコトヲ得此場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ハ訴訟法第三百二十四條及ヒ第三百三十條第一號並ニ第三號ノ規定ニ依リ受訴裁判所ニ属スル權ヲ有スヘシ(訴第三三一)

外國ノ書類又ハ產物ノ審査ヲ要スル場合ニ於テ必要ナル能力ヲ有スル本邦人ノ在ラサルハ裁判所ハ外國人ヲ鑑定人ニ任命スルコトヲ得ルモノトス(訴第三二五)

鑑定ヲ爲スヘキコトヲ裁判所ニ於テ承諾シタル者又ハ必要ナル種類ノ鑑定ヲ爲ス爲メニ公ニ任命セラレタル者又鑑定ヲ爲スニ必要ナル學術技藝若クハ職業ニ常ニ従事スル者又ハ學術技藝若クハ職業ニ従事スル爲メニ公ニ任命若クハ授權セラレタル者鑑定ヲ命セラレタルハ鑑定ヲ爲スノ義務アリ又此等ノ者ニアラサルモ鑑定ヲ爲スヘキ旨ヲ裁判所ニ於テ述ヘタル者ハ鑑定人タル義務ナキト雖モ鑑定ヲ爲ス義務アルモノトス(訴第三二六)

鑑定人ハ證人カ鑑定ヲ拒ミ得ルト同一ノ原因ニ依リ鑑定ヲ拒ムノ權利アリ又官吏公吏ハ其屬應ニ於テ異議アルハ之ヲ鑑定人ト爲スコトヲ得ス(訴第三二七)

鑑定ヲ爲スノ義務アル者正當ノ理由ナクシテ出頭セス又ハ鑑定ヲ拒ムハ裁判所ハ職權ヲ以テ其者ニ對シ其欠席又ハ拒絕ニ依リ生シタル費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡スヘシ(訴第三二八)

鑑定人ハ鑑定ヲ爲スニ先タテ公平且誠定ニ鑑定ヲ爲スヘキ旨ヲ宣誓スヘキモノトス(第三十號書式參看(訴第三二九))

受訴裁判所ハ其意見ヲ以テ鑑定人ノ意見ハ口頭又ハ書面ニテ之ヲ述ヘシムヘキ又數名ノ鑑定人ヲ訊問スヘキ場合ニ於テ各意見カ異ナ

ル片ハ共同ニテ鑑定書ヲ作ラシムヘキヤ又ハ各別ニ之ヲ作ラシムヘキヤ又口頭辯論ノ際鑑定人ノ總員又ハ其一名ヲシテ鑑定書ヲ説明セシムヘキヤ又鑑定ノ結果カ不十分ナル片ハ同一又ハ他ノ鑑定人ヲシテ再ヒ鑑定ヲ爲サシムヘキヤヲ定ムヘキモノトス(訴第三三〇)
鑑定人ハ日當旅費及ヒ立替金ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得其他ノ手續ハ人證ニ付テノ規定ヲ準用スヘキモノトス(訴第三三二)

第三款 書證

書證ハ曾テ記録シアルトコロノ書類ヲ以テ證據ト爲スモノナリ
證書ニハ公正證書及ヒ私署證書ノ區別アリ公正證書ハ官廳又ハ公然ノ信倚ヲ備ヘタル者ノ其職權内ニ於テ一定ノ法式ニ從ヒ作りタル書類ヲ云フ其他ノ證書ハ都テ私署證書ナリトス
書證ノ申出ハ舉証者證書ヲ所持シ又ハ裁判所ノ助力ナク證書ヲ提出セシメ得ル片口頭辯論ヲ提出シテ之ヲ爲スモノトス(第三三四)若シ口

頭辯證ノ際證書ヲ提出スルニ於テハ其毀損若クハ紛失ノ恐レアリ又ハ他ノ顯著ナル障礙アル片ハ受訴裁判所其證書ヲ受命判事若クハ受託判事ノ面前ニ提出スヘキコトヲ命スルヲ得(訴第三四八第一)(受命判事又ハ受託判事ハ證書ノ明細書及ヒ其原本ヲ調書ニ添附シ又證書ノ一分ノミ必要ナル片ハ訴訟法第七條第二項ノ規定ニ從ヒテ作りタル抄本ヲ之ニ添附スヘシ(訴第三四八第二))

舉証者其使用セントスル證書カ相手方ノ手ニ在リト主張スル片其書證ノ申出ハ舉証者對手人ヲシテ證書ヲ提出セシメ度シトノ申出ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス(訴第三三五)
證書ノ提出ヲ命セラントノ申立ニハ其申立ヲ確實ニスル爲メ左ノ諸件ヲ掲グルルヲ要ス(第卅一號書式(訴第三三八))

第一 書證ノ表示

第二 證書ニ依リ證ス可キ事實ノ表示

第二編、第一章 地方裁判所ノ訴訟手續 第二節 證據調ノ総則 第三款 書證 百二十九

第三 證書ノ旨趣

第四 證書カ相手方ノ手ニ存スル旨ヲ主張スル理由タル事情

第五 證書ヲ提出スヘキ義務ノ原因ノ表示

裁判所ハ證書ニ依リ證スヘキ事實ノ重要ニシテ且申立ヲ正當ナリト認ムル場合ニ於テ相手方證書ヲ所持スルヲ自白スル片又ハ舉証書ノ申立ニ對シ陳述セサル片ハ證據決定ヲ以テ證書ノ提出ヲ命スルモノトス(訴第三三九)

原告ノ訴訟ニ於テ證據方法トシテ使用セントスル証書他人即チ相手方若クハ第三者ノ手ニ在ル片ハ其所持者ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ提出スルノ義務アルモノトス(訴第三三六第三三七第三四三)

第一 舉証者カ民法ノ規定ニ從ヒ訴訟外ニ於テモ証書ノ引渡又ハ其提出ヲ求ムルヲ得ル片

第二 証者カ其旨趣ニ因リ舉証者及ヒ相手方ニ共通ナル片例ヘハ舉証者ト相手方トノ間ニ爲シタル賣買契約若クハ家屋ノ賃借契約ノ如シ又對手人ハ訴訟ニ於テ舉証ノ爲メ引用シタル証書ヲ所持スル片ハ之ヲ撰出スルノ義務アリ其引用ヲ準備書面ニ於テ爲シタル片ト雖モ亦同シ

前述ノ場合ニ於テハ官廳及ヒ公吏ト雖モ通常一箇人ト等シク証書ヲ提出スルノ義務アリ

凡ソ訴訟法ノ規定ニ從ヒ証書ヲ提出スルノ義務アル場合ニ於テハ其所持者ヲシテ強テ之ヲ提出セシムルヲ得然レモ第三者ハ通常一箇人ナルト官廳又ハ公吏ナルトヲ問ハズ訴訟ヲ以テノミ提出セシメラル、モノトス(訴第三四三)

相手方カ證書ヲ所持セサル旨ヲ申立ツル片ハ此申立ノ眞實ナルヤ否ヤヲ定ムル爲メ又ハ證書ノ所在ヲ穿鑿スル爲メ又ハ舉証者ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ故意ニ証書ヲ隱匿シ若クハ使用ニ耐ヘサラシメタ

ルヤ否ヤヲ穿鑿スル爲メ相手方本人ヲ訊問スヘキモノトス相手方カ官廳ナルルハ證書カ其官廳ノ保藏ニ係ラス又ハ其所在ヲ開示スルヲ得サル旨ノ長官ノ證明書ヲ以テ訊問ニ換フヘシ此場合ニ於テハ裁判所ハ其證明書ヲ差出サシムル爲メ相當ノ期間ヲ與フヘキモノトス
(訴第三四〇)

右ニ反シ相手方カ證書ヲ所持スルヲ自白シ又ハ之ヲ所持セスト申立テスシテ其證書ヲ提出スヘキ旨ノ命ニ從ハス又ハ相手方カ所持セスト申立テタル證書ニ付キ訊問ヲ受ケテ供述ヲ爲スヲ拒ミタルルハ又ハ舉証者ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ故意ニ證書ヲ隱匿シ若クハ使用ニ耐ヘサラシメタルヲ明確ナルルハ舉証者ヨリ差出シタル證書ノ謄本ヲ以テ正當ナルモノト看做スヘシ若シ謄本ヲ出サ、ルルハ裁判所ハ其意見ヲ以テ舉証者ノ主張スル證書ノ性質及ヒ證書文ノ旨趣ハ正當ナリト認ムルヲ得ヘキナリ又官廳カ前項ニ述ヘタル證明書ヲ

裁判所ノ結定シタル期間内ニ差出サ、ルルモ亦之ト同一ノ結果ヲ生スルモノナリ

舉証者其使用セントスル證書カ第三者ノ手ニ在リト主張スルルハ其書証ノ申出ハ其證書ノ提出期限ヲ定メ度シトノ申立ヲ以テ爲スモノトス(訴第三四二)舉証者ハ此申立ヲ爲スニハ其申立ヲ確定ニスル爲メ左ノ諸件ヲ掲ケ且證書カ第三者ノ手ニ存在スルヲ証明スヘキモノトス(訴第三四四)

第一 證書ノ表示

第二 證書ニ依リ証スヘキ事實ノ表示

第三 證書ノ旨趣

第四 證書ヲ提出ス可キ義務ノ原因ノ表示

此申立ニシテ第一乃至第四ノ要件ニ適合シ且證書ニ依リ証明スヘキ事實ノ重要ナルルハ裁判所ハ證書提出ノ期間ヲ定ムヘシ(訴第三四五)

第一(第三者と對スル訴訟ノ完結シタルモ又ハ舉証者カ訴ノ提起訴訟ノ繼續又ハ強制執行ノ遅延シタルモハ相手方ノ前項ノ期間ノ滿了前ト雖モ訴訟手續ノ繼續ヲ申立ツルコトヲ得(訴第三四五第三))

舉証者其使用セントスル証書カ官廳又ハ公吏ノ手ニ在リト主張シ且舉証者裁判所ノ助力アルニアラサレハ之ヲ提出セシメ得サル場合ニ於テハ書証ノ申出ハ証書ノ送付ヲ官廳又ハ公吏ニ囑託セラレ度シトノ申立ヲ以テ之ヲ爲スモノトス若シ舉証者訴訟法第三百三十六條ノ規定ニ從ヒ提出ノ義務アリト主張スル場合ニ於テ其義務アル官廳又ハ公吏カ其送付ヲ拒絕シタルモハ証書提出ノ爲メ期間ヲ定メ度トノ申立ヲ以テ更ニ書証ノ申立ヲ爲スモノトス此場合ニ於テハ前項ニ述

ヘタル規定ヲ適用スヘシ(訴第三四六)
証據決定ヲ爲シタル後舉証者其使用セントスル証書カ第三者ノ手ニ在ル旨ヲ主張シ証書ヲ提出セシムル爲メ期間ヲ定メテ書証ノ申出ヲ

爲シタルモ及ヒ舉証者其使用セントスル証書カ官廳又ハ公吏ノ手ニ在ル旨ヲ主張シ其証書ノ送付ヲ官廳又ハ公吏ニ囑託セラレシコトヲ申立テ、書証ノ申出ヲ爲スモ於テ証書ヲ提出セシムル手續ノ爲メニ訴訟ノ完結ヲ遅延スルニ至ルヘク且裁判所ニ於テ原告若クハ被告カ訴訟ヲ遅延スル故意ヲ以テ又ハ甚シキ怠慢ニ因リ書証ノ申出ヲ早ク爲サ、リシコト心證ヲ得タルモハ相手方ノ申立ニ因リ書証ノ申出ヲ却下スルコトヲ得ルモノトス(訴第三四七)

証書ノ提出アリタル後ハ舉証書ハ相手方ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ其証據方法ヲ抛棄スルコトヲ得サルモノトス(訴第三五〇)
公正証書ハ正本又ハ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テ之ヲ提出スルコトヲ得然レモ裁判所ハ舉証者ニ正本ノ提出ヲ命スルコトヲ得ルナリ(訴第三四九第一)

私署証書ハ原本ヲ以テ之ヲ提出スヘシ若シ當事者カ未タ提出セサル

原本ノ真正ニ付キ一致シ只其証書ノ効力又ハ解釋ニ付テノミ爭ヲ爲スルハ臆本ヲ提出スルヲ以テ足ル然レモ裁判所ハ職權ヲ以テ舉証者ニ原本ノ提出ヲ命スルヲ得ルモノトス(訴第三四九第二)提出シタル臆本ニ換ヘテ正本又ハ原本ヲ提出スヘキ旨ノ命ニ從ハサルハ裁判所ハ心証ヲ以テ臆本ニ如何ナル證據力ヲ付スヘキヤヲ裁判スルモノトス(訴第三四九第三)

公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署証書ヲ偽造若クハ變造ナリト主張スル者ハ其證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ於テハ裁判所ハ其証書ノ眞否ニ付キ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スモノトス(訴第三五一)

私署証書ノ眞否ニ付キ爭アルハ裁判所ハ舉証者ノ申立ニ因リ檢眞ヲ爲スコトヲ得ルモノトス檢眞ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若クハ印章ノ對照ニ因テ之ヲ爲ス故ニ証書ノ眞否ヲ證セントスル當事者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ手跡若クハ印章ヲ對照スル爲メニ適當ナル書類ヲ提出スヘキモノトス若シ眞正ナリトノ自白又ハ眞正ナルコトヲ証明スルニ適當ノ對照書類ノ爲メ裁判所ハ原告若クハ被告ニ對シ一定ノ語辭ノ手記ヲ命スルコトヲ得(其手記シタル語辭ハ調書ノ附録トシテ其証書ニ添附スヘキモノトス)手跡若クハ印章ヲ對照シタル結果ニ付テハ自由ナル心証ヲ以テ裁判ヲ爲シ又必要ナル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ鑑定ヲナサシメタル後之ヲ爲スモノトス(訴第三五三第一乃至第四)然レモ原告若クハ被告カ裁判所ノ定メタル期間内ニ對照書類ヲ撰出セサルハ又ハ對照スヘキ語辭ヲ手記スヘキ裁判所ノ命ニ對シ十分ナル辯解ヲ爲サスシテ之ニ從ハサルハ又ハ書様ヲ變シテ手記シタルハ証書ノ眞否ニ付テノ相手方ノ主張ハ他ノ證據ヲ要セスシテ之ヲ眞正ナリト看做スコトヲ得(訴第三五三第五)提出シタル証書ハ直チニ之ヲ還付シ又適當ナル場合ニ於テハ其臆本ヲ記錄ニ留メテ之ヲ還付スヘ

キモノトス然レモ証書ノ偽造又ハ變造ナリト争フキハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後ニアラサレハ之ヲ還付スルコトヲ得サルナリ(訴第三五四)

第四款 檢證

檢證ハ裁判官ノ職務ヲ以テ實驗ヲ爲スモノナリ

檢證ノ申出ハ檢證物件(檢證スヘキモノハ土地場所物品等ノ類ナリ)ヲ表示シ及ヒ證明スヘキ事實ヲ開示シテ之ヲ爲スモノトス(第三十二號書式

參看(訴第五三五七)

檢證ノ爲メ鑑定人ノ立會ヲ必要トスルハ鑑定人ヲ命シテ實地ニ立會ハシムルコトヲ得ルモノトス(訴第三五八第一)

檢證及ヒ鑑定人ノ任命ハ受訴裁判所自ラ之ヲ爲シ又受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス(訴第三五八第二)

檢證ヲ爲スノ際發見シタル事項ハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ナラシムヘキモノトス而シテ必要ナル場合ニ於テハ調書ノ附録トシテ添付ス

ヘキ圖面ヲ作り之ヲ明確ナラシムヘシ若シ既ニ記録ニ圖面ノ存スル片ハ之ヲ檢證物ニ對照シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ更正スヘキモノトス(第卅三號書式參看(訴第三五九)

第五款 當事者本人ノ訊問

原告若クハ被告ノ提出シタル証據ヲ取調フルモ其結果ニ因リ證スヘキ事實ノ眞否ニ付キ裁判所カ心證ヲ得ルニ足ラサルハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ヲ訊問スルコトヲ得ルモノトス

(訴第三六〇)

裁判所ハ原告若クハ被告本人ノ訊問ヲ決定シ且期日ヲ定メテ之ヲ呼出スヘキモノトス然レモ訊問決定言渡ノ際原告若クハ被告ノ自身ニ在廷スルハ其決定言渡ニ引續テ直チニ訊問ヲ爲スヘキモノトス(訴第三六一)訊問ニ答フル供述ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スモノトス供述ニ換ヘテ書類ヲ朗讀シ其他覺書ヲ用ユルコトヲ得ス然レモ算數ノ關係ニ限り

覺書ヲ用井ルヲ得ルナリ(訴第三六二)

訊問ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ十分ナル理由ナクシテ供述ヲ拒絕シ又ハ訊問期日ニ出頭シタル片ハ裁判所ハ其意見ヲ以テ其意見ヲ以テ訊問ニ因テ舉證スヘキ相手方ノ主張ヲ正當ナリト認ムルヲ得ルモノトス(訴第三六三)

訴訟無能力者ノ法律上代理人カ訴訟ヲ爲ス片ハ法律上代理人若クハ訴訟無能力者ヲ訊問スヘキヤ又ハ此等ノ者ヲ共ニ訊問スヘキヤ又法律上代理人數人アル片ハ其一人ヲ訊問スヘキヤ又ハ數人ヲ訊問スヘキヤ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ決定スルモノトス(訴第三六四)

第六款 證據保全

證據保全ハ人證鑑定檢證ヲ問ハス通常ノ證據手續ニ從ヒテ證明スル片ハ其證據ヲ紛失スルノ恐アリ又之ヲ使用シ難キ恐レアル片證據ヲ保存スルカ爲メ申立ニ依リテ之ヲ爲スモノナリ(訴第三六五)(然レモ相手方ノ承諾ヲ得タル片ハ本文ノ條件ヲ要セスシテ證據保全ノ申立ヲ爲スヲ得ルナリ(訴第三七一))

訴訟カ既ニ繫屬シタル片ハ保全ノ爲メニスル證據ノ申請ハ通常受訴裁判所ニ之ヲ爲スモノトス然レモ訴訟ノ未タ繫屬セサル片又ハ切迫ナル危險ノ場合ニ於テハ訊問ヲ受クヘキ者ノ現在地又ハ檢證スヘキ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請ヲ爲スヲ得ルモノトス(訴第三六六第一第二第三)

右ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ得此申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヲ要ス(第卅四號書式參看(訴第三六六第四第三六七))

- 第一 相手方ノ表示
- 第二 證據調ヲ爲スヘキ事實ノ表示
- 第三 證據方法殊ニ證人若クハ鑑定人ノ訊問ヲ爲スヘキ片ハ其表示

第四 證據ヲ紛失スル恐アリ又ハ之ヲ使用シ難キ恐レアル理由

此理由ハ之ヲ疏明スヘシ

若シ申立人ニシテ右第一ニ記載スル相手方ヲ指定セサルハ申立人自己ノ過失ニアラスシテ相手方ヲ指定シ能ハサルヲ疏明スルニアラサレハ其申請ヲ爲スヲ許サ、ルナリ(訴第三七二第一)

申請ニ付テノ決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スヲ得其申請ヲ許容スル決定ニハ證據調ヲ爲スヘキ事實及ヒ證據方法殊ニ訊問スヘキ證人若シハ鑑定人ノ氏名ヲ記載スヘキモノトス此決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヲ得サルナリ(訴第三六八)

申請ヲ許容シタルハ裁判所ハ其知レサル相手方ノ權利防衛ノ爲メニ臨時代理人ヲ任スルヲ得ルモノトス(訴第三七二第二)

證據調ノ期日ニハ申立人ヲ呼出シ又決定及ヒ申請ノ謄本ヲ送達シテ其權利防衛ノ爲メニ相手方ヲモ呼出スヘキナリ然レモ切迫ナル危険

ノ場合ニ於テハ適當ナル時間ニ相手方ヲ呼出スヲ得ザリシト雖

モ證據調ヲ妨クルヲナシ(訴第三六九)

此證據調ハ人證鑑定檢證ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スモノトス證據調書ハ證據調ヲ命シタル裁判所ニ之ヲ保存スヘキナリ而シテ各當事者ハ證據調ノ調書ヲ訴訟ニ於テ使用スルノ權利アルモノトス(訴第三七〇

第一第二)

受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ再度ノ證據調ヲ命シ又ハ職權ヲ以テ再度ノ證據調ヲ命シ又ハ既ニ調ヘタル證據ノ補充ヲ命スルヲ得ルモノトス(訴第三七〇第三)

第三節 判決

凡ソ口頭辯論ニ次クモノハ判決ナリトス判決ハ訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルモ終局判決ヲ以テ其基本タル口頭辯論ニ臨席シタル判事之ヲ爲スモノトス(同時ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス爲メ併合シタル數箇ノ訴訟中ノ一

ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルモ亦同シ(訴第二二五第二三二)一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求中ノ一箇又ハ一箇ノ請求中ノ一分又ハ反訴ヲ以テ起シタル場合ニ於テ本訴若クハ反訴ノミ裁判ヲ爲スニ熟スルハ終局判決(一分判決)ヲ以テ之ヲ爲ス然レモ裁判所ハ事件ノ事情ニ從ヒテ一分判決ヲ相當トセサルモ之ヲ爲サ、ルコトヲ得ルナリ(訴第二二六)

各箇ノ獨立ナル攻撃若クハ防禦ノ方法又ハ中間ノ争カ裁判ヲ爲スニ熟スルモハ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得(訴第二二七)又請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ争アルモハ裁判所ハ先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得而シテ請求ノ原因ヲ正當ナリトスル判決ハ上訴ニ關シテハ之ヲ終局判決ト看做シ其判決確定スルニ至ルマテ爾後ノ手續ヲ中止ス然レモ裁判所ハ申立ニ因リ其數額ニ付キ辯論ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得ルモノトス(訴第二二八)

口頭辯論ノ際ニ於テ原告其訴ヘタル請求ヲ拋棄シ又ハ被告之ヲ認諾スルモハ裁判所ハ申立ニ因リ其拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ以テ却下又ハ敗訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス(訴第二二九)

判決ハ辯論ヲ經タル總テノ攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ包括ス然レモ數箇ノ獨立ナル攻撃又ハ防禦ノ方法中其一箇ヲ適切ナリトスルモハ裁判所ハ他ノ方法ニ付キ判斷ヲ爲ス義務ナキモノトス(訴第二三〇)

裁判所ハ申立テサル事物ヲ原告若クハ被告ニ歸セシムル權ナシ然レモ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テハ訴訟費用ノ負擔ニ限り申立アラサルモ判決ヲ爲スヘキモノトス若シ一分判決ヲ爲ス場合ニ於テハ費用ノ裁判ヲ後ノ判決ニ讓ルコトヲ得ルナリ(訴第二三一)

判決ハ口頭辯論ノ終結スル期日又ハ直チニ指定スル期日ニ於テ之ヲ言渡スモノトス其期日ハ七日ヲ過クルコトヲ得サルナリ(訴第二三三)

判決ノ言渡ハ判決主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲スモノトス闕席判決ノ言渡

ハ其主文ヲ作ラサル前ト雖モ之ヲ爲スコヲ得若シ裁判ノ理由ヲ言渡
スコトヲ至當ト認ムルキハ判決ノ言渡ト同時ニ其理由ヲ朗讀シ又ハ

口頭ヲ以テ其要領ヲ告達スヘキモノトス(訴第二三四)
判決ノ言渡ハ當事者又ハ其一方ノ在廷スルト否トニ拘ハラス其效力
ヲ有スルモノトス又言渡アリタル判決ニ基キ訴訟手續ヲ續行シ又ハ
他ニ其判決ヲ使用スル原告若クハ被告ノ權ハ法律ニ特定シタル場合
ヲ除ク外相手方ニ其判決ヲ送達スルト否トニ拘ハラサルモノトス(訴

第二三五)

判決書ニハ左ノ諸件ヲ掲記スヘキモノトス(第卅五號書式參看(訴第二三四))

- 第一 當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名、自分、職業及ヒ住所
- 第二 事實及ヒ爭點ノ摘示(其摘示ハ當事者ノ口頭演述ニ基キ殊ニ
其提出シタル申立ヲ表示シテ之ヲ爲ス)

第三 裁判ノ理由

第四 判決ノ主文

第五 裁判所ノ名稱、裁判ヲ爲シタル判事ノ官氏名

判決書ノ原本ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘキモノトス若シ
陪席判事署名捺印スルニ差支アルハ其理由ヲ開示シテ裁判長其旨
ヲ附記スヘシ裁判長差支アルハ官等最モ高キ陪席判事之ヲ附記ス
ヘキモノトス(訴第二三七)

判決書ノ原本ハ判決言渡ノ日ヨリ起算シテ七日内ニ裁判所書記ニ之
レヲ交付スヘキモノトス裁判所書記ハ言渡ノ日及ヒ原本領収ノ日ヲ
原本ニ附記シ且之ニ署名捺印スヘキモノトス(訴第二三七第二第三)
各當事者ハ判決ノ送達アラント申立ツルコトヲ得其申立アリタルハ
ハ判決ノ正本ヲ送達スヘキモノトス(第三十六號書式參看(訴第二三八))
判決ヲ言渡サス又ハ判決ノ原本ニ署名捺印セサル間ハ其正本、抄本及
ヒ謄本ヲ付與スルコトヲ得サルモノトス判決ノ正本抄本及ヒ謄本ニハ

裁判所書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證スヘシ(訴

第二三九

裁判所ハ一旦言渡シタル終局判決及ヒ中間判決ノ中ニ包含シタル裁判ハ之ヲ變更スルコトヲ得サルモノトス(訴第二四〇)然レモ判決中ノ書損違算其他之ニ類スル著シキ誤謬ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ更正スルコトヲ得ルモノトス此更正ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得(更正ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ上訴スルコトヲ得ス更言ヲ宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(訴第二四一)主タル請求若クハ附帶ノ請求又ハ費用ノ全部若クハ一分ノ裁判ヲ爲スニ際シ脱漏シタル片ハ申立ニ因リ追加ノ裁判ヲ以テ判決ヲ補充スヘキモノトス判決ノ言渡後直チニ追加裁判ノ申立ヲ爲サル片ハ遅クトモ判決ノ正本ヲ送達シタル日ヨリ起算シ七日ノ期間内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス追加裁判ノ申立アル片ハ即時ニ又ハ新期日トヲ定メテ口

頭辯論ヲ爲サシムヘシ其辯論ハ訴訟ノ完結セサル部分ニ限り之ヲ爲スモノトス(第三十七號書式參看(訴第二四二)判決ヲ更正シ又ハ補充スル裁判ハ判決ノ原本及ヒ正本ニ之ヲ追加シ若シ正本ニ之ヲ追加スルコトヲ得サル片ハ更正又ハ補充ノ裁判ノ正本ヲ作ルモノトス(訴第二四三)

判決ノ確定力ノ及フヘキハ判決主文ニ包含スル事項ニ限ルモノトス(訴第二四四)

口頭辯論ニ基キ爲ス裁判所ノ決定ハ之ヲ言渡スヘキモノトス言渡ヲ爲サル裁判所ノ決定及ヒ言渡ヲ爲サル裁判長並ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達スヘキモノトス(訴第二四五)

第四節 闕席判決

闕席判決ハ原告若クハ被告ニ於テ口頭辯論ノ期日(延期シタル口頭辯論

ノ期日又ハ口頭辯論ヲ續行スル爲メニ定ムル期日モ亦同シ(訴第二四九)ニ出頭セサル場合ニ於テ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リテ之ヲ爲スモノトス(訴第二四六)若シ原告カ期日ニ出頭セサルハ被告ノ申立ニ因リ原告ノ爲シタル訴訟ヲ却下スル旨ノ闕席判決ヲ言渡スヘキモノトス(訴第二四七)之ニ反シ被告カ期日ニ闕席シ原告ヨリ闕席判決ノ言渡アラシトテ申立ツルニ於テハ原告ノ事實上ノ口頭陳述ヲ自白シタルモノト看做シ原告ノ請求ヲ正當ト爲スハ被告其請求ニ應スヘキ旨ノ闕席判決ヲ言渡スヘシ若シ其請求ヲ正當ト爲サ、ルハ其訴訟ヲ却下スル旨ノ闕席判決ヲ言渡スヘキモノトス(第卅八號書式參看(訴第二四八)原告若クハ被告期日ニ出頭スルモ辯論ヲ爲サ、ルハ又ハ辯論ヲ爲サスシテ任意ニ退廷シタルハ出頭セサルモノト看做ス(訴第二五〇)若シ原告若クハ被告カ本案ノ辯論ヲ爲シタルハ各箇ノ事實證書又ハ發問ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ任意ニ退廷スルモ闕席判決ヲ爲スコトヲ

得サルモノトス(訴第二五一)

闕席判決ノ言渡アラシトテ求ムルノ申立ハ左ノ場合ニ於テハ却下スヘキモノトス(訴第二五二)

第一 出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ付キ必要ナル心證ヲ爲ス能ハサルハ

第二 出頭セサル原告若クハ被告ニ口頭上事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサルハ

然レモ右ノ場合ニ於テハ出頭シタル原告若クハ被告ノ申立ニ依リ口頭辯論ノ期日ヲ延期スルコトヲ得辯論ヲ延期シタルハ出頭セサル原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出スヘキモノトス

闕席判決ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得又其決定ヲ取消シタルハ出頭セサリシ原告若クハ被告ヲ新期日ニ呼出サシテ闕席判決ヲ爲スモノトス(訴第二五三)

左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ闕席判決ニ付テノ辯論ヲ延期
スルコトヲ得則チ(訴第二五四)

第一 出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレザリシ片
第二 出頭セサル原告若クハ被告カ天災其他避ク可カラサル事
變ノ爲ニ出頭スル能ハサルコトノ眞實ト認ムヘキ事情アル片
是レナリ出頭セザリシ原告若クハ被告ハ新期日ニ之ヲ呼出スヘキモ
ノトス

闕席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ其判決ニ對シ故障ヲ爲スコトヲ
得此故障申立ノ期間ハ十四日トス此期間ハ不變期間ニシテ闕席判決
ノ送達ヲ以テ始マル故障申立ハ判決ノ送達前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得
若シ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキ又ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲スヘ
キ片ハ裁判所ハ闕席判決ニ於テ故障期間ヲ定メ又ハ後日決定ヲ以テ
之ヲ定ム此決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ルモノトス(訴第二

五五)

故障申立ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘ
キモノトス此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(第卅九號書式參
看(訴第二五六)

第一 故障ヲ申出テラレタル闕席判決ノ表示
第二 其判決ニ對スル故障ノ申立

右ノ書面ニハ本案ニ付テノ口頭辯論準備ノ爲メニ必要ナル事項アル
片ハ之ヲ掲記スヘキモノトス
故障ノ申出アリタル片ハ裁判所ハ職權ヲ以テ故障ヲ許スヘキヤ否又
法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ故障ヲ申立テタルヤ否ヤヲ
調査スヘシ若シ故障ニシテ此等ノ要件ノ一ヲ欠ク片ハ判決ヲ以テ故
障ヲ不適法トシテ棄却スヘシ(訴第二五九之ニ)反シ故障ノ適法ナル片
ハ訴訟ハ原被告ノ闕席シタル以前ノ程度ニ復スルモノトス即チ闕席

判決ヲ全ク爲サ、ルモノト同視スヘシ(訴第二六〇)新ナル辯論ニ基キ爲スヘキ判決ニシテ闕席判決ト符合スル片ハ其新判決ニ於テ闕席判決ヲ維持スル旨ヲ言渡シ其符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄スヘシ(訴第二六一)闕席ニ因リ生シタル費用ハ其費用ノ相手方ノ不當ナル異議ニ因リ生セサル限リハ設ヒ故障ヲ爲スニ因リ闕席者ニ利益アル判決ノ言渡アルモ闕席シタル原被告ニ之ヲ負擔セシムヘキナリ(訴第二六二)

故障ヲ申立テタル原告若クハ被告口頭辯論ノ期日又ハ辯論延期ノ期日ニ出頭セサル片ハ左ノ場合ヲ除ク外出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ新闕席判決ヲ以テ故障ヲ却下スヘシ此判決ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス(訴第二六三)

第一 出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査スヘキ事情ニ付キ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサル片

第二 出頭セサル原告若クハ被告ニ口頭上事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサル片

第三 出頭セサル原告若クハ被告カ合式ニ呼出サレサリシトキ
第四 出頭セサル原告若クハ被告カ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲ニ出頭スル能ハサルコトノ眞實ト認ムル可キ事情アル片

故障ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テハ控訴ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テノ規定ヲ準用スルモノトス(訴第二三四)

本節ノ規定ハ反訴又ハ既ニ原因ノ確定シタル請求ノ數額ノ定ヲ目的物トスル訴訟手續ニ之ヲ準用ス又中間訴訟ノ辯論ノ爲メ期日ヲ定メタル片ハ其闕席訴訟手續及ヒ闕席判決ハ其中間訴訟ヲ完結スルニ止マリ本節ノ規定ヲ準用スルモノトス(訴第二三五)

第五節 計算事件財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟

第二編、第一章、第五節、計算事件財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續 百五十五

ノ準備手續

計算ノ當否財産ノ分別又ハ之ニ類スル關係ヲ目的トスル訴訟ノ提起アリタルハ受訴裁判所ハ妨訴ノ抗辨ヲ完結シタル後申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其後ノ口頭辯論ヲ延期シテ受命判事ニ訴訟ノ準備ヲ命スルコトヲ得然レモ此準備ヲ命スル場合ハ唯タ訴訟ニ係ル請求又ハ計算書或ハ財産目錄ニ對スル争點許多ニシテ通常手續ヲ適用スルノ不便ナルハ限ルナリ(訴第二六六)

準備手續ヲ命スル決定ヲ言渡スニ際シ裁判長ハ受命判事ヲ指定シ且其手續ヲ完結スルノ期日ヲ定ムヘシ此期日ノ定ハ受命判事ニ委任スルコトヲ得受命判事其委任ヲ受ケタル場合ニ於テ之ヲ施行スルニ差支アルハ裁判長ハ更ニ他ノ判事ニ之ヲ委任スルモノトス(訴第二六七)

準備手續ニ於テハ調書ヲ以テ左ノ諸件ヲ明確ナラシムヘシ(訴第二六

八

第一 如何ナル請求ヲ爲スヤ及ヒ如何ナル攻撃防禦ノ方法ヲ立張スルヤ

第二 如何ナル請求及ヒ如何ナル攻撃防禦ノ方法ヲ争フヤ又ハ之ヲ争ハサルヤ

第三 争ト爲リタル請求及ヒ争ト爲リタル攻撃防禦ノ方法ニ付テハ其事實上ノ關係及ヒ當事者ノ表示シタル證據方法主張シタル證據抗辯證據方法並ニ證據抗辯ニ關シテ爲シタル陳述及ヒ提出シタル申立

準備手續ハ受訴裁判所ニ於テ訴訟又ハ中間訴訟ノ判決又ハ證據決定ヲ爲スニ熟スルマテ之ヲ續行スヘキモノトス

原告若クハ被告ノ一方期日ニ於テ受命判事ノ面前ニ出頭セサルハ該判事ハ出頭シタル原告若クハ被告ノ陳述ヲ調書ニ記載セシメ且新

第二編、第一章、第五節 計算事件財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續 百五十七

期日ヲ定ムヘシ此場合ニ於テハ出頭シタル原告若クハ被告ノ調書ノ
 謄本ヲ出廷セサル對手人ニ送達シ之ヲ新期日ニ呼出スヘシ若シ出頭
 セサル原告若クハ被告ニ於テ再ヒ闕席スルハ送達セシ調書ニ掲ゲ
 タル相手方ノ事實上ノ主張ハ之ヲ承諾シタルモノト看做シ之ニ關ス
 ル準備手續ハ完結シタルモノトス(第四十號書式參看)訴第二六九
 準備手續ノ完結シタル後受訴裁判所ニ於テスル口頭審理ノ期日ハ裁
 判長職權ヲ以テ之ヲ定メ當事者ニ通知スヘキモノトス(訴第二七〇)當
 事者ハ口頭辯論期日ニ於テ調書ニ基キ準備手續ノ結果ヲ演述スヘシ
 若シ原告若クハ被告ノ一方出頭セサルハ準備手續ニ於テ爭ハサル
 請求ハ一分判決ヲ以テ之ヲ完結スヘシ其他ノ點ニ付テハ出頭シタル原
 告若クハ被告ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス(訴第二七一)
 受命判事ノ調書ヲ以テ明確ニスヘキ事實又ハ證書ニ付キ陳述ヲ爲サ
 ス又ハ之ヲ拒ミタルハ口頭辯論ニ於テ之ヲ追完スルヲ得ス然レ

モ請求攻撃若クハ防禦ノ方法證據方法及ヒ證據抗辯ニシテ受命判事
 ノ調書ヲ以テ之ヲ明確ニセサルモノニ付テハ後日ニ至リ始メテ生シ
 又ハ後日ニ至リ始メテ原告若クハ被告ノ知リタルヲ疎明スルハニ
 限リ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルヲ得ヘキナリ(第二七二)

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

第一節 通常ノ訴訟手續

區裁判所ノ通常ノ訴訟手續ニ付テハ區裁判所ノ構成又ハ訴訟法第一
 編及ヒ此節ニ於テ規定シタル事項ニ依リ差異ノ生セザル限リハ地方
 裁判所ニ於テノ訴訟手續ト同一ナル規定ヲ適用スルモノトス(訴第三
 七三)

訴ノ提起ハ地方裁判所ニ於テノ手續ニ於ケルカ如ク訴狀ヲ裁判所ニ
 差出シテ之ヲ爲シ又ハ口頭ヲ以テ裁判所ニ之ヲ爲スヲ得(訴第三七
 四)(口頭ヲ以テ起訴スルハ裁判所書記ハ之ヲ調書ニ錄取シ其謄本ヲ作リ之

ヲ被告人ニ送達スヘキナリ(第四十一號書式參看)起訴アリタルハ裁判所

書記ハ訴狀ヲ被告ニ送達スルノ手續ヲ爲スモノトス(訴第三七五)

凡ソ區裁判所ニ於テハ其審理判決スルトコロノ事件極メテ簡易ニシ

テ事理ノ錯綜セルモノナシ故ニ口頭辯論ヲ開クニ準備書面ヲ交換ス

ルコトヲ要セス(訴第三七五)然レモ請求數個アル場合ニ於テ其申立及ヒ

事實上ノ主張ヲ豫メ通知スルニアラサレハ相手方ニ於テ之ニ對シ陳

述ヲ爲シ得ヘカラサルハ口頭辯論ノ前直接ニ相手方ニ其通知ヲ爲

スコトヲ得ルモノトス(訴第三七六)

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ時間ヲ存スル

コトヲ要ス然レモ急速ヲ要スル場合ニ於テハ此時間ヲ二十四時マテニ

短縮スルコトヲ得又送達ヲ外國ニ於テ爲スヘキハ事情ニ應シテ時間

ヲ定ムヘキナリ(訴第三七七)

當事者ハ通常ノ裁判日ニ於テハ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出

頭シ訴訟ニ付キ辯論ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ訴ハ提起ハ口頭ノ演

述ヲ以テ之ヲ爲スモノトス(訴第三七八)

數箇ノ妨訴ノ抗辯ハ裁判所管轄區ノ抗辯ニ限り本案ノ辯論前同時ニ

提出スルコトヲ得其他ノ妨訴ノ抗辯ハ此抗辯ノ爲メ本訴ノ辯論ヲ拒ム

ノ權利ナシ然レモ裁判所ハ職權ヲ以テ右抗辯ニ付キ分離シタル辯論

ヲ命スルコトヲ得ルナリ(訴第三七九)

訴訟法第二百二十二條ニ定ムル判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ハ書面ニ

基キ之ヲ爲スヲ要スルコト若シ之ヲ爲サルハ申立ナキモノ看做

ストノ規定及ヒ第二百六十六條乃至第二百七十二條ニ規定セル計算

事件財産分別及ヒ此ニ類スル訴訟ノ準備手續ハ區裁判所ノ訴訟手續

ニ之ヲ適用セサルモノトス(訴第三八〇第一一)

然レモ原告若クハ被告ノ申立及ヒ陳述ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ訴訟關

係ヲ十分明カナラシムル爲メ必要ナルモノニ限り調書ニ錄取シテ之

ヲ明確ナラシムヘキモノトス(訴第三八〇第二)

訴ヲ起サントスル者ハ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出スヘキコトヲ申立ツルヲ得其申立ハ書面(第四十二號書式參看)又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ得(訴

第三八一第一

當事者双方出頭シテ和解ノ調ヒタル片ハ調書ニ錄取シテ之ヲ明確ナラシムヘシ之ニ反シ和解ノ調ハサル片ハ當事者双方ノ申立ニ因リ其訴訟ニ付キ直チニ辯論ヲ爲ス此場合ニ於ケル訴ノ提起ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲スモノトス(訴第三八一第三)

相手方カ出頭セス又ハ和解ノ調ハサル片ハ此カ爲メ生シタル費用ハ訴訟費用ノ一分ト看做スヘキナリ(訴第三八一第四)

第二節 督促手續

督促手續ハ争ナキ請求ニ付キ最も簡易ニシテ且多額ノ費用ヲ要セサ

ル方法ヲ以テ終局セシメ得ル手續トス該手續ハ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付テノミ之ヲ許スモノトス然レモ申請者反對給付ヲ爲スニアラサレハ其請求ヲ主張スルヲ得サル片又ハ支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲スヘキトキハ督促手續ヲ許サ、ルモノトス(訴第三八二)

督促手續ハ區裁判所ノ第一審ノ事物ノ管轄ノ制限ヲ問ハス通常ノ訴訟手續ニ於ケル提起ニ付キ普通裁判籍又ハ不動産上裁判籍ノ属スヘキ區裁判所ノ管轄ニ專屬ス而シテ支拂命令ハ區裁判所之ヲ發ス(訴第三八三)

支拂命令ヲ發スルコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヲ得此申請ニハ左ノ諸件ヲ具備スルヲ要ス(訴第三八四)(第四十三號書式參看)

第一 當事者及ヒ裁判所ノ表示

第二 請求ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示若シ請求ノ數箇ナルハ其各箇ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因ノ表示

第三 支拂命令ヲ發センコトノ申立

右ノ申請アリタルハ裁判所ハ職權ヲ以テ其申立ハ前項ノ要件ニ適當スルヤ否ヤヲ調査スルモノトス苦シ其申請ニシテ前項ノ要件ニ適當セス又ハ申請ノ旨趣ニ於テ請求ノ理由ナク又ハ現時理由ナキコトノ顯ハレサルハ其請求ヲ却下ス又請求ノ一分ノミニ付キ支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルハ亦其申請ヲ却下スヘシ然レモ數箇ノ請求中或ルモノニ理由ナクシテ其他ノモノニ理由アリト見ユルハ其理由アリト見ユルモノニ限り申請ヲ許容スヘキモノトス（申請ヲ却下スル命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レモ通常ノ訴訟手續ニ依リ訴訟スルヲ妨グルコトナシ）（訴第三八六）

申請ニシテ適法ノモノトスルハ裁判所ハ債務者ヲ審訊セスシテ直チニ支拂命令ヲ發スヘシ該命令ニハ當事者ノ氏名及ヒ裁判所ノ名稱、請求ノ一定ノ數額、目的物及ヒ其原因（若シ請求ノ數箇ナルハ其各箇ノ一定ノ數額、目的物及ヒ原因）等ノ外尙ホ命令送達ノ日ヨリ十四日ノ期間内此期間ハ爲替ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日迄ニ短縮スルヲ得）ニ請求ヲ満足セシメ及ヒ其手續ノ費用ニ付キ定ムル數額ヲ債權者ニ辨濟ス可ク又ハ裁判所ニ異議ヲ申立ツヘク若シ之ヲ爲サ、ル於テハ直チニ強制執行ヲ爲スヘキ旨ヲ記載スヘキモノトス（第四十四號書式參看）（訴第三八六）支拂命令ヲ債務者ニ送達シタルハ權利拘來ノ効力ヲ生スルモノトス（支拂命令ヲ債務者ニ送達シタルハ裁判所ハ其書ヲ債務者ニ通知スヘシ）債務者ハ執行命令ノ發行アルマテハ支拂命令ニ對シ異議申立ツルコトヲ得此異議ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得（第四十五號書式參看）（訴第三八八）

請求ノ全部又ハ一部ニ對シ適當ナル時間ニ異議ヲ申立ツルハ支拂命令ハ其效力ヲ失フモ權利拘束ノ效力ハ繼續スルモノトス(訴第三八九第一數箇ノ請求中或ルモノニ對シ異議ヲ申立テタルハ支拂命令ハ其請求及ヒ之ニ相當スル費用ノ部分ニ付效力ヲ有ス(訴第三八九第二)其後ノ手續ハ裁判所ノ權限ニ付テ一般ノ規定ニ從ヒ請求物件ノ區裁判所ノ管轄ニ屬スルト地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトニ依リ異ナルモノトス該物件區裁判所ノ管轄ニ屬スルハ其訴ハ支拂命令ヲ下付シタル區裁判所ニ於テ通常手續ニ從ヒ繼續スルモノトス而シテ支拂命令ノ送達ハ訴ノ提起ト看做スヘキモノニシテ而シテ口頭辯論ノ期日ハ命令送達ノ日ヨリ三日ノ時間ヲ存スルヲ要ス(訴第三九〇)之ニ反シ該物件地方裁判所ノ管轄ニ屬スルハ適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタルヲ債權者ニ通知ス債權者ハ其通知ノ送達アリタル日ヨリ一ヶ月ノ期間内ニ管轄地方裁判所ニ別段ノ訴訟ヲ提起スヘシ若シ

之ヲ爲サ、ルニ於テハ權利拘束ノ效力ヲ失フモノトス(訴第三九一)適當ナル時間ニ異議ノ申立アリタル場合ニ於テハ督促手續ノ費用ハ起スヘキ訴訟ノ費用ノ一分ト看做ス若シ其期間内ニ訴ヲ起サ、ルハ手續ノ費用ハ債權者ノ負擔ニ歸スヘキナリ(訴第三九二)

支拂命令ニ掲ケタル期間經過スルモ異議ノ申立アラサルハ債權者ハ假執行ノ宣言アラシテ申請スルヲ得(第四十六號書式參看此申請アリタルハ裁判所ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル執行命令ヲ下付スルモノトス其命令ニハ債權者ニ於テ計算スル手續ノ費用ヲ掲クルモノトス若シ裁判所ニ於テ此申請ヲ不合法ナリトスルハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルヲ得(此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スヲ得ルナリ)(訴第三九三)

執行命令ハ法律上假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ト同一ナリトス故ニ欠席判決ニ對シテ爲ス所ノ故障ヲ申立テ以テ其命令ヲ取消サシ

ムルコトヲ得(第四十七號書式參看)督促手續ニ係ル事件ニシテ區裁判所ノ管轄ニ屬スルハ區裁判所ハ一般ノ手續ニ從ヒ故障ノ許否ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲナスヘキノミナラス又直ニ本案ニ付テモ辯論及ヒ裁判ヲナスヘキナリ故ニ此場合ニ於テハ故障ヲ爲スモノハ本案ノ口頭辯論ノ爲メ相手方ヲ呼出スヘキヲ申立ツルヲ得ヘシ之ニ反シ該事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルハ區裁判所ハ唯故障カ法律上ノ方式及ヒ期間ニ於テ申立テタルヤ否ヤノ點ノミニ付キ辯論及ヒ裁判ヲナスヘキナリ故ニ此場合ニ於テ故障ヲ爲スモノハ唯故障ノ許否スルニ付テノ辯論ノ爲メ相手方ヲ呼出スヲ申立ツルヲ得ヘシ故障ノ申立ヲ至當ナリト決定スルハ債權者ハ此判決ノアリタル日ヨリ一ヶ月間ニ管轄地方裁判所ニ訴ヘ出ツヘキナリ(訴第三九四)

第三編 上訴

第一章 控訴

控訴ハ都テ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテ之ヲ爲スヲ得(訴第三九六)然レハ區裁判所ノ判決ニ對シテハ地方裁判所ニ控訴シ又地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴院ニ控訴スルモノトス(第二七三七)中間判決證據方法及ヒ其他終局判決ニ先ダツ所ノ裁判ハ特別ニ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ得ス然レモ此等ノ裁判ハ終局判決ニ對シテ爲ス控訴ニ依リ自ラ控訴セラル、モノトス然レモ此等ノ裁判ニシテ原來不服ヲ唱フルヲ得サルモノ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ唱フルヲ得ルモノハ此限ニ在ラス(訴第三九七) 闕席判決ニ對シテハ故障ヲ許サル場合ニ限り其判決ヲ受ケタル者ヨリ控訴ヲ爲スヲ得又闕席判決ヲ爲スヘキ要件ノ存セサル場合ニ於テハ其理由ニ基キ控訴ヲ爲スヲ得ルナリ(訴第三九八) 控訴ノ取下ハ口頭辯論ニ着手スルマテハ被控訴人ノ承諾ナクシテ之ヲ爲スヲ得該取下ハ上訴權ヲ喪失スル結果ヲ生ス(訴第三九九)

控訴期間ハ一个月トス此期間ハ不變期間ニシテ判決ノ送達ヨリ起算
スルモノトス而シテ判決ノ送達前ニ控訴ヲ提起スルコトヲ得ス若シ之
ヲ爲スモ該控訴ハ無効トス控訴期間内ニ追加裁判ヲ以テ判決ヲ補充
シタルキハ控訴期間ノ進行ハ追加裁判ノ送達ヨリ起算スルモノナリ
又最初ノ判決ニ對スル控訴ニ付テモ追加裁判ノ送達ヨリ起算スルモ
ノトス(訴第四〇〇)

控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スモノトス此控
訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス(控訴ノ提起アリタルキハ控訴裁
判所ノ書記ハ控訴狀ノ提出ヨリ二十四時間ニ第一審裁判所書記ニ訴訟録ノ送
付ヲ求ムヘキナリ)(訴第四三二)(訴第四〇二)(第四十八號書式參看)

第一 控訴セラルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シ控訴ヲ爲ス者ノ陳述

此他控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作ルヘキモ

ノニシテ且判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナリヤ及ヒ判決ニ付
キ如何ナル變更ヲ爲スヘキヤノ申立ヲ掲ケ若シ新ニ主張セントスル
事實及ヒ證據方法アルキハ其新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲記スヘキ
モノトス

判然許スヘカラサル控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期
間ノ經過後ニ起シタル控訴ハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下スルモノ
トス(此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ルナリ)(訴第四〇二)
控訴辯論ノ期日及ヒ答書ノ期間ハ第一審ニ於ケル期間ニ同シ即チ控
訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニハ二十日ノ期間ヲ存スルコトヲ
要ス若シ外國ニ關係スルキハ裁判所ハ相當期間ヲ定ム又其答辯書ヲ
差出スヘキ期間ハ十四日ナリトス然レモ此期間ハ申立ニ因リ裁判長
之ヲ伸縮スルコトヲ得ヘシ(訴第四〇三)

控訴ノ答辯書ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且被

控訴人ノ一定ノ申立及ヒ其主張セントスル新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲記スヘキモノトス(第四十九號書式參看)訴第四〇三)

附帶控訴ハ其主タル控訴ノ起レル間ハ何時ニテモ之ヲ爲スコヲ得ヘシ然レハ例ヒ一旦控訴ヲ拋棄シタル片又ハ控訴期間ノ經過シタル片ト雖モ附帶控訴ヲ爲ニ妨ケアルコトナシ(訴第四〇五第一)附帶控訴ハ必スシモ別ニ控訴狀ヲ作ルニ及ハス答辨書ヲ以テ之ヲ爲スコヲ得ルナリ附帶控訴ハ主タル控訴ノ起レル間之ヲ提起スルヲ得ルモノナレハ其主タル控訴ニシテ消滅スル片ハ附帶控訴モ亦自ラ消滅スルモノナリ故ニ左ノ場合ニ於テハ附帶控訴ハ其效力ヲ失フモノトス(訴第四〇六)

第一 控訴ヲ不合法トシテ判決ヲ以テ棄却シタル片

第二 控訴ヲ取下ケタル片

然レモ被控訴人カ控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタル片ハ獨立ノ控訴ヲ爲シタルト看做スヘキナリ

右ノ外本章ノ規定ニ依リ差異ノ生セサル限りハ控訴手續ニ付地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ準用スルモノトス(訴第四〇八)

當事者ノ双方ヨリ控訴ヲ起シタル片ハ其兩控訴ニ付辨論及ヒ裁判ヲ同時ニ爲スヲ以テ通例トス(訴第四〇九)

控訴裁判所ニ於ケル訴訟ハ不服ノ申立ニ因リ定マリタル範圍内ニ於テ更ニ之ヲ辨論スルモノナリ(訴第四一一)

口頭辨論ハ其期日ニ於テ被控訴人ノ控訴期間ノ未タ經過セサル片ハ其申立ニ因リ期間ノ滿了マテ之ヲ延期ス又欠席判決ヲ受ケタル原告若クハ被告ヨリ其決判ニ對シ故障ヲ申立テ相手方ヨリ訴ヲ起シタル片ハ控訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ故障ノ完結マテ職權ヲ以テ之ヲ延期スルモノトス(訴第四一〇)

當事者ハ其控訴ノ申立及ヒ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ當否ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル限リハ口頭辨論ノ際第一審ニ於ケル辯論ノ